



高松市美術館／高松市塩江美術館
年報 ANNUAL REPORT

／ 平成 23(2011) 年度 ／ 平成 24(2012) 年度 ／ 平成 25(2013) 年度

目次

高松市美術館

- 004 平成23(2011)年度
- 027 平成24(2012)年度
- 052 平成25(2013)年度

高松市塩江美術館

- 077 平成23(2011)年度
- 086 平成24(2012)年度
- 094 平成25(2013)年度

参考資料

- 101 施設概要・組織図
- 101 高松市美術館条例
- 103 高松市塩江美術館条例
- 105 沿革

- 107 高松市美術館友の会

凡例

収集作品のデータは、原則として以下の通りに記した。

収集区分(購入、寄贈、寄託)

分類(平面、映像、立体、工芸・漆工、工芸・金工)

作家名(50音順)

作品名

制作年

技法・材質

寸法(平面=縦×横／立体=高さ×幅×奥行き、高さ×直径の順)

高松市美術館

／ 平成23(2011)年度

／ 平成24(2012)年度

／ 平成25(2013)年度

1. 展覧会

(1) 特別展



トリック・アートの世界展 視覚の迷宮へようこそ!

会期 2011年4月15日(金)～5月29日(日)
 月曜日休館(5月2日は開館)40日間
 主催 高松市美術館 読売新聞社 美術館連絡協議会
 RNC西日本放送
 協賛 ライオン 清水建設 大日本印刷 損保ジャパン
 入場料 一般1,000円 大学生500円 高校生以下無料
 入場者数 26,443人
 担当学芸員 牧野裕二

人は、五感の中でもとくに視覚に頼りがちですが、見誤り、思い込みなど、視覚は実にだまされやすく、あてになりません。そこに目をつけた画家たちは古今東西、さまざまな「だまし絵」を手がけ、見る者をあざむき、楽しませてきました。そうした視覚へのあくなき挑戦は、現代にも引き継がれ、現代アートならではの多彩なトリック・アート作品が生み出されています。

本展覧会は、高松市美術館と他館のコレクションからトリック的な視覚上の仕掛けを施した現代美術作品のかずかずをご紹介しますので、これまで全国11会場を巡回し、延約30万人の入場者数を記録し人気を博した話題の展覧会「トリック・アートの世界展」を高松スペシャル・バージョンとして、出品作品を追加するなど、ボリュームアップして開催しました。

巡回会場＝高崎市美術館、北九州市立美術館、川崎市立美術館、豊橋市美術館、北海道立釧路芸術館、三重県立美術館、ふくやま美術館、損保ジャパン東郷青児美術館、長野県信濃美術館、宮城県立美術館、八戸市美術館、高松市美術館

- ・巡回作品65点(展覧会図録参照)
- ・高松追加出品作品7点(以下の通り)

八木一夫《素因の中の訴因》1969年、四宮金一《Room82 変形していく部屋》1985年、ヨシダミノル《JUST CURVE'67 Cosmoplastic》1967、いずれも高松市美術館蔵／亀井洋一郎《Lattice receptacle 陰影の諧調》2005年、同《Lattice receptacle 三つの立方体》2005年、南正邦《中2階円柱のための平面アナモルフォーシス「扇の魚が直行グリッドと魚に」》2011年、同《中2階円柱のための立体アナモルフォーシス「バナナ形が球形と直行グリッドに」》2011年、いずれも作家蔵

特別企画「錯視ワンダーランド」

高松会場の独自企画として、目の錯覚である「錯視」を紹介するコーナーを設け、錯視図形パネルや「エイムズの部屋」を紹介しました。

協力：北岡明佳氏(立命館大学文学部教授・心理学専攻)

[関連イベント]

記念講演会1「錯視の楽しみ」

4月24日(日)14:00～15:30
 講師：北岡明佳(立命館大学教授)
 場所：講堂(聴講無料)
 参加人数：97人

記念講演会2

「おかけんたの“え～声”アート・トーク」
 5月1日(日)13:30～15:00
 講師：おかけんた(お笑いタレント／アート愛好家)
 場所：講堂(講演会)および2階展示室(ギャラリートーク)にて(ギャラリートークは観覧券要)
 参加人数：140人

ギャラリートーク(2階展示室／観覧券要)

当館学芸員による

4月23日(土)・5月21日(土)14:00～
 参加人数：延88人

美術館ボランティアcivi(シヴィ)による

会期中の日曜日および祝日(4月24日、5月1日を除く)
 11:00～、14:00～(計18回)
 参加人数：延500人

学校との連携企画

「マイ・トリック・アート・プロジェクト」

4月15日(金)～5月29日(日)
 中2階休憩スペースにおいて、中学生が制作したトリック・アート作品を紹介。会期中毎土曜日には高松北中学生等による鑑賞サポートを実施。
 参加者：香川県立高松北中学校・香川大学付属高松中学校・高松市立紫雲中学校の美術部員、個人2人

アートで遊ぼう! ☆

ワークショップ

「ボデゴン(鼻つき洋梨)をつくろう!」 ☆

子どものアトリエ

「アナモルフォーシス(ゆがみ絵)をつくろう!」 ☆

エントランス・ミニコンサート★

☆=教育普及の頁参照 ★=芸術的催物の頁参照



会場



エイムズの部屋



中2階会場(南正邦氏作品)



おかげんた氏によるトーク

[主な掲載記事]

- ・香川こまち4月号3月20日
「みんなで謎解きに挑戦。アートの迷宮に旅立とう！」
- ・広報たかまつ4月1日
- ・読売新聞4月13日「写真？だまし絵だ」
- ・読売新聞4月15日「トリック発見 感動した」
- ・読売新聞4月16日「驚きトリック・アート」

- ・読売新聞5月1日・2日・3日・4日・5日(連載5回)
「トリック・アートの世界展から」牧野裕二(当館学芸員)
- ・読売新聞5月4日「1万人目 田中さん親子」
- ・四国新聞5月8日「「だます」現代美術」
- ・読売新聞5月16日「マイ鼻型取ってみた」
- ・読売新聞5月20日「トリック・アート展入場2万人」
- ・読売新聞5月30日「トリック・アート展閉幕」

[図録]

編集：大野俊治(豊橋市美術博物館)、丸地加奈子(豊橋市美術博物館)、毛利伊知郎(三重県立美術館)、原舞子(三重県立美術館)、谷藤史彦(ふくやま美術館)、平泉千枝(ふくやま美術館)、川西弘一(高松市美術館)、牧野裕二(高松市美術館)
 発行：美術館連絡協議会
 仕様：21.0×17.0cm、118頁
 内容：ごあいさつ=主催者/論考=「名画と遊ぶ?—福田美蘭と《ラス・メニーナス》—」加藤哲弘(関西学院大学教授)、「トリック・アート概論」川西弘一(高松市美術館)/カタログ=Ⅰ.虚と実とめぐって、Ⅱ.オプ・アートとライト・アート、Ⅲ.スーパー・リアリズム、Ⅳ.古典絵画をめぐって/作家解説/知られざる現代美術コレクション—高松市美術館/出品作品リスト



追悼人間国宝 三代徳田八十吉展 ～煌めく色彩の世界～

会期 2011年6月4日(土)～7月10日(日)
 月曜日休館 32日間
 主催 高松市美術館 朝日新聞社
 後援 石川県 小松市 加賀市 能美市 NHK高松放送局
 入場料 一般1,000円 大学生500円 高校生以下無料
 入場者数 3,751人
 担当学芸員 川西弘一

三代徳田八十吉(1933-2009)は、石川県小松市の九谷焼窯元に生まれ、「上絵付(九谷)」で、国の無形文化財に指定された祖父・初代八十吉からは古九谷釉薬を、父・二代八十吉からは、富本憲吉直伝の現代陶芸を学びました。三代八十吉は、伝統的な九谷焼の色絵技法に飽き足らず研究を重ね、徳田家に伝わる古九谷五彩のうち、ガラス成分のない赤を除いた紺、紫、緑、黄の4色の釉薬から200以上もの中間色を創り出し、独自のグラデーション表現

による彩釉磁器「耀彩(ようさい)」の焼成に成功しました。1997年には重要無形文化財「彩釉磁器」保持者(人間国宝)に認定されています。

本展では、代表作を中心に、修行時代に古九谷を模写した作品や、抽象表現の極限に挑んだ作者の代表作72点を展示しました。また、三代八十吉の色やデザインの根源である江戸時代初期の古九谷、後期の吉田屋や、初代、二代八十吉の作品21点もあわせ、計93点を紹介しました。

巡回会場=そごう美術館、兵庫陶芸美術館、高松市美術館、MOA美術館、茨城県陶芸美術館、小松市立博物館ほか

[関連イベント]

記念講演会「三代 徳田八十吉の陶芸」

6月4日(土)14:00～15:30
 場所：講堂(聴講無料)
 講師：乾由明(兵庫陶芸美術館館長・本展監修者)
 参加人数：100人

オープニングお茶会

6月5日(日)10:00～15:00
 場所：1階ロビー
 お茶券：500円
 参加人数：250人

ギャラリートーク(2階展示室/観覧券要)

当館学芸員による
 6月18日(土)・7月9日(土)各14:00
 参加人数：延75人
美術館ボランティアcivi(シヴィ)による
 会期中の日曜日 11:00～、14:00～(計12回)
 参加人数：延200人

ワークショップ「親子陶芸教室」☆

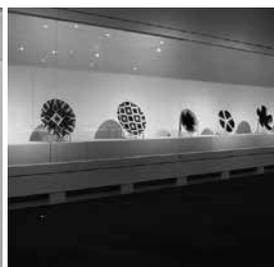
アートで遊ぼう!☆
エントランス・ミニコンサート★
 ☆=教育普及の頁参照 ★=芸術的催物の頁参照



四代 徳田八十吉氏による挨拶



乾由明氏講演会



会場



お茶会

[主な掲載記事]

- ・朝日新聞6月2日
- ・朝日新聞6月4日「色さえざえ魅了」鎌田悠(記者)
- ・朝日新聞6月5日「光ときめく出会い」吉田海将(記者)
- ・朝日新聞6月10日・11日・7月5日(連載3回)「三代徳田八十吉展 ～煌めく色彩の世界～」川西弘一(当館学芸員)
- ・四国新聞 6月16日

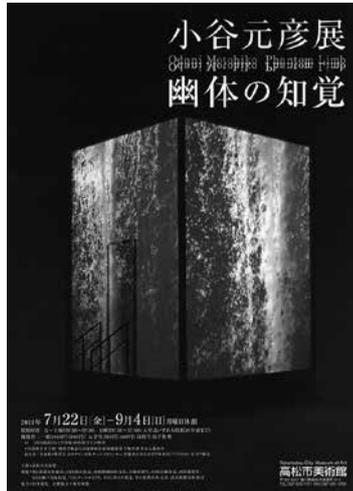
[図録]

編集：朝日新聞社企画事業本部文化事業部

発行：朝日新聞社

仕様：29.7×22.6cm、149頁

内容：ごあいさつ=主催者/論考=「三代 徳田八十吉の陶芸」乾由明(兵庫陶芸美術館館長)/図版/作品解説=私の歩んだ道・制作工程と色相について・日本伝統工芸展入選作品・海外美術館所蔵作品・関連地図 ゆかりの施設/論考=「九谷焼の流れ - 古九谷・再興九谷・明治以降 -」梶山博史(兵庫陶芸美術館主任学芸員)/三代徳田八十吉が語った「私の転機と作陶人生」/年譜/参考文献・参考映像/出品リスト



小谷元彦—幽体の知覚

会期 2011年7月22日(金)～9月4日(日)
 月曜日休館 39日間
 主催 高松市美術館
 後援 朝日新聞高松総局 OHK岡山放送 産経新聞高松支局
 山陽新聞社 RSK山陽放送 四国新聞社 KSB瀬戸内海放送
 TSCテレビせとうち RNC西日本放送 毎日新聞高松支局
 読売新聞高松総局
 協力 山本現代
 企画協力 森美術館
 入場料 一般1,000円 大学生500円 高校生以下無料
 入場者数 7,355人
 担当学芸員 毛利直子

小谷元彦(1972年-)は、痛みや恐怖などの身体感覚や精神状態をテーマに、見る者の潜在意識を刺激するような作品を制作します。毛髪を編んだドレスや拘束具をつけた動物、異形の少女、屍のような武者の騎馬像など、一つの解釈に帰着しえない多層的なイメージは、美と醜、生と死、聖と俗の境界線上で妖しい魅力を放ちます。

この展覧会では、10年以上にわたって発表されてきた小谷の初期作品から最新作までを一室に集めるほか、「映像彫刻」とも呼ぶべき体験型の大型映像インスタレーションを紹介しました。森美術館で開催後、大幅に再構成し、新作の大型映像インスタレーションを加えて、静岡県立美術館・高松市美術館・熊本市現代美術館を巡回。

[関連イベント]

アーティストトーク

7月23日(土)14:00～15:30
 講師：小谷元彦
 場所：講堂(聴講無料)
 参加人数：173人

ギャラリートーク(2階展示室／観覧券要)

当館学芸員による

8月13日(土)・27(土)各14:00～
 参加人数：延76人

美術館ボランティアcivi(シヴィ)による

会期中の日曜日 11:00～、14:00～(計14回)
 参加人数：延323人

ワークショップ「美術館にドラゴン出現!!」☆

子どものアトリエ
 「じかんを絵にしよう!」「白い空気をつくろう!」☆
 子どものアトリエ
 「イカの甲からイカしたアクセサリーを作ろう!」☆
 子どものアトリエ
 「みんなちがう自分の手の地図を作ろう!」☆
 学生ボランティアcimi(シミー)による
 番外編アートで遊ぼう!☆
 美術館の日☆
 エントランス・ミニコンサート★
 ☆=教育普及の頁参照 ★=芸術的催物の頁参照



開展式で挨拶する小谷元彦氏 会場：Hollowシリーズ



会場：Terminal Documents(2011)

[主な掲載記事]

- ・読売新聞 1月27日「身体感覚とつながる彫刻」
- ・高松リビング新聞 7月9日
- ・広報たかまつ 7月15日
- ・四国新聞 8月7日「痛い、怖い…意識をえぐる彫刻」
- ・山陽新聞 8月22日「“幽体”を視覚化 彫刻の概念超す」

[図録]

編集：荒木夏実、佐々木瞳、小山田洋子(森美術館)、阿部謙一
 発行：株式会社美術出版社
 仕様：29.7×22.3cm、191頁
 内容：ごあいさつ／エッセイ「ファントムを探して」荒木夏実(森美術館)、「反重力のイリュージョンを創るための方法と手段」毛利義嗣(高松市塩江美術館)、「小谷元彦と日本の彫刻」川谷承子(静岡県立美術館)、「小谷元彦：霊性なる触覚空間」芦田彩葵(熊本市現代美術館)／作品図版／作品リスト／年譜／文献

「小谷元彦 幽体の知覚」インスタレーションビュー

編集：毛利直子、毛利義嗣、福田千恵
 発行：高松市美術館 仕様：29.7×20.9cm、6頁 内容：図版／作家の言葉／作家略歴



リサとガスパールシリーズ日本語版刊行10周年記念 リサとガスパール&ペネロペ展

会期 2011年9月13日(火)～10月16日(日)
月曜日休館
(ただし、9月19日(月・祝)、10月10日(月・祝)は開館、
9月20日(火)、10月11日(火)は休館) 30日間

主催 高松市美術館 読売新聞社 美術館連絡協議会
協力 ブロンズ新社 岩崎書店 白泉社/MOE
ソニー・クリエイティブプロダクツ 日本アニメーション ANA
協賛 ライオン 清水建設 大日本印刷 損保ジャパン
企画協力 渋谷出版企画
With the cooperation of Hachette Livre / Gallimard Jeunesse

入場料 一般1,000円 大学生500円 高校生以下無料
入場者数 8,237人
担当学芸員 三宅靖之

「リサとガスパール」シリーズの日本語版刊行10周年を記念して2010年より全国を巡回したもので、「リサとガスパール」および「ペネロペ」シリーズの原画や制作資料約200点を展示いたしました。

巡回会場＝東京・松屋銀座、高島屋大阪店、高島屋京都店、奥田元宗・小由女美術館、ジェイアール名古屋タカシマヤ、そごう神戸店、そごう横浜店、郡山市立美術館、高松市美術館

[関連イベント]

トークショー「絵本の楽しみ、ことばの楽しみ」

10月9日(日)13:00～14:30
講師：石津ちひろ(絵本作家・翻訳家)
場所：講堂(聴講無料)
参加人数：40人

ギャラリートーク(2階展示室/観覧券要)

当館学芸員による
9月17日(土)・10月1日(土)14:00～
参加人数:延47人

リサとガスパールといっしょに撮影会

(2階展示室前/観覧券要・整理券要)
会期中の毎週日曜日・祝日開催
11:00～11:30 / 13:00～13:30(10/16は午前のみ)
参加人数：延340人

ワークショップ

「オリジナルキャンドルをつくろう!」☆
子どものアトリエ「かくれんぼ仕掛け絵本」☆
エントランス・ミニコンサート★
おやこミュージアムコンサート★
☆＝教育普及の頁参照 ★＝芸術的催物の頁参照



開展式



会場



石津ちひろ氏トークショー



撮影会

[主な掲載記事]

- ・広報たかまつ9月1日
- ・読売新聞 9月11日「ようこそ 仏・絵本の人気者」
- ・読売新聞 9月14日「リサとガスパール&ペネロペ展開幕」
- ・読売新聞 9月19日「「リサとガスパール展」撮影会」
- ・読売新聞 9月20日・21日・22日(連載3回)「リサとガスパール&ペネロペ展」新谷麻佐子(フリーランス編集者)
- ・香川こまち100号 9月20日
- ・ナイスタウン No.413 9月20日
- ・読売新聞 9月26日「リサとガスパール展 体験教室」

[図録]

編集：渋谷出版企画/柴田こずえ、吉本万哉
発行：読売新聞東京本社
仕様：23.5×23.3cm、131頁
内容：ごあいさつ＝主催者/図版/「ゲオルグ・ハレンスレーベンとアン・グットマン」/主要作品リスト

(2) 常設展

第1 期常設展

会期：2011年4月3日(日)～6月12日(日) 月曜日休館(5月2日開館) 62日間
 企画担当およびギャラリートーク(5月7日(土)14:00～) 牧野裕二
 入場者数 7,367人

展示室1

コラージュの諸相 Aspects of Collage

画面に絵具以外のものを貼り付けるコラージュの手法は、20世紀初頭にピカソやブラックが使い始めて以来、多様な展開をとげてきました。物質としての存在感を主張し、異質なもの同士の出会いを可能にするコラージュの手法は、表現の可能性を大きく切りひらき、多くのアーティストたちを魅了してきました。またその手軽さと魅力から、今日では子どもたちの図画における基本的な手法としても定着しています。このたびの展示では、戦後日本現代美術の中から、コラージュ及びコラージュ的手法による作品36点(16作家)をご紹介します。

[出品リスト]

No. 作家名/作品名/制作年/材質

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 荒川修作/1/2 INCH OF A CHAIN OF CONFUSION / 1962-63 / 油彩・キャンバス、ミクストメディア 2. 粟津 潔/友よ / 1969 / オフセット、シルクスクリーン・紙 3. 粟津 潔/華岡青洲の妻 / 1970 / オフセット、シルクスクリーン・紙 4. 粟津 潔/第5回現代日本彫刻展 / 1973 / オフセット、シルクスクリーン・紙 5. 粟津 潔/ POSTER NIPPON / 1972 / オフセット、シルクスクリーン・紙 6. 粟津 潔/第6回現代日本彫刻展 / 1975 / オフセット、シルクスクリーン・紙 7. 粟津 潔/飢餓海峡 / 1977 / オフセット、シルクスクリーン・紙 8. 大竹伸朗/車窓 / 2000-01 / プリント、アクリル絵具、布、紙、アルミ 9. 岡崎乾二郎/斧を磨いて針にする / 1986 / 綿布、絹、アクリル板 10. 桂 ゆき/作品 / 1961 / 油彩・キャンバス 11. 桂 ゆき/鼻 / 1967 / コラージュ、油彩・キャンバス 12. 桂 ゆき/作品 / 1978 / コルク・板 13. 兎頭健吾 / cosmic dust / 2002 / 油彩、アルミニウムパウダー・キャンバス 14. 木村光佑 / 現在位置-存在(C) / 1971 / リトグラフ・シルクスクリーン 15. 木村光佑 / 現在位置-フレーミング(A) / 1971 / リトグラフ、シルクスクリーン 16. 木村光佑 / 現在位置-フレーミング(B) / 1971 / リトグラフ、シルクスクリーン 17. 草間彌生 / Airmail Accumulation / 1961 / コラージュ・紙 18. 草間彌生 / Untitled / 1961 / コラージュ・紙 | <ol style="list-style-type: none"> 19. 篠原有司男 / ビストル・オン・エアメール / 1964 / シルクスクリーン・紙 20. 清水 晃 / 色盲検査表 No.15 / 1963 / 油彩、コラージュ・キャンバス 21. 清水 晃 / 色盲検査表 No.16 / 1963 / 油彩、コラージュ・キャンバス 22. タイガー立石 / 立石統一のような / 1964 / 水彩・紙・パネル 23. タイガー立石 / 哀愁列車 / 1964 / 油彩・キャンバス 24. タイガー立石 / 東京パロック / 1963-64 / 油彩・キャンバス 25. 福田美蘭 / Sight-Seeing / 1990 / アクリル・キャンバス 26. 村上善男 / Polymerization-N. V(W)の場合または腔内弾道学 / 1963-64 / ミクストメディア・板 27. 村上善男 / Polymerization-N. V(W)の場合または腔内弾道学 / 1963-64 / ミクストメディア・板 28. 横尾忠則 / TADANORI YOKOO / 1965 / シルクスクリーン・紙 29. 横尾忠則 / 澁澤さんちの家の方へ / 1965 / シルクスクリーン・紙 30. 横尾忠則 / 切断された小指に捧げるバラード / 1966 / シルクスクリーン・紙 31. 横尾忠則 / 腰巻お仙 / 1966 / シルクスクリーン・紙 32. 横尾忠則 / 新宿泥棒日記 / 1968 / シルクスクリーン・紙 33. 横尾忠則 / 歌舞伎 椿説弓張月 / 1969 / シルクスクリーン・紙 34. 吉仲太造 / 釘 E' / 1963 / 釘、綿、ボタン、新聞紙、砂、油彩・板 35. 依田順子 / The Ocean / 1986 / アクリル・和紙・ボード 36. 依田順子 / Untitled #M-13 / 1993 / アクリル・和紙・ボード |
|---|--|

展示室2

蒔醤の系譜 Genealogy of Kinma

蒔醤とは、漆塗りの面に剣で文様を彫り、その凹みに色漆を埋めて研ぎだす技法です。わが国では、江戸時代末に高松にあらわれた讃岐漆芸の祖、玉楮象谷が南方渡来の籃胎(らんたい)漆器を摸して作り始めましたが、その技法は数々の名工によって引き継がれています。なかでも讃岐漆芸中興の祖とも称される磯井如真は、凸版写真印刷からヒントを得た「点彫り蒔醤」を創案し、昭和31(1956)年重要無形文化財蒔醤保持者(人間国宝)に認定されました。また、如真の三男である磯井正美は、均一の平面に斑文を生じさせる独自の蒔醤技法などにより、昭和60(1985)年重要無形文化財蒔醤保持者に認定されました。さらに、太田儔は、籃胎を素地とした「布目彫り蒔醤」により、平成6(1994)年重要無形文化財蒔醤保持者に認定されました。

このたびの展示では、玉楮象谷、磯井如真、磯井正美、太田儔ら9作家による作品31点を通して、讃岐漆芸を代表する技法のひとつである蒔醤の魅力を探りました。

[出品リスト]

No. 作家名/作品名/制作年/材質はすべて漆

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. タイ製/金馬 茶箱 2. タイ製/木無満飯籠 3. ミャンマー製/蒔醤懸子付盒子 4. 玉楮象谷/彩色蒔醤 水指棚 / 1853 5. 玉楮象谷/印笥 6. 玉楮雪堂/蒔醤文庫 / 1897頃 7. 磯井如真/蒔醤 香盆 密竹之圖 / 1943頃 8. 磯井如真/蒔醤 茶入 竹林 9. 磯井如真/蒔醤香盆 瑞鳥 / 1947頃 10. 磯井如真/乾漆 蒔醤水指 瀬戸内海之圖 / 1949 11. 磯井如真/蒔醤 筆筥 銀葉アカシヤ之圖 / 1957 12. 磯井如真/蒔醤 香盆 洋蘭之圖 / 1957頃 13. 磯井如真/蒔醤 干菓子盆 遊鳥之圖 / 1963 14. 岡田章人/蒔醤雪柳之圖手箱 / 1947 15. 磯井正美/蒔醤 月あかり食籠 / 1973 | <ol style="list-style-type: none"> 16. 磯井正美/蒔醤存清 備讃瀬戸 箱 / 1982 17. 磯井正美/蒔醤 清明 盛器 / 1988 18. 磯井正美/蒔醤 むらさき箱 / 1990 19. 磯井正美/蒔醤 紫 水指 / 1990 20. 磯井正美/蒔醤 五友文 盛器 / 1997 21. 太田 儔 / 籃胎蒔醤 食籠 朱と白 / 1990 22. 太田 儔 / 籃胎蒔醤 双色紙箱 豊寿喜 / 1992 23. 太田 儔 / 籃胎蒔醤 双短冊箱 豊寿喜之圖 / 1992 24. 太田 儔 / 籃胎蒔醤 短冊箱 夏ぐみ / 1996 25. 太田 儔 / 籃胎蒔醤箱 赤い貝殻 / 2002 26. 太田加津子 / 籃胎蒔醤 盛器 草花文 / 1983 27. 太田加津子 / 籃胎蒔醤 盛器 波文 / 1986 28. 山下義人 / 蒔醤色紙箱 波がさね / 1988 29. 山下義人 / 蒔醤箱 くれない / 2005 30. 大谷早人 / 籃胎蒔醤 文箱 / 1989 31. 大谷早人 / 籃胎蒔醤箱 網代文 / 1997 |
|---|---|

第2 期常設展

会期：2011年6月16日(木)～8月21日(日) 月曜日休館(7月18日開館、7月19日休館)
58日間
企画担当及びギャラリートーク(7月2日(土)14:00～) 毛利直子
入場者数 4,473人

展示室1

こぼれる光のなかで In the Softly Falling Light

今から60年ほど前の1953(昭和28)年のこと。高松出身の画家木村忠太は、オランダ船で横浜を出港し、2ヶ月かけてマルセイユに到着するとパリに居を定めました。以来亡くなる1987(昭和62)年までフランスに留まり、制作の中心を光にすえ描き続けました。「内なる光」を生み出した木村忠太の世界は、最近の美術傾向のひとつとなる「光」を孤高に追求し続けたものであり、今もって絵画や光に対する深遠なる問いかけとも言えます。本展覧会では、木村忠太と戦後生まれの作家11人による作品計14点により、現代美術における「光」の表現をご紹介します。

[出品リスト]

No. 作家名/作品名/制作年/材質

- | | |
|--|---|
| 1. イケムラレイコ / Pacific Red / 2006 / 油彩・キャンバス | 9. 小林孝亘 / Forest / 2001 / 油彩・キャンバス |
| 2. 石田尚志 / REFLECTION / 2009 / HDcam | 10. 杉本博司 / U.A. リトルネック、ニューヨーク / 1976 /
ゼラチンシルバープリント |
| 3. 大竹伸朗 / ジャリおじさんと女たち / 1992 / グアッシュ・紙 | 11. 西山美なコ / Untitled / 2007-08 / MDFボードに
アクリルウレタン塗装・アクリル絵具 |
| 4. 大竹伸朗 / ジャリおじさんと時間 / 1993 / 油彩・紙 | 12. 東恩納裕一 / untitled(FL.120-06) / 2010 / スプレーペイント・
キャンバス |
| 5. 大竹伸朗 / UBU / 1994 / 染料・綿布 | 13. 丸山直文 / bees & wind / 2006 / アクリル・綿布 |
| 6. 押江千衣子 / ツツク / 1997 / 油彩・オイルパステル・
キャンバス | 14. 横内賢太郎 / Book-SOTH IFCF / 2008 / メディウム・染料・
胡粉・サテン布 |
| 7. 木村忠太 / グラス郊外 / 1975 / 油彩・キャンバス | |
| 8. 木村忠太 / デッサン(風景) / 1971-82 / 鉛筆・紙 | |

展示室2

彫漆—魅惑の挑戦 Choshitsu: A Fascinating Challenge

彫漆は、漆を何十回、何百回と塗り重ねて厚い層をつくり、それに模様を彫っていく技法です。中国の宋、元時代の堆朱、堆黒などに起源が求められるこの彫漆技法を研究し、特産品として完成させたのが、江戸時代末期、高松藩に仕えた「讃岐漆芸の祖」玉椿象谷でした。その後、明治末頃には、讃岐漆器と讃岐彫の店「百花園」とその周辺で、石井馨堂、高橋皖山、鎌田稼堂らが研鑽しあい、緻密で優れた意匠の彫漆作品を生み出しました。そして、馨堂の一番弟子となった音丸耕堂は豊かな色漆を駆使し、大胆なデザインの世界を制作し、1955年重要無形文化財「彫漆」保持者に指定された音丸には、後に中島光夫、北岡省三、石原雅員らが師事し、彫漆表現の可能性を広げています。また、音丸に続き、翌1956年に重要無形文化財「蒔罨」保持者に認定された磯井如真は、1934(昭和9)年に「工会(たくみかい)」を結成し、谷沢不二松、岡田章人、横山操らと共にアール・デコや構成主義の影響を受けたモダンな彫漆作品を制作しました。象谷が考案した彫漆の誕生からおおよそ150年、讃岐漆芸における挑戦と魅惑の世界を14作家、32点の作品をお楽しみいただきました。

[出品リスト]

No. 作家名/作品名/制作年/材質はすべて漆

- | | |
|--|------------------------------|
| 1. 玉椿象谷 / 狭貴彫堆黒 松ヶ浦香合(隠し彫り：松、は、天) / 1851 | 17. 山下楊哉 / 彫漆色紙笥 |
| 2. 石井馨堂 / 堆朱蜀葵山鶴圖香盆 / 1910頃 | 18. 磯井如真 / 里芋之図 彫漆花瓶 / 1936 |
| 3. 石井馨堂 / 紅花緑葉 香合 | 19. 磯井如真 / 堆朱 香合 百合 / 1942 |
| 4. 森 象堂 / 堆黄菘葉花瓶 / 1920頃 | 20. 磯井如真 / 彫漆蒔罨色紙箱 / 1946 |
| 5. 高橋皖山 / 風月三昆 福祿寿圖 紅華緑葉香合 / 1919 | 21. 磯井如真 / 堆黒 香盆 麒麟之圖 / 1946 |
| 6. 鎌田稼堂 / 堆黒 旭海老 香合 | 22. 谷沢不二松 / 草花文 彫漆盆 / 1933 |
| 7. 音丸耕堂 / 彫漆七面鳥香盆 / 1928 | 23. 谷沢不二松 / 金魚文 彫漆鉢 / 1942 |
| 8. 音丸耕堂 / 堆漆菓子盆 / 1932 | 24. 岡田章人 / 彫漆鳳凰文鉢 / 1937 |
| 9. 音丸耕堂 / 彫漆双鯉之圖料紙箱 / 1934 | 25. 岡田章人 / 彫漆蒔罨華紋笥 / 1949 |
| 10. 音丸耕堂 / 彫漆月之花手箱 / 1942 | 26. 岡田章人 / 彫漆花鳥文笥 / 1965 |
| 11. 音丸耕堂 / 彫漆椿文手箱 / 1943 | 27. 横山 操 / 葉文 彫漆香盆 / 1933 |
| 12. 音丸耕堂 / 彫漆蘇鐵文食籠 / 1948 | 28. 横山 操 / 彫漆白い鳥八角香盆 |
| 13. 音丸耕堂 / 堆朱南瓜文色紙箱 / 1949 | 29. 中島光夫 / 堆漆合せ菱文 短冊箱 / 1992 |
| 14. 音丸耕堂 / 堆漆茶器 侘介文 | 30. 北岡省三 / 彫漆短冊箱 碧麗 / 1995 |
| 15. 音丸耕堂 / 彫漆八仙花 香合 | 31. 北岡省三 / 堆漆小箱「緑風」 / 1995 |
| 16. 山下楊哉 / 彫漆手管 菜花文 / 1954 | 32. 石原雅員 / 彫漆小筆笥 花苑 / 2004 |

第3期常設展

会期：2011年8月27日(土)～10月23日(日)月曜日休館
(9月19日、10月10日開館、9月20日、10月11日休館)50日間
企画担当及びギャラリートーク(9月24日(土)14:00～)川西弘一
入場者数 4,544人
*セント・ピーターズバーグ市姉妹都市提携50周年記念関連事業

展示室1

ダリとシュルレアリスム Dali and Surréalisme

1904年にスペインのフィゲラスに誕生したサルヴァドール・ダリは、1929年にアンドレ・ブルトン率いるシュルレアリスムの一員となり、卓抜した描写力と独自のイマジネーションにより生み出された作品によって、後期シュルレアリスムの代表的画家として活躍しました。シュルレアリスム(超現実主義)運動とは、第一次世界大戦の戦禍が残るパリで1924年に詩人アンドレ・ブルトンを中心とする若手芸術家たちによって始められました。彼らはフロイトの「精神分析」の理論をよりどころに、それまで非合理で無意味なものと考えられてきた夢や、無意識の中に人間の真実の姿を見出しました。

今回は、ダリとシュルレアリスムの作家あわせて7作家による版画作品15点と、期間限定により香川県立ミュージアム所蔵のダリの版画作品1点をご紹介します。

[出品リスト]

No. 作家名/作品名/制作年/材質

- | | |
|---|---|
| 1.サルヴァドール・ダリ/聖母受胎/1930/エッチング・紙 | 9.マックス・エルンスト/博物誌/1926/コロタイプ・紙 |
| 2.サルヴァドール・ダリ/見える女/1930/エッチング・紙 | 10.マックス・エルンスト/星型の城/1936/フロッターージュ
(彩色)紙 |
| 3.サルヴァドール・ダリ/マルドロールの歌/1934/エッチング・紙
*香川県立ミュージアム蔵、9月21日～10月23日展示 | 11.マックス・エルンスト/危険な照応/1947/ドライポイント・エッチング・紙 |
| 4.アンドレ・ブルトン/切り裂きジャック/1942/ミクストメディア・コラージュ | 12.マックス・エルンスト/百頭女/1929/コロタイプ・紙 |
| 5.イヴ・タンギー/棒占い/1947/エッチング、彩色モノタイプ・紙 | 13.マックス・エルンスト/カルメル修道院に入ろうとしたある少女の夢/1930/コロタイプ・紙 |
| 6.ジョアン・ミロ/岸壁の軌跡IV/1967/アクアチント・紙 | 14.マックス・エルンスト/慈善週間または七大元素/1934/コロタイプ・紙 |
| 7.ジョアン・ミロ/金色の羽をもつトカゲ/1971/リトグラフ・紙他 *9月19日まで展示 | 15.マン・レイ/ほこりの培養/1920/写真 |
| 8.マックス・エルンスト/太陽・都市の全景/1968/リトグラフ・紙 | 16.ルネ・マグリット/対蹠地の黎明/1966/エッチング・紙 |

展示室2

磯井如真の技と美 ISOI JOSHIN Technique and beauty

磯井如真は1883年愛媛県香川郡宮脇村(現：香川県高松市亀岡町)に生まれました。特に師匠をもたない如真は、江戸時代後期に活躍した、讃岐漆芸の開祖・玉楮象谷の作品を研究することからはじめ、象谷が確立した彫漆、蒔罫、存清など幅広い技法がそのまま如真の制作の領域となりました。1913年には凸版印刷からヒントを得た「点彫り蒔罫」を創案し、従来の線彫り蒔罫では表現しえなかった色の濃淡や奥行きを表現を可能としました。大正から昭和初期にかけては、漆芸品が造形美術の一部門であるという意識が高揚した時期でもあり、帝展入選を目指す若き漆芸作家たちが輩出されますが、如真はその中心的存在であり、以後、新文展、日展を舞台に独創的な作品を発表していきます。終生、高松で漆芸の近代化を確立したことから、讃岐漆芸の中興の祖と称され、1956(昭和31年)には国の重要無形文化財「蒔罫」の保持者に認定されています。

今回の展示では、磯井如真の初期から晩年に至る作品29点と期間限定により香川県立ミュージアム所蔵の作品2点をご紹介します。

[出品リスト]

No. 作品名/制作年/31を除き材質はすべて漆

- | | |
|---|------------------------|
| 1.草花文 乾漆花瓶/1930 | 16.乾漆花瓶/1944 |
| 2.彫漆草花文 鼓箱/1931
*香川県立ミュージアム蔵、9月21日～10月23日展示 | 17.彫漆蒔罫 色紙管 梅二八哥鳥/1946 |
| 3.里芋之図 彫漆花瓶/1936 | 18.堆黒香盆 麒麟之図/1946 |
| 4.乾漆 花瓶/1937 | 19.蒔罫香盆 瑞鳥/1947頃 |
| 5.蜻蛉之図 香盒/1937 | 20.寶玉筆筥/1947 |
| 6.小屏風朝/1939頃 *9月19日まで展示 | 21.乾漆 蒔罫水指 瀬戸内海之図/1949 |
| 7.鶴香合/1939 | 22.乾漆花器/1952 |
| 8.雉子香合/1940 | 23.乾漆花指/1952 |
| 9.雙色紙管 喜鵲之図/1941
*香川県立ミュージアム蔵、9月21日～10月23日展示 | 24.青銅塗花瓶/1955頃 |
| 10.堆黒香盒 秋趣競味 | 25.蒔罫香盆 密竹之図/1955 |
| 11.堆黒香盒 海幸之図/1941頃 | 26.蒔罫筆管 銀葉アカシヤ之図/1957 |
| 12.堆朱 雲鶴香盒 | 27.蒔罫香盆 洋蘭之図/1957頃 |
| 13.彫漆香盒 菜果之図/1940頃 | 28.飾棚 竹林之図/1958 |
| 14.蒔罫茶入 竹林 | 29.蒔罫干菓子盆 亀鶴松竹梅之図/1963 |
| 15.堆黒香盒 山野競味/1942 | 30.蒔罫干菓子盆 遊鳥之図/1963 |
| | 31.如真書色紙糺 |

第4期常設展

会期：2011年10月27日(木)～12月25日(日) 月曜日休館 52日間
企画担当及びギャラリートーク(12月3日(土)14:00～) 三宅靖之
ワークショップ「大切な記憶を描く」※教育普及の頁参照
入場者数 1,980人

展示室1

モノクローム —色彩の記憶— Monochrome —Memory of color—

私達は、生まれたその時から見るものはすべてカラーです。色による情報がイメージとして目の前に存在し、色から形を認識している事が多いのです。色はある意味、概念ではないでしょうか。このたびの展示では、色すなわち“概念”をモノクロームという手法により形にすることにより人間の持つ想像力や個人の記憶などを喚起していただき、見る人によって違う見え方、感じ方を作品から感じていただくとともに、作家が表現しようとしている感性を共感していただきました。岡田修二は、潜在的な記憶を呼び起こし、小川百合は、空間と時間の流れが表現されています。河口龍夫は、人間の潜在意識に問いかけ、山中信夫、森本洋充は、視点の変化やコントラストの対比を用いた非日常性を感じさせてくれます。このような色彩が存在しない表現手段から制作された5作家による作品42点をご紹介します。

[出品リスト]

No. 作家名/作品名/制作年/材質

- | | |
|---|--|
| 1. 岡田修二/水辺33 / 2006 / 油彩・キャンバス | 34. 森本洋充/Untitled(無題) / 1976 / 感光乳剤・鉛筆 |
| 2. 小川百合/ニューヨーク州、イサカ / 1993 / 黒色鉛筆・水彩紙 | 35. 森本洋充/Untitled(無題) / 1976 / 感光乳剤・鉛筆 |
| 3. 小川百合/ヘンリー・サザラン古書店、ロンドン / 1997 / 黒色鉛筆・水彩紙 | 36. 森本洋充/Untitled(無題) / 1978 / 感光乳剤・鉛筆 |
| 4. 小川百合/プレズノース・コレッジ図書館、オックスフォード / 2003 / 黒色鉛筆・水彩紙 | 37. 森本洋充/Untitled(無題) / 1979 / 感光乳剤・鉛筆 |
| 5.-30. 河口龍夫/陸と海 / 1970/1983 / ゼラチンシルバープリント | 38. 森本洋充/Elevator No.1 / 1976 / 感光乳剤・鉛筆 |
| 31. 森本洋充/Untitled(無題) / 1974 / 感光乳剤・鉛筆 | 39. 森本洋充/Elevator No.2 / 1979 / 感光乳剤・鉛筆 |
| 32. 森本洋充/Untitled(無題) / 1976 / 感光乳剤・鉛筆 | 40. 山中信夫/パリのカメラ・オブスクラ / 1982 / モノクロ写真、スチロールボード |
| 33. 森本洋充/Untitled(無題) / 1976 / 感光乳剤・鉛筆 | 41. 山中信夫/ある1つの点 NO.4 / 1981-82 / モノクロ写真・合板 |
| | 42. 山中信夫/ある1つの点 NO.5 / 1981-82 / モノクロ写真・合板 |

展示室2

存清を中心に —表現の魅力— Mainly on Zonsei —Charm of the expression—

讃岐漆芸といえば、現在では蒔髹、彫漆が主流となっていますが、明治時代には存清(存星)が讃岐漆器の代名詞でした。存清は、室町中期に中国から伝わり、江戸末期に高松の玉楮象谷が技法の研究を重ねて完成させました。その手法は、漆を塗り重ねた面に多彩な色漆で文様を描き、その輪郭や細部を鉤刀(存清用の彫刻刀)で線彫りして、彫り口の凹部には何も入れずに仕上げたものです。玉楮象谷の後、藤川家を継いだ象谷の弟藤川黒斎、黒斎の子秋郊等に技法は受け継がれました。しかし、存清は明治期に入ると業者の粗製濫造等が一因となり、明治末期には姿を消すこととなります。その後、昭和期に入ると存清の手法は、これを継承していた香川藻浦からその子香川宗石に受け継がれて再興されます。宗石は、ぼかしによる色彩の微妙な変化を生み出したり、色漆で文様部分を盛り上げる《肉上塗り》を取り入れ作品に立体感を生み出しました。1962年(昭和37年)に、香川県指定の無形文化財存清技術保持者に認定されました。

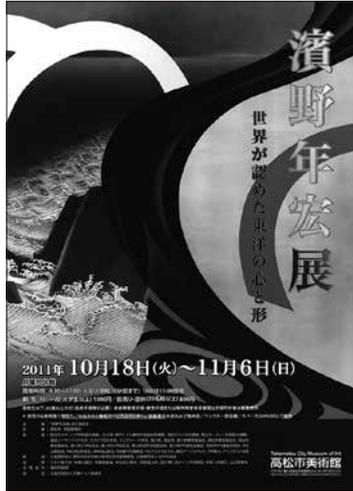
このたびの展示では、存清技法を中心に讃岐漆芸の祖・玉楮象谷から現代までの8作家の作品22点をご紹介します。

[出品リスト]

No. 作家名/作品名/制作年/材質はすべて漆

- | | |
|------------------------------|-------------------------|
| 1. 磯井如真/存清 六角香盆 / 1943 | 12. 玉楮象谷/残星 香盆 / 1842 |
| 2. 磯井如真/存清 六角香盆 下図 / 1943 | 13. 藤川黒斎/存清 宴盆 |
| 3. 磯井如真/宝玉筆筥 / 1947 | 14. 藤川黒斎/存清角膳 花鳥図 |
| 4. 磯井正美/蒔髹存清 萌芽水指 / 1976 | 15. 藤川黒斎/存清 菓子盆 |
| 5. 磯井正美/蒔髹存清 備讃瀬戸 箱 / 1982 | 16. 藤川黒斎/存清 花文鞍 |
| 6. 磯井正美/蒔髹存清 林間爽風箱 / 1987 | 17. 藤川黒斎/存清 盆 |
| 7. 太田 儔/藍胎存清 短冊箱 連翹之図 / 1987 | 18. 藤川黒斎/存清 香盆 |
| 8. 香川宗石/讃岐漆存清 花蝶紋色紙箱 | 19. 藤川秋郊/存清 卓子 |
| 9. 香川宗石/藍胎存清 盛器 | 20. 藤川蘭斎/存清 饌盒 |
| 10. 玉楮象谷/存清 網代杯 | 21. 藤川蘭斎/存清 重箱 |
| 11. 玉楮象谷/存清 蓮文盆 | 22. 作者不詳/存清 唐児遊香合 / 明時代 |

(3) 共催展



濱野年宏展 世界が認めた東洋の心と形

会期 2011年10月18日(火)～11月6日(日)
月曜日休館 18日間
主催 「濱野年宏展」実行委員会
共催 高松市、四国新聞社
後援 駐日スロヴェニア共和国大使館
在大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館 駐日フランス大使館
駐日ポーランド共和国大使館 英国ノーサンブリア大学
クラフク芸術大学 リュブリャナ大学 香川県 坂出市
香川県教育委員会 高松市教育委員会 坂出市教育委員会
香川県小学校長会 香川県中学校長会 香川県高等学校長会
香川県PTA連絡協議会 高松PTA連絡協議会 RSK山陽放送
RNC西日本放送 OHK岡山放送 KSB瀬戸内海放送
TSCテレビせとうち 高松ケーブルテレビ FM香川
ナイスタウン出版

助成 公益財団法人 置県百年記念香川文化芸術振興財団 公益在団法人 松平公益会
協賛 アオイ電子(株) (株)香川銀行 (株)鎌田醤油 (株)合田工務店 四国電力(株)
(医財)博仁会キナシ大林病院 (株)百十四銀行 山口鋼業(株)
企画協力 美術団体 琴
認定 公益社団法人 企業メセナ協議会
入場料 一般(大学生以上)1,000円 高校生以下・65歳以上等無料
場所 2階一般・企画展示室
入場者数 26,032人

15・6歳頃に制作された未発表作品から最新作まで、多様な濱野年宏による芸術の集大成を展覧する初の大規模な回顧展となりました。

[関連イベント]

特別対談(講堂/入場無料)

10月30日(日) 14:00～15:30

出演: 加藤貞雄(美術評論家)、濱野年宏

親子版画教室

10月22日(土)、23日(日)、29日(土)、30日(日)、
11月3日(祝)

10:00、11:00、14:00、15:00

場所: 講座室1

対象: 幼児から中学生とその保護者

お茶席

10月22日(土)、23日(日) 10:00～15:00

席主: 表千家流 土井宗以

場所: 1階ロビー

茶券: 500円

ギャラリートーク(2階展示室/観覧券要)

奈良大和路の語り部(田中啓三、亀田幸英)による

10月29日(土)、30日(日)終日、随時開催

濱野門下生と展覧会サポート委員が展示作品の解説

会期中、希望に応じて随時開催

2. 教育普及

[学期制実技講座]

場所：講座室（受講料12,000円、材料費4,000円（シルクスクリーン）・3,000円（銅版画））

対象：高校生以上

講座名	講師	参加者数[前期/後期]	日数	曜日	時間
版画(入門)	下村 宏	15人[7人/8人]	30日	毎木曜日	9:30～12:30
版画(中級)	下村 宏	30人[15人/15人]	30日	毎金曜日	9:30～12:30
計	2講座	45人	60日		

[ワークショップ]

場所：記載のないものは講座室

ボデゴン(鼻つき洋梨)をつくろう!

森村泰昌《ボデゴン(鼻つき洋梨)》にちなみ、自分の鼻を石膏で型取り、洋梨のレプリカに取り付け、彩色した。特別展「トリック・アートの世界展」関連。

5月15日(日)13:30～16:30

講師：南正邦(彫刻家)

受講料：500円(材料費200円)

対象：小学生～大人

参加人数：15人



親子陶芸教室

陶芸粘土で皿を制作。釉薬は白・茶・緑・黄の4色から選び、完成した皿は窯で焼かれ後日参加者に渡された。特別展「追悼 人間国宝 三代徳田八十吉展」関連。

6月25日(土)13:00～16:00

講師：倉石文雄(陶芸家)

受講料：500円(材料費1,000円)

対象：小学生と保護者

参加人数：11人



親子陶芸教室

陶芸粘土を使い、手びねりでオリジナルの器を制作。完成した器は講師オリジナルの釉薬をかけて、後日参加者に渡された。特別展「追悼 人間国宝 三代徳田八十吉展」関連。

7月3日(日)13:00～16:30

講師：伊藤信夫(陶芸家、公益社団法人 日本工芸会四国支部正会員、香川県陶芸協会会長)

受講料：500円(材料費1,500円)

対象：小学生と保護者

参加人数：41人



美術館にドラゴン出現!!

Tシャツをドラゴンの鱗に見立て、どんなドラゴンを作りたいかイメージしながらペインティング。それらを竹に通して並べ、中2階に巨大なドラゴンを出現させた。特別展「小谷元彦—幽体の知覚」関連。

7月30日(土)13:00～16:00

講師：旅するムサビ(武蔵野美術大学生)

場所：講座室・中2階

材料費：500円(材料費100円)

対象：小学生以上

参加人数：15人



オリジナルキャンドルをつくろう!

小さなガラスの周りを粘土や絵の具でデコレーションして、中にLEDのキャンドルライトを仕込み、かわいらしいオリジナルキャンドルホルダーを制作。特別展「リサとガスパール&ペネロペ展」関連。

9月25日(日)13:00～15:00

講師：加納果林(絵本作家)

受講料：500円(材料費別途)

対象：5歳児～小学校低学年

参加人数：25人



大切な記憶を描く

鉛筆やコンテ、木炭などで日常生活では意識しない大切な記憶を描き、お互いに鑑賞した。第4期常設展関連。

12月11日(日)10:00～16:00

講師：岡田修二(美術家・成安造形大学教授)

受講料：500円

対象：高校生以上

参加人数：16人



場所：記載のないものは講座室

アナモルフォーシス(ゆがみ絵)をつくろう!

特製の扇型図面のシートに好きな絵を描いてそれを鏡面円柱にかざすとゆがんだ絵がまっすぐに見える「ゆがみ絵」を制作。中2階では鏡面円柱の前にシートを並べ、巨大な立方体を浮かび上がらせた。特別展「トリック・アートの世界展」関連。

5月22日(日)13:30～16:00

講師：南正邦(彫刻家)

受講料：500円

場所：講座室、中2階

対象：小学生～大人

参加人数：24人



じかんを絵にしよう!

展示中の小谷元彦作品を見るなどして、画用紙に目に見えない存在である「時間」を想像して描いた。特別展「小谷元彦 幽体の知覚」関連。

8月3日(水)9:30～12:00

講師：あきやましんご(美術家)

受講料：500円(材料費100円)

対象：小学生低学年

参加人数：19人



白い世界の舞台美術をつくろう!

「白」、「クリスマス」をテーマに、白い布を使って舞台美術を制作。最後にダンサーが完成した舞台の上でダンスを披露。

12月17日(土)10:00～16:00

講師：カミイケタクヤ(美術家)、田中慶子(ダンサー)

場所：講堂、エントランスホール

受講料：500円(材料費200円)

対象：小学3年生以上

参加人数：15人



白いくうきをつくろう!

特別展「小谷元彦 幽体の知覚」に展示されていた「ホロウ」シリーズ、「ニューボーン」シリーズにちなみ、白一色で目に見えない空気を立体で表現した。特別展「小谷元彦 幽体の知覚」関連。

8月3日(水)13:30～16:00

講師：あきやましんご(美術家)

受講料：500円(材料費100円)

対象：小学生高学年、中学生

参加人数：8人



イカの甲でイカしたアクセサリーをつくろう(午前)

イカの甲に模様をデザインし、そこに熱で溶かした錫(すず)を流し込むことで、オリジナルのアクセサリーを制作した。特別展「小谷元彦 幽体の知覚」関連。

8月10日(水)9:30～12:00

講師：小沼秀斉(造形作家)

受講料：500円(材料費350円)

対象：小学生低学年

参加人数：11人

イカの甲でイカしたアクセサリーをつくろう(午後)

午前と同内容。

8月10日(水)13:30～16:00

講師：小沼秀斉(造形作家)

受講料：500円(材料費350円)

対象：小学生高学年、中学生

参加人数：14人



[子どものアトリエ]

手のひらの地図をつくろう(午前)

手のひらを粘土に押し、その手形の上から石膏を流し込む。固まった石膏を粘土から取り外して絵の具でペインティングした。特別展「小谷元彦 幽体の知覚」関連。

8月24日(水)9:30～12:00
 講師：赤松きよ(美術家)
 受講料：500円(材料費100円)
 対象：小学生低学年
 参加人数：18人

手のひらの地図をつくろう(午後)

午前と同内容。
 8月24日(水)13:30～16:00
 講師：赤松きよ(美術家)
 受講料：500円(材料費100円)
 対象：小学生高学年、中学生
 参加人数：20人



かくれんぼ仕掛け絵本

1枚の画用紙に背景などの絵を描き、そこに動物や人の絵が貼られた細長い紙を差し込めば「仕掛け」の完成。差し込んだ端を動かすと、絵の登場人物が動いているように見える楽しい絵本になった。特別展「リサとガスパール&ベネロペ展」関連。

9月18日(日)13:00～15:00
 講師：川崎展子
 受講料：500円
 対象：5歳児～小学校低学年
 参加人数：25人

へんないきものをつくろう!

「へんないきもの」をテーマに、樹脂粘土や広告・雑誌などを使って小さなオブジェを制作した。会場にはこたつも設置され、訪れた人同士の交流の場となった。香川大学教育学部との連携による展覧会「千葉尚実展」関連。

11月20日(日)9:30～12:00 / 13:30～16:00
 講師：千葉尚実(美術家)
 受講料：300円
 対象：小学生以上
 場所：中2階
 参加人数：43人

コマ撮リアニメと写真帽子をつくろう!

みんなで写真を撮ってコマ撮リアニメを制作。その次に自分の写真を飾り付けた、オリジナルのシルクハットを制作した。最後に喫茶室でシルクハットでおめかしし、飲み物とお菓子を用意してコマ撮リアニメの鑑賞会を行った。

12月10日(土)10:00～16:00
 講師：GABOMI(写真家)
 受講料：500円(材料費500円)
 対象：小学3～6年生
 場所：講堂、喫茶室
 参加人数：11人



[アートで遊ぼう!]

鑑賞教育の充実を図るための鑑賞プログラム。ゲームや遊びを取り入れながら、当館学芸員とともに美術作品を鑑賞した。
 毎回9:30～11:00 / 対象：小学3～6年生
 ※8月19日・20日は13:00～16:00 高校生以下



展覧会名	開催月日	講師	参加者数
トリック・アートの世界展	5月28日(土)	牧野裕二	8人
三代徳田八十吉展	6月25日(土)	川西弘一	9人
小谷元彦展	7月30日(土)	毛利直子	8人
学生ボランティアcimiによる番外編アートで遊ぼう!	8月19日(金)	cimi	40人
学生ボランティアcimiによる番外編アートで遊ぼう!	8月20日(土)	cimi	23人

[学校との連携]

鑑賞教育における学校と美術館の連携ワーキンググループ会

鑑賞教育の内容の向上と、学校教育活動による美術館施設の利用促進のために、教育現場の教師と美術館学芸員の意見交換の場を設けた。

	開催月日	ファシリテーター	参加者数	備考
第32回	11月20日	牧野裕二	12人	千葉尚実子どものアトリエ見学
第33回	12月10日	毛利直子	9人	GABOMI子どものアトリエ見学
第34回	12月11日	毛利直子	10人	岡田修二ワークショップ見学
第35回	12月17日	毛利直子	8人	カミイケタカワークショップ見学

鑑賞教育における学校と美術館の連携

高松市中学校教科別研究会(美術)

7月27日 参加人数：35人



小企画 千葉尚実展 ヘンないきもの@高松しび

会期：2011年10月18日(火)～11月27日(日) 月曜日休館 35日間

場所：中2階

関連イベント：子どものアトリエ「ヘンないきものをつくろう!」※教育普及の頁参照

主な掲載記事：高松市美術館ボランティア通信「しびのーと」25号

「こたつの夢—「小企画・千葉尚実展」を開催して」牧野裕二(当館学芸員)

高松市美術館と香川大学教育学部の連携により授業「博物館学Ⅱ」を受講する学生約20人が、授業の中で香川県在住の美術家・千葉尚実の展覧会を企画・制作し、その成果を発表しました。

担当学芸員＝牧野裕二

[美術館学習]

サンクリスタル学習参加校のうちで、午後より引き続き美術館での学習を希望する小学校を受け入れ(サンクリスタル高松—美術館間の交通費を負担)、作品鑑賞や施設見学、彫刻探検などの活動を行った。

期間：6月28日～12月16日

参加校：13校

参加人数：延984人

[美術館の日]

美術館の開館記念日(8月6日)に近い8月第1土曜日を「美術館の日」と制定し、展覧会の観覧料を無料にしたほか、クイズ「高松しび検定」やゲームを用意した「ふらっとアート」やミニコンサートなど、市民が気軽に美術館を訪れて楽しめる催しを開催。

8月6日(土)

参加人数：特別展観覧者712人、ふらっとアート45人、エントランス・ミニコンサート180人

[博物館実習]

期間：8月2日～8月7日

実習内容：概要説明・施設見学、美術館と作品収集(講義)、解説ボランティア活動・教育普及(講義)、資料の保管と管理・二次資料の保管(講義)、作品取扱い実習、ワークショップ補助実習、展示見学・他館見学

実習生数：13人(香川大学6人、立命館大学1人、尾道大学1人、成安造形大学2人、徳島大学1人、大阪芸術大学1人、高知大学1人)

[ボランティア]

美術館ボランティア civi(シヴィ)

市民の美術活動の支援と展覧会観覧者の利便を図るため、美術作品解説ボランティア civi(シヴィ)を設置し、平成11年度から活動を行っている。特別展のギャラリートークのほか「しびのーと」の発行(年2回)、ワークショップのアシスタントなどの活動を行った。登録人数=26人

ギャラリートーク

原則として、特別展会期中の日曜日・祝日の11:00～、14:00～

延44回 1,023人(「リサとガスパール&ベネロペ展」を除く3展の特別展において)

学生ボランティア cimi(シミィ)

市民の美術活動の支援と展覧会観覧者の利便を図るため、高校生から大学院生を対象とするボランティア cimi(シミィ)の活動を平成23年度より開始した。小谷元彦展鑑賞ガイド、美術館の日イベント補助、各種ワークショップのアシスタントなどの活動を行った。登録人数=22人

ボランティアおよび学生ボランティア 定例会(原則各月第1土曜日)以外の活動

2011年

4月 1日	しびのーと23号発行
5月15日	ワークショップ「ボデゴン(鼻つき洋梨)をつくろう!」(講師：南正邦)アシスタント
5月22日	子どものアトリエ「アナモルフォーシス(ゆがみ絵)をつくろう!」(講師：南正邦)アシスタント
7月21日	「小谷元彦展」内覧会・レセプション出席
8月 3日	子どものアトリエ「じかんを絵にしよう!」他(講師：あきやましんご)アシスタント
8月 6日	「美術館の日」ふらっとアートアシスタント
8月10日	子どものアトリエ「イカの甲でイカしたアクセサリーをつくろう!」(講師：小沼秀斉)アシスタント
8月19・20日	「学生ボランティア cimi(シミィ)による番外編アートで遊ぼう!」アシスタント
8月24日	子どものアトリエ「手のひらの地図を作ろう!」(講師：赤松きよ)
9月18日	子どものアトリエ「かくれんぼ仕掛け絵本」(講師：川崎展子)アシスタント

- 9月18日～10月16日 「リサとガスパールといっしょに撮影会」アシスタント
- 9月25日 ワークショップ「オリジナルキャンドルをつくろう！」(講師：加納果林)アシスタント
- 10月1日 しびのーと24号発行
- 10月1日 「舟越桂展」(香美市立美術館)ほか研修旅行
- 11月20日 子どものアトリエ「ヘンないきものをつくろう！」(講師：千葉尚実)アシスタント
- 12月10日 子どものアトリエ「コマ撮りアニメと写真帽子をつくろう！」(講師：GABIMI)アシスタント
- 12月11日 ワークショップ「大切な記憶を描く」(講師：岡田修二)アシスタント
- 12月17日 ワークショップ「白い世界の舞台美術をつくろうー！」(カミイケタケヤ、田中慶子)アシスタント

2012年 1月29日 第25回平櫛田中賞受賞記念「SPO」小谷元彦(井原市立田中美術館)ほか研修旅行



しびのーと23号



しびのーと24号

[学芸インターン]

高松市美術館の学芸業務に実際に参加することにより、美術館の諸活動についての専門知識や業務経験をより一層深めてもらうとともに、美術館の諸活動を担う人材を育成することを目的に、大学院生または大学生を対象とするインターン(研修生)を平成22年度より募集し、1名採用した。23年度は教育普及プログラムの企画・実施、各種資料作成などの活動を行った。

[美術図書館]

月別利用者数

年月	入場者数(人)	開館日数(日)
H23.4月	292	26
5月	246	27
6月	243	26
7月	247	27
8月	324	26
9月	287	26
10月	198	26
11月	285	26
12月	251	24
H24.1月	0	0
2月	0	0
3月	0	0
合計	2,373	234

書籍

区分	購入	寄贈	合計
図書	24	83	107
雑誌	70	69	139
逐次刊行物	0	299	299
図録	0	493	493
合計	94	944	1038

3. 芸術的催物

[ミニコンサート]

特別展ごとに、展覧会内容に関連する演奏プログラムを企画し、県内演奏家によるミニコンサートを開催。

場所：エントランスホール

進行：藤本圭子(高松市美術館)

「トリックアートの世界展」関連

「トリック」をテーマに、メロディや演奏方法に様々な仕掛けが施された。モーツァルト作曲カノン『鏡』では、1枚の楽譜をクラリネットとファゴットが、上下から見ながら演奏。視覚で驚き、聴覚で楽しむトリックミュージックに会場は盛り上がった。

5月14日(土)13:30～14:00

演奏者：山崎盾之(クラリネット)、滝口善之(ファゴット)、大山まゆみ(ピアノ)

参加人数：延120人



「追悼人間国宝 三代徳田八十吉展 煌めく色彩の世界」関連

箏、フルート、ピアノ、それぞれの楽器の音色、また3つのハーモニーによって、徳田八十吉の作品の特徴である煌めく色彩、そして初夏の涼やかさもイメージした曲目を演奏した。また東日本大震災の復興を祈り「見上げてごらん夜の星を」で締めくくった。

6月11日(土)13:30～14:00

演奏者：青木香璃(箏)、佐柄晴代(フルート)、大山まゆみ(ピアノ)

参加人数：延60人

「小谷元彦展 幽体の知覚」関連

午前の部はバイオリンとピアノの演奏で、葉加瀬太郎「ひまわり」、ガーシュイン作曲「サマータイム」などを演奏。午後の部ではバイオリンとピアノにソプラノを加え、オペラの名曲ブッチーニ作曲「私のお父様」や、ピエトロ・マスカーニ作曲オペラ「カバレリア・ルスティカーナ」より間奏曲を演奏。

8月7日(土)①11:30～12:00、②13:30～14:00

演奏者：大山まゆみ(ピアノ)、西浦弘美(バイオリン)、林里美(ソプラノ)

参加人数：延180人

「リサとガスパール&ペネロペ展」関連

幼稚園児や小学生を対象に、高松第一高等学校 吹奏楽部による「お兄さんお姉さんが演奏する絵本にちなんだ楽しい音楽」がテーマ。会場ではリサとガスパールのぬいぐるみも椅子に座って観客と一緒にコンサートを鑑賞。

9月23日(金・祝)①11:00～11:30、②13:30～14:00

演奏者：高松第一高等学校吹奏楽部

香川大学教育学部が企画から行った初めての試み。「ーリサとガスパールのWorld Tour 2011ー」と題して、奏者がそれぞれ「リサとガスパール」シリーズや「ペネロペ」の登場人物に扮し、リサとガスパールが絵本の中で訪れた世界各地の曲を演奏。

10月2日(日)①11:00～11:30、②13:30～14:00

演奏者：香川大学Ensemble La Amitié Éternelle

参加人数：延390人

おやこミュージアム・コンサート

「みんな元気でおはようさん」、「くいしんぼうのありさん」など、親子でふれあい、遊びながら楽しめる曲を演奏。

10月10日(月・祝)13:30～

演奏者：安藤千秋(声楽)、何森博子(パーカッション)、古市晶子(オカリナ)、大山まゆみ(ピアノ)

場所：1階講堂

参加人数：延110人



※共催事業

[コンサート]

エントランスホールを使った芸術的イベントへの共催。

主催＝高松市美術館友の会※友の会の頁参照

ふれあいコンサート～ソプラノとフルートのタベ～

ふれあいコンサート～魅惑の響きハーブ&ヴァイオリン～

主催＝街クラシック in 高松実行委員会

演奏＝瀬戸フィルハーモニー交響楽団

街クラシック

7月2日(土)①14:30～15:00(ピアノトリオ) ②15:30～16:00(木管五重奏)

7月9日(土)①14:30～15:00(合唱) ②15:30～16:00(弦楽四重奏)

参加人数：延600人

4. 資料

(1) 収集

[購入作品]

平面

No.
作家名
作品名
制作年
技法・材質
寸法



1.
O JUN
湖畔
2009
油彩・キャンバス
100×100cm



2.
O JUN
津波
2010
油彩・キャンバス
116×116cm



3.
村瀬 恭子
Stage
2010
油彩、色鉛筆・綿布
160×200cm



4.
村瀬 恭子
Thistle
2011
油彩、色鉛筆・綿布
55×50cm



5.
照屋 勇賢
You-I Flat Work Large
2009
紅型・麻
184.5×82cm



6.
西野 達
Life's Little Worries in Berlin
2007
Cプリント / ed.4/5
155×113cm

映像



7.
大木 裕之
木(ム)
2003 - 06, 11
DVD / 23分
制作：ikura_pro、ed. 1/6



8.
さわひらき
eight minutes
2005
DVD
single channel video :
silent, black+white, 8'50"、A.P./ed.8 + 3A.P.

立体

9.

小沢 剛
なすび画廊
1994 ~ 96
牛乳箱、ミクストメディアほか



-01
なすび画廊
-オスカル大岩幸男
33 × 20 × 14.5cm



-02
なすび画廊 - パルコ木下
33.5 × 19.5 × 14cm



-03
なすび画廊 - コンプレッソ・プラスチック
34 × 22 × 14.5cm



-04
なすび画廊 - 昭和40年会
35 × 38 × 14cm



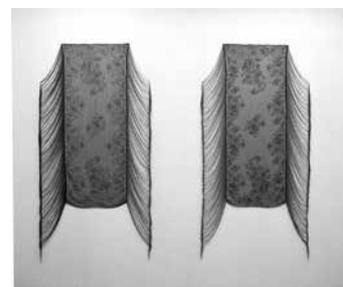
-05
なすび画廊 - 小沢剛
33 × 20 × 15cm



10.
小谷 元彦
Hollow : Duplex
2009
FRP、ウレタン塗料、ミクストメディア
69 × 64 × h204、75 × 63 × h206cm



11.
塩田 千春
トラウマ / 日常
2007
糸、鉄棒、服、アクリル絵具
80 × 100 × h150cm



12.
手塚 愛子
同一の二つの織物 2
2011
既製品の織物、引き抜いた四色の糸
展示サイズ h240 × w300cm
織物サイズ h182 × w72cm 2点



13.
照屋 勇賢
Forest Cloud
2011
11個のトイレットペーパーの芯 / 可変



14.
藤本 由紀夫
EARS WITH CHAIR (on the wall)
1990 / 93
ミクストメディア
Tube 180 × 6 × 6cm / 2ピース

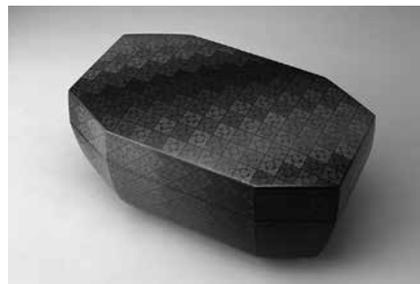


15.
宮永 愛子
ポスト - 景色
2010
パリで見つけたポスト、樹脂、ナフタリン
8 × 106.5 × 126.5cm × 1対

工芸・漆工



16.
山下 義人
蒟醬箱 山笑う
2011
漆、檜
13.5 × 26.5 × h13.5cm



17.
佐々木 正博
蒟醬草花文八角箱
2011
乾漆
16.8 × 28 × h13cm

[寄託作品]
工芸・漆工



1.
磯井 如真
サボテンにホロホロ鳥 彫漆飾棚
1936
漆
42 × 85 × h105cm

(2) 貸出実績

作家名	作品名	展覧会名/会場	会期
イヴ・タンギー	棒占い	森村泰昌モリエナーレ/	
パウル・クレ	綱渡り	まねぶ美術史	
ジョルジュ・ブラック	テオゴニー (神統記)	ふくやま美術館	11.4/16 ~ 11.6/12
マルセル・デュシャン	完成大ガラス	静岡市美術館	12.4/7 ~ 12.6/10
北代省三	レーダー	北九州市立美術館分館	12.7/28 ~ 12.9/2
向井修二	WORK 1	高岡市美術館	12.9/22 ~ 12.10/28
難波田龍起	心象の街		
池田龍雄	未開地		
宇佐美圭司	日々を往き返路を駆ける No.1		
川端 実	門のイメージ 緑と紅		
菅井 汲	雲		
菅井 汲	5秒前		
岡本太郎	生成		
中西夏之	山頂の石蹴り No.1		
宇治山哲平	華厳 No.11		
河口龍夫	石と光		
横尾忠則	電話		
平賀 敬	三枚のハートのカード		
篠原有司男	女の祭り		
粟津 潔	CONTEMPORARY PRINT EXHIBITION KIYOSHI AWAZU		
赤瀬川原平	大日本零円札		
森村泰昌	千円札と箱		
中西夏之	コンパクトオブジェ		
中村 宏	聖火千里行		
加納光於	アララットの船 あるいは空の壺		
荒川修作	作品		
高松次郎	Form No.1203		
アド・ラインハート	10スクリーンプリント		
エル・リシツキー	太陽の征服より 墓掘り		
狗巻賢二	無題		
木村光佑	現在位置-存在(A)		

作家名	作品名	展覧会名/会場	会期
瑛九	ダンス		
瀧口修造	作品		
前田常作	空間の秘儀(生誕)		
ジャスパー・ジョーンズ	二つの旗		
フランク・ステラ	ペルゲーサスリー		
ロバート・インディアナ	A GARDEN OF LOVE		
アンディ・ウォーホル	マリリン		
合田佐和子	くわえタバコのデートリッヒ		
森村泰昌	ボデゴン(鼻つき洋梨)		
三木富雄	耳		
金山 明	Mar.6		
森村泰昌	肖像(ヴァン・ゴッホ)		
森村泰昌	ポートレイト(赤I)(黒)		
森村泰昌	肖像(泉) I II III		
森村泰昌	だぶらかし(マルセル)		
森村泰昌	批評とその愛人		
森村泰昌	ポートレイト(九つの顔)		
川端 実	キリコを作る人	生誕100年 川端実展	
川端 実	ガラス工場	横須賀美術館	11.4/23 ~ 7/3
明石朴景	蒔罽 水仙華紋 筐	生誕100年記念 明石朴景展	
明石朴景	蒔罽 紅梅紋 筐	香川県立ミュージアム	11.4/27 ~ 5/10
明石朴景	彫漆 菖蒲華紋 筐		
明石朴景	漆 青柿之棚		
菊畑茂久馬	ルーレット	菊畑茂久馬回顧展	
菊畑茂久馬	ルーレット	福岡市美術館	11.7/9 ~ 8/28
菊畑茂久馬	ルーレット	長崎県美術館	11.7/16 ~ 8/31
菊畑茂久馬	月光 二		
菊畑茂久馬	奴隸図鑑 一円鏡による		
菊畑茂久馬	植物図鑑三		
菊畑茂久馬	天動説 十五		
田中敦子	電気服	田中敦子—アート・オブ・コネクティング展	
田中敦子	作品	アイコンギャラリー(英国)	11.7/27 ~ 11.9/11
		カステージョ現代美術センター(スペイン)	11.10/7 ~ 12/31
		東京都現代美術館	12.2/4 ~ 5/6
曾谷朝絵	Bathtub no.15	曾谷朝絵展	
		おぶせミュージアム・中島千波館	11.7/30 ~ 9/20
今雪哲郎	奏	第57回企画展「魅せる—錦絵にみる女性の内なる美—」	
		高松市歴史資料館	11.7/31 ~ 9/4
難波田龍起	心象の街	感じる—かたちあるもの20世紀美術	11.8/9 ~ 9/12
高松次郎	影	近現代の日本と海外	
高松次郎	No.294	今治市河野美術館	
河原温	NOV. 18, 1987		
吉原治良	黒地に赤の丸		
吉原治良	黒地に白の丸		
加納光於	Soldered Blue		
斎藤義重	「クレーン」「ペンチ」		
菅井 汲	赤い鬼(悪魔)		
前田常作	快樂の園		
奈良美智	Time of My Life 2001		
村上 隆	そしてそしてそしてそして 赤		
村上 隆	そしてそしてそしてそして ピンク		
村上 隆	そしてそしてそしてそして 水		
村上 隆	そしてそしてそしてそして 黄		
村上 隆	そしてそしてそしてそして 青		
村上 隆	DOBジャンプ		
ジム・ダイク	黒と白のバスローブ		
ロイ・リキテンシュタイン	泣く女		
フランク・ステラ	ベルシアの星 I, II		
ジャスパー・ジョーンズ	旗 I		
サイ・トゥオンブリー	Untitled(無題) I		
デイビッド・ホイックニー	ウエザーシリーズ 太陽		
ゲルハルト・リヒター	KERZE II		
野見山暁治	虚空	野見山暁治展	
		石橋美術館	11.9/1 ~ 10/16
		ブリジストン美術館	11.10/28 ~ 12/25

作家名	作品名	展覧会名／会場	会期
谷川晃一	レッド飛行	谷川晃一展	
谷川晃一	炎の標的	三鷹市芸術文化振興財団	11.9/3～10/23
坂本善三	形	坂本善三 故郷に帰る	
		坂本善三美術館	11.9/6～11/8
関根伸夫	位相No.4	トリック&ユーモア展	
		横須賀美術館	11.9/10～11/6
玉楮象谷	堆朱 紅葵饌盒	地域文化が育んだ	
玉楮雪堂	蒟醬 文庫	美術館・博物館の名品展	
磯井如真	瑞鳥蒟醬 香盆	石川県立美術館	11.9/11～10/23
鎌田稼堂	堆朱 月茶入盒		
音丸耕堂	彫漆 水仙手箱		
磯井正美	蒟醬 思草 色紙箱		
太田 儔	籃胎蒟醬 茶箱 春風		
小谷元彦	SP4 the specter ー心臓を持つ唐草女	小谷元彦展 幽体の知覚	
		熊本市現代美術館	11.9/17～11/27
坪内晃幸	work	坪内晃幸展	
		町立久万美術館	11.10/1～11/27
三谷照男	塔建立	三谷照男 水彩画回顧・遺作展	
		高松市美術館市民ギャラリー	11.10/12～10/16
磯井如真	鶴香盒	第59回企画展「馬場景泉展	
高橋皖山	福祿壽 牡丹華之圖 堆黒香盒	ー現代花鳥画の精華ー	
高橋皖山	荷葉紅魚 野菜類之圖 堆朱肉池	高松市歴史資料館	11.11/12～12/25
瀧口修造	作品(ロトデッサン)	瀧口修造とマルセル・デュシャン	
マルセル・デュシャン	階段を降りる裸婦No.2	千葉市美術館	11.11/22～12.1/29
マルセル・デュシャン	L.H.O.O.Q		
マルセル・デュシャン	ひげをそったL.H.O.O.Q		
マルセル・デュシャン、 ジャック・ヴィヨン	花嫁：マルセル・デュシャン『花嫁』による		
ジャスパー・ジョーンズ	Watchman		
柏原えつとむ	Silencer 68-1	石子順造の世界	
関根伸夫	位相No.4	ー美術発・マンガ経由・キッチュ行	
堀内正和	正六面体のなかの円錐形のなかのトルソ	府中市美術館	11.12/10～12.2/26
小島信明	立像		
中西夏之	コンパクト・オブジェ		
小谷元彦	SP4 the specter ー心臓を持つ唐草女	第25回平櫛田中賞受賞記念 小谷元彦展	
		井原市立田中美術館	12.1/27～3/20
靉嘔	192 Gradation Rainbow	靉嘔 ふたたび虹のかなたに展	
靉嘔	前へ！	東京都現代美術館	12.2/4～5/6
		新潟市美術館	12.7/28～10/8
		広島市現代美術館	12.11/3～13.1/14
北原千鹿	壁飾 鹿	もんよう玉手箱	
高橋皖山	風月三昆 福祿寿圓 紅華緑葉香合	ーれきし・かたち・いろいろー展	
大谷早人	籃胎蒟醬箱 網代文	高松市歴史資料館	12.2/11～3/25
粟津 潔	第5回現代日本彫刻展		
村上 隆	月		

(3) 修復実績

作家名	作品名	制作年	材質
磯井如真	蒟醬 筆筥 銀葉アカシヤ之図	1957	漆

5. 利用実績

[特別展]

		トリック・アート 徳田八十吉展 の世界展	小谷元彦 幽体の知覚	リサとガスパー & ペネロペ展	計		
開催期間		4/15～5/29	6/4～7/10	7/22～9/4	9/13～10/16		
開催日数		40	32	39	30	141	
有料	通常	一般	15,934	1,365	2,725	2,918	22,942
		大学生	883	42	474	277	1,676
	割引	一般	645	151	333	682	1,811
		大学生	38	1	40	11	90
	前売	一般	686	154	106	702	1,648
		大学生	23	3	5	16	47
共通定期観覧券		637	570	352	381	1,940	
小計		18,846	2,286	4,035	4,987	30,154	
無料	高校生	744	16	257	180	1,197	
	中学生	1,089	36	757	199	2,081	
	小学生	3,008	391	405	927	4,731	
	就学前	966	24	95	1,054	2,139	
	小計	5,807	467	1,514	2,360	10,148	
免除	大学生ほか	165	39	80		284	
	引率者	51	19	20	31	121	
	障がい者介添人	638	165	181	250	1,234	
	小計	854	223	281	281	1,639	
招待券等		936	775	1,525	609	3,845	
観覧者総数		26,443	3,751	7,355	8,237	45,786	
一日当たり入場者数		661	117	189	275	325	
夜間(火～土曜日の17～19時)		839	103	345	288	1,575	

[常設展]

		第1期	第2期	第3期	第4期	計	
開催期間		4/3～6/12	6/16～8/21	8/27～10/23	10/27～12/25		
開催日数		62	58	50	52	222	
有料	通常	一般	244	350	486	525	1,605
		大学生	8	18	39	34	99
	割引	一般	13	26	132	73	244
		大学生	0	0	2	2	4
	共通定期観覧券		166	212	275	133	786
小計		431	606	934	767	2,738	
無料	高校生	156	59	89	37	341	
	中学生	377	299	103	91	870	
	小学生	539	466	378	498	1,881	
	就学前	168	62	139	12	381	
	小計	1,240	886	709	638	3,473	
免除	大学生ほか	95	0	25	7	127	
	引率者	18	18	11	34	81	
	長寿	252	152	278	310	992	
	障がい者介添人	119	76	119	76	390	
	特別展観覧者(一般)	4,844	1,959	2,078	43	8,924	
	特別展観覧者(大生)	244	191	282	8	725	
	小計	5,572	2,396	2,793	478	11,239	
招待券等		124	585	108	97	914	
観覧者総数		7,367	4,473	4,544	1,980	18,364	
一日当たり入場者数		119	77	91	38	83	
夜間(火～土曜日の17～19時)		479	244	254	—	977	

[共催展]

展覧会名	会期	日数	入場者数
濱野年宏展	10/18～11/6	18	26,032

[一般・企画展示室]

展覧会名	会期	日数	入場者数
第3回一楽会書道展	4/8～4/10	3	471
市民美術の祭典2011	11/9～11/13	5	2,244
第38回毎日書道学会展	11/18～11/20	3	1,086
第53回墨華書道展	11/23～11/27	5	2,725
日本墨彩画院展	11/29～12/4	6	1,328
第26回道香社書作展	12/8～12/11	4	1,058
平成23年度高校書道教員作品展	12/9～12/11	3	835
第28回香川県高等学校総合文化祭（美術・工芸展）	12/15～12/18	4	494
第28回香川県高等学校総合文化祭（書道展）	12/15～12/18	4	516
第8回香川県小・中学校総合文化祭展覧会	12/22～12/25	4	5,146
平成23年度高松市教育文化祭展覧会	12/22～12/25	4	4,951
合計	11展	45	20,854

[市民ギャラリー]

展覧会名	会期	日数	入場者数
杉本羽衣個展	4/5～4/10	6	416
香川キルトクラブ作品展	4/19～4/24	6	758
第26回あかつき会展	4/26～5/1	6	1,512
第14回土曜の会展	5/3～5/8	6	733
第1回ひかり絵画研究会展	5/10～5/15	6	812
パッチワークとニードルワーク展	5/17～5/22	6	985
第23回美術教室DoDo作品展	5/24～5/29	6	760
チャーチル会高松展	5/31～6/5	6	914
第43回旅の思い出展	6/7～6/12	6	721
第3回曾根グループ作品展	6/14～6/19	6	657
古高松・国分寺切り絵同好会作品展	6/23～6/26	4	478
第15回Aアートクラブ展	6/28～7/3	6	699
原田史郎 阿波藍染展	7/8～7/10	3	259
第8回油彩美学展	7/12～7/18	7	658
山崎由美子展	7/22～7/24	3	391
第46回油絵アコンズ展	7/26～7/31	6	646
香川新協近作展	8/2～8/7	6	791
高見和秀絵画展	8/9～8/14	6	549
第8回大吉ファミリー展	8/23～8/28	6	626
雫展	8/30～9/4	6	541
第29回新構造香川支部展	9/6～9/11	6	828
第26回思可牟展	9/13～9/19	7	648
じーばクラブ水彩画展	9/21～9/25	5	531
NHK文化センター高松第9回水彩美学展	9/27～10/2	6	825
第6回生涯学習手芸教室ホビーサロンT&F	10/4～10/9	6	774
三谷照男水彩画回顧遺作展	10/12～10/16	5	436
町川和司木彫展	10/18～10/23	6	589
第5回香川短期大学美術ゼミ学生＋卒業生合同作品展	10/25～10/30	6	1,203
アートコンポ香川ビエンナーレ2011	11/1～11/6	6	1,278
山本美千代日本画展	11/8～11/13	6	998
第38回毎日書道学会展	11/18～11/20	3	884
第2回若手日本画家と市民の交流展	11/22～11/27	6	894
讃岐を描く展	11/29～12/4	6	1,032
第44回旅の思い出	12/6～12/11	6	721
第2回芸術士のいる保育所	12/13～12/18	6	1,243
第12回グループアイズ絵画作品展	12/20～12/25	6	805
合計	36展	205	27,595

[講堂]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用人数	130	0	100	150	252	100	75	450	220	0	0	0	1,477
利用回数	2	0	1	2	6	2	1	6	3	0	0	0	23

[講座室]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用人数	607	668	965	916	622	940	927	959	641	0	0	0	7,245
利用回数	35	37	51	48	34	57	53	51	36	0	0	0	402

1. 展覧会

(1) 特別展



春の京都から、日本画名品展

会期 2012年4月13日(金)～5月20日(日)
 月曜日休館(4月30日、5月1日開館)34日間
 主催 高松市美術館
 共催 N H K 高松放送局 四国新聞社
 後援 朝日新聞高松総局 OHK岡山放送 産経新聞社高松支局 山陽新聞社
 RSK山陽放送 KSB瀬戸内海放送 TSCテレビせとうち RNC西日本放送
 日本経済新聞社高松支局 毎日新聞高松支局 読売新聞高松総局
 入場料 一般1,000円 大学生500円 高校生以下無料
 入場者数 9,581人
 担当学芸員 川西弘一

京都の日本画は円山・四条派の伝統を基盤として、明治中期には洋風表現を取り入れた新しい日本画の創造を目指しました。大正期には竹内栖鳳、土田麦僊、村上華岳らによる清新な日本画革新運動が起こり、戦後の福田平八郎、徳岡神泉らが個々の芸術を開花させ、上村松篁らの創造美術、下村良之介らのパンリアル美術協会など新たな動きが示されました。このように京都の日本画家たちは、東京画壇に対し、古都としての文化の蓄積と美しい風物に培われた美的感覚により独自の作風を築き上げ、日本美術史において重要な役割を果たしてきました。

本展は、近代日本画を多数所蔵する京都国立近代美術館の所蔵の代表的作品を中心に、京都市立芸術大学芸術資料館、京都府立総合資料館所蔵作品も加え、竹内栖鳳、山元春挙、土田麦僊、菊池契月、西岡翠嶂、堂本印象など近代日本画の俊英たちの名作と、京都画壇に多大な影響を与えた横山大観、前田青邨らの作品あわせて66点を紹介しました。

[関連イベント]

記念講演会「京都日本画の魅力」

4月21日(土)14:00～15:30
 講師：島田康寛(立命館大学大学院教授)
 場所：講堂(聴講無料)
 参加人数：85人

記念お茶会

4月22日(日)10:00～15:00
 席主：裏千家流 村尾宗淑社中
 場所：1階ロビー
 お茶券：500円
 参加人数：250人

ギャラリートーク(2階展示室/観覧券要)

当館学芸員による

4月14日(土)・5月19日(土)各14:00～
 参加人数：延83人

美術館ボランティアcivi(シヴィ)による

会期中の日曜日及び祝日11:00～、14:00～(計18回)
 参加人数：延400人

子どものアトリエ「日本画にチャレンジ！」

—張子人形(干支)を描こう! ☆

アートで遊ぼう! ☆

エントランス・ミニコンサート★

☆=教育普及の頁参照 ★=芸術的催物の頁参照



会場



ボランティアによるトーク



島田康寛氏講演会



お茶会

[主な掲載記事]

- ・広報たかまつ4月1日
- ・四国新聞4月10日「革新の気風66点」
- ・四国新聞4月13日「きょうから「日本画名品展」」
- ・四国新聞4月19日・26日・5月3日・10日・17日(連載5回)
 「春の京都から、日本画名品展」川西弘一(当館学芸員)

- ・朝日新聞4月20日「日本画 京の春漂う」
- ・四国新聞4月22日「島田教授が技法解説」
- ・かがわ経済レポート4月25日

[図録]

編集：川西弘一(高松市美術館)

発行：高松市美術館

仕様：29.7×20.9cm、99頁

内容：ごあいさつ=高松市美術館/論考=「京都画壇『日本画』の歩み」内山武夫(元・京都国立近代美術館長)/セクション解説=第1章 花鳥画、第2章 風景画、第3章 人物画、第4章 東京画壇—院展作家を中心に/出品リスト/作家略歴/主要参考文献



すべての僕が沸騰する 村山知義の宇宙

会期 2012年5月26日(土)～7月1日(日)月曜日休館 32日間
 *一部展示替あり：前期5月26日～6月10日 後期6月12日～7月1日
 主催 高松市美術館 読売新聞社 美術館連絡協議会
 協賛 ライオン 清水建設 大日本印刷 損保ジャパン
 後援 KSB瀬戸内海放送
 協力 香川大学
 入場料 一般1,000円 大学生500円 高校生以下無料
 入場者数 3,200人
 担当学芸員 牧野裕二

20世紀の初めに生をうけ、ベルリンでダダや構成主義などの新興芸術を吸収して1923年に帰国、「マヴォ (Mavo)」や「三科」といったグループの活動を通じて大正末期から昭和初期にかけて日本の近代美術に決定的な影響を与えた村山知義(1901-77)。本展は、1920年代に展開された美術の仕事を中心に、その時代背景を伝える国内外の作品・資料を参照しながら、美術、ダンス、建築、デザイン、演劇など、村山知義の宇宙的な多様性を紹介する、初めての大規模な個展となりました。高松市出身の童話作家で妻の村山壽子(かずこ)との共作絵本についても、貴重な童画原画、童話原稿、掲載誌など多数紹介され、本展の大きな見どころとなりました。

巡回会場＝神奈川県立近代美術館 葉山、京都国立近代美術館、高松市美術館、世田谷美術館

[関連イベント]

記念対談

「村山知義以前・以後 なにが変わったのか」

5月26日(土)14:00～15:30
 講師：水沢勉(神奈川県立近代美術館長)、
 やなぎみわ(美術作家)

場所：講堂(聴講無料)
 参加人数：100人

記念講演会1

①「村山知義の童画をめぐって」

講師：牧野裕二(当館学芸員)

②「村山知義と近代工芸—杉田禾堂、北原千鹿を中心に」

講師：宮島久雄(当館館長)
 6月3日(日)①13:30～14:45 ②15:00～16:15
 場所：講堂(聴講無料)
 参加人数：61人

記念講演会2

「村山壽子の世界—音楽を介して」

6月16日(土)13:30～15:00
 講師：山崎怜(村山壽子研究家)
 演奏：ヴァイオリン・福崎至佐子(高松大学教授)、
 フルート・青山夕夏(香川大学教授)ほか
 場所：講堂(聴講無料)
 参加人数：46人

村山壽子童話のおはなし会

(2階展示室／観覧券要)
 会期中の日曜日13:30～14:00、15:00～15:30
 実施グループ：「伝々虫」

ギャラリートーク(2階展示室／観覧券要)

当館学芸員による
 6月2日(土)15:00～
 参加人数：33人
美術館ボランティアcivi(シヴィ)による
 会期中の日曜日11:00～、14:00～(計11回)
 (6月3日は14:00～なし)
 参加人数：延125人

やなぎみわ演劇プロジェクト vol.3

「1924 人間機械」★

アートで遊ぼう! ☆
 子どものアトリエ
 「TOMさんと壽子さんのお話を影絵劇にしよう!」 ☆
 ☆＝教育普及の頁参照 ★＝芸術的催物の頁参照



開展式で挨拶する村山治江氏



水沢勉氏・やなぎみわ氏対談



「伝々虫」おはなし会



アートで遊ぼう!

[主な掲載記事]

- ・読売新聞 3月8日「村山知義 不滅の挑発」
- ・広報たかまつ 5月15日
- ・香川こまち6月号 5月20日
- ・四国新聞 5月24日「新興表現で時代を先取り」
- ・読売新聞 5月26日「多才 沸騰する村山知義」
- ・読売新聞 5月27日「村山の“宇宙”無限の感動」
- ・四国新聞 5月27日「やなぎみわの演劇」
- ・読売新聞 5月31日・6月1・2・3・5・6・7日
(連載7回)「すべての僕が沸騰する 村山知義の宇宙」
牧野裕二(当館学芸員)

- ・美術手帖 No.967 6月1日 REVIEWS EX「あまりにも偉大でスタイリッシュな若者の姿」安立元(美術史家)
- ・読売新聞 6月4日「『沸騰する芸術』に迫る」
- ・読売新聞 6月10日「村山知義の時代描いた舞台上演」
- ・四国新聞 6月10日「インタビュー『演出』に情熱 やなぎみわ」
- ・京都国立近代美術館「視る」459号2012年3・4月号
「村山知義の動画をめぐる断片的考察」
牧野裕二(当館学芸員)
- ・読売新聞 2013年5月14日「『村山知義』展に美連協大賞」

[図録]

編集：村山知義研究会

発行：読売新聞社、美術館連絡協議会

仕様：24.2×20cm、312頁

内容：ごあいさつ＝主催者／論考＝「すべての僕が沸騰する」という現象－村山知義の現在のために」水沢勉(神奈川県立近代美術館館長)、「村山知義と建築、バウハウス」についての一断片」山野英嗣(京都国立近代美術館学芸課長)、「小英雄はスタイリッシュファッションに見るマヴォイスト村山知義の近代性」滝沢恭司(町田市立国際版画美術館学芸員)、「童画家TOMの誕生をめぐって」牧野裕二(高松市美術館学芸員)、「芸術は空間のクリエイションである－童画家TOMと童謡童話作家 籌子－」やまさきさとし(村山籌子研究家)、「TOMの童画に関するノート－前衛との関係から」山田志麻子(うらわ美術館学芸員)、「独断的スケッチ－村山籌子のほうへ」岩崎清(ギャラリーTOM副館長)、「村山知義関係資料－内田昇三コレクション」について」石井幸彦(世田谷美術館首席学芸員)／カタログ＝Ⅰ 前兆:1920、Ⅱ 伯林:1922、Ⅲ 沸騰:1923－1931、Ⅳ こどもたちのために:1921－1976、Ⅴ その生涯:1901－1977／村山知義年譜／主要参考文献／出品リスト



高松コンテンポラリーアート・アニユアル vol.02 —贈り物と交換—

会期 2012年7月28日(土)～9月9日(日)月曜日休館 38日間
 主催 高松市美術館
 後援 朝日新聞高松総局 NHK高松放送局 OHK岡山放送
 産経新聞社高松支局 山陽新聞社 RSK山陽放送
 四国新聞社 KSB瀬戸内海放送 TSCテレビせとうち
 RNC西日本放送 毎日新聞高松支局 読売新聞高松総局
 協力 一般財団法人 さめき生活文化振興財団
 助成 芸術文化振興基金
 入場料 一般800円 大学生500円 高校生以下無料
 入場者数 3,857人
 担当学芸員 毛利義嗣・牧野裕二

「高松コンテンポラリーアート・アニユアル」は優れた活動を行っている作家や将来性のある作家を発掘・紹介する年に一度のグループ展。今回の「vol.02」は、「贈り物と交換」をテーマとし、3.11を経験し激動する社会を生きる私たちにとっての、アートとコミュニケーションの開かれた可能性を探りました。

出品作家は、服などを使って解体と再生を見せるベルリン在住の平野薫、子どもたちとのワークショップの映像により日常のアート化を試みる山本高之、既存の音やイメージを自在にリミックスする和泉希洋志、香川に在住しその人・出来事・モノを撮影する新進の写真家GABOMI、音や時間をモチーフとし別の世界を浮かび上がらせる八木良太、計5人。

[出品作家]

和泉希洋志 IZUMI, Kiyoshi

1968年香川県丸亀市生まれ。主にサンプリングの手法による絵画、立体、映像、音楽、洋服の制作など多岐に渡り活動。1990年初個展。97年英国のレーベル(リフレックス)よりCDデビュー、その後もリリースを重ねる。96年より小杉武久のサウンド・パフォーマンス、97～2002年ボアダムズのライブとレコーディングに参加。大阪在住。

GABOMI ガボミ

1978年高知県生まれ。トキワアートギャラリー、sottoprodotta、高松市塩江美術館での個展(いずれも高松/2011年)ほか、香川の人・出来事・モノをモチーフとした多くのアートプロジェクトに関わる。私鉄ことでの車両工場を撮影した「ことでん百年目の写真展」(高松天満屋/2011年)が大きな反響を呼び、赤々舎より写真集出版。高松在住。

平野薫 HIRANO, Kaoru

1975年長崎県生まれ。広島市立大学大学院修了。誰かが身につけていた衣服を糸へと解体し、再度つなぎ合わせて制作する作品で注目される。2007年資生堂ギャラリー(東京)で個展。08年「OFF SITE」(横浜美術館)、09年「越後妻有トリエンナーレ」などに出品。12年SCAI(東京)で個展。ニューヨーク滞在を経て現在ベルリン在住。

八木良太 YAGI, Ryota

1980年愛媛県生まれ。京都造形芸術大学卒業。氷で作ったレコードなど、時間や音を扱った作品を多く制作。「そこに存在しながら意識されないもの/識別不可能なもの」をテーマに、身近な素材の通常の機能を読み替えて別の意味を浮かび上がらせる。「MOT アニユアル2011」(東京都現代美術館)、「ヨコハマトリエンナーレ2011」などに出品。京都在住。

山本高之 YAMAMOTO, Takayuki

1974年愛知県生まれ。愛知教育大学大学院修了後、渡英、チェルシー・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザインMA修了。小学校教諭としての経験から「教育」を中心テーマのひとつとし、子どものワークショップをベースとした映像作品を国内外で制作、発表。日常に既に立ち上がっているかもしれないアートの発見の可能性を探る。名古屋在住。

[関連イベント]

アーティスト・トーク(講堂/聴講無料)

7月28日(土)13:30～15:00

出演:和泉希洋志、GABOMI、平野薫、八木良太、山本高之

ゲスト・トーク

「インサイド・アウトサイド」

7月28日(土)15:30～17:00

出演:浅井俊裕(水戸芸術館現代美術センター芸術監督/本展アドバイザー)、植松由佳(国立国際美術館主任研究員/本展アドバイザー)、木ノ下智恵子(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任准教授/本展アドバイザー)

和泉希洋志サウンドパフォーマンス

7月28日(土)17:30～18:30

場所:いずれも講堂(聴講無料)

参加人数:延100人

[関連イベント]

ギャラリートーク(2階展示室/観覧券要)

当館学芸員による

7月29日(日)11:00～

参加人数:21人

美術館ボランティアcivi(シヴィ)による

会期中の日曜日 11:00～、14:00～(7月29日を除く)
(計11回)

参加人数:延158人

山本高之ワークショップ

「きみのみらいをおしえます」☆、
「チルドレン・プライド8.4 in 高松」☆、
「Boxing」☆

八木良太 ワークショップ

「3次元のドローイング」☆

GABOMI ワークショップ

「大人のコマ撮リアニメ」☆

美術館の日☆

エントランス・ミニコンサート★

☆=教育普及の頁参照 ★=芸術的催物の頁参照



八木良太 展示



八木良太 展示(中2階)



平野薫 展示



山本高之 展示



GABOMI 展示



和泉希洋志 展示



ゲストトーク



和泉希洋志サウンドパフォーマンス

[主な掲載記事]

- ・四国新聞7月29日『「交感」問い掛ける実験作』
- ・読売新聞7月29日「現代アートの挑戦」

[図録]

編集:毛利義嗣(高松市塩江美術館)、牧野裕二(高松市美術館)

発行:高松市美術館

仕様:A4判変形(29.6×19.9cm)、96頁

内容:図版(和泉希洋志/GABOMI/平野薫/八木良太/山本高之) ぐあいさつ/論考=「贈り物と交換」・「和泉希洋志—Atom Bird Mother」・「GABOMI—鳥としての写真」・「平野薫—鶴の恩返し・リバース」・「山本高之—私たちは知らないことをどのようにして知るのだろうか」毛利義嗣(高松市塩江美術館)、「八木良太—作品を読む/作品と対話する」牧野裕二、「山本高之—ワークショップ・占う」田中みなみ(高松市美術館)、「アニユアルということ」浅井俊裕(水戸芸術館現代美術センター芸術監督)、「返礼なき贈与は受け取ったものを戒める」木ノ下智恵子(大阪大学コミュニケーションセンター特任准教授)、「現代美術展を開催するということ」植松由佳(国立国際美術館主任研究員)/作家ステートメント/作家略歴/関連イベント/出品リスト



ウルトラマン・アート!

ー時代と創造ーウルトラマン&ウルトラセブン

会期 2012年9月15日(土)～10月28日(日)
 月曜日休館(9月17日、10月8日開館、9月18日、10月9日休館)
 38日間

主催 高松市美術館
 後援 朝日新聞高松総局 OHK岡山放送 産経新聞社高松支局 山陽新聞社
 RSK山陽放送 四国新聞社 KSB瀬戸内海放送 NHK高松放送局
 TSCテレビせとうち RNC西日本放送 毎日新聞高松支局 読売新聞高松総局

協力 香川大学
 特別協力 円谷プロダクション
 展示協力 西村祐次(M1号)
 企画協力 北海道立旭川美術館 北海道新聞社 キュレイターズ

入場料 一般1,000円 大学生500円 高校生以下無料
 入場者数 16,485人
 担当学芸員 三宅靖之

テレビから最初の怪獣ブームを生み出した「ウルトラQ」を先駆として、1966年(昭和41年)7月に放映が始まったテレビ番組「空想特撮シリーズ ウルトラマン」と翌年本格的なSFを目指し放映された「ウルトラセブン」。特撮SFの不朽の名作である両作品に関して、宇宙人・怪獣等のデザイン画の他、立体模型や撮影現場の記録写真、ウルトラマンをモチーフにした映像インスタレーションなど約400点を展示し、美術的な視点からウルトラマンとウルトラセブンの魅力に迫りました。

巡回会場＝北海道立旭川美術館、岩手県民会館、鹿児島市立美術館、福井市美術館、茨城県近代美術館、長崎県美術館、埼玉県立近代美術館、高松市美術館

[関連イベント]

スペシャルトークショー&サイン会

9月15日(土)13:00～14:00
 ゲスト：桜井浩子(フジ・アキコ隊員役)
 司会：浅井批文(テレビせとうちアナウンサー)
 場所：講堂(聴講無料)
 参加人数：200人

ウルトラセブンが美術館にやってくる! 写真撮影&握手会

(エントランスホール/無料)
 10月8日(月・祝)11:00～11:30、13:00～13:30、
 15:00～15:30
 参加人数：延150人

ギャラリートーク(2階展示室/観覧券要)

当館学芸員による
 9月22日(土)・10月13日(土)各14:00～
 参加人数：延90人

ワークショップ

「ミニチュアの世界を創作しよう!」☆
 子どものアトリエ「怪獣をつくろう!」☆
 エントランス・ミニコンサート★
 ☆＝教育普及の頁参照 ★＝芸術的催物の頁参照

ジオラマの世界展!(中2階/無料)

9月15日(土)～10月28日(日)
 公募によりウルトラマン・アート展をテーマとするジオラマを展示。
 展示数：13点



桜井浩子氏トークショー



会場



撮影会



ジオラマ展示

[主な掲載記事]

- ・読売新聞8月16日「ウルトラマンに美術光線」
- ・関西ウォーカー9月5日～18日「ウルトラマンワールドが来る!」
- ・四国新聞9月16日「ウルトラの世界 親子でわくわく」
- ・朝日新聞9月16日「ウルトラの世界」太田成美(記者)
- ・読売新聞9月16日「ウルトラマンはアート」島契嗣(記者)
- ・産経新聞9月16日「ウルトラマンの魅力紹介」
- ・山陽新聞10月9日「愛されるヒーロー 親子で夢中」「狙いや見どころ三宅学芸員に聞く」
- ・四国新聞10月11日「入場者1万人突破」
- ・読売新聞10月11日「来たぞ!われらに1万人」

[図録]

編集：株式会社キュレイターズ

発行：北海道新聞社

仕様：33.6×24.4cm、104頁

内容：論考＝『ウルトラマン・アート!』展の企画趣旨について 中村聖司(北海道立近代美術館)、座談会「ウルトラマンと美術館」中村聖司(北海道立近代美術館)、小泉淳一(茨城県近代美術館)、河野泰久(福井市美術館) / セクション解説＝プロローグ、フォルム、スタジオ、リクレーション/年譜 / 「ウルトラセブン」 放映一覧 / 「ウルトラマン」 放映一覧 / 出品リスト / 主な参考文献



小さな世界へようこそ!

5人のアーティストと美術館コレクションのすてきな出会い

会期 2013年2月9日(土)～3月24日(日)月曜日休館
(但し2月11日(月・祝)開館、2月12日(火)閉館)38日間

主催 高松市美術館

後援 朝日新聞高松総局 NHK高松放送局 OHK岡山放送 産経新聞社高松支局
山陽新聞社 RSK山陽放送 四国新聞社 KSB瀬戸内海放送
TSCテレビせとうち RNC西日本放送 毎日新聞高松支局
読売新聞高松総局

協力 ギャラリー小柳 タカ・イシイギャラリー ユミコチパソシエイツ

助成 公益財団法人花王芸術・科学財団

入場料 一般800円 大学生500円 高校生以下無料

入場者数 4,634人

担当学芸員 牧野裕二

小さなもの。例えば、指や首元でキラキラと輝くジュエリー、パソコンなみの機能をもつ携帯電話、工芸品のように精巧に作られたお菓子…。豊かな内容がぎゅっと凝縮されたこれら小さなものは、私たちの心をとらえてやみません。

このたびの展覧会では、5人のゲスト・アーティストが「小さな世界」をテーマに、それぞれの作品と高松市美術館コレクションを組み合わせて、ユニークな展示空間を創出しました。伊藤存は、小さなオブジェをしりとり形式でその名前順に多数並べていく《しりとりおきもの》約100点を出品。開発好明は、最小の空間でありながら豊かな空間の広がりが生み出される「茶室」を発泡スチロールを素材に展示室内に出現させました。須田悦弘は木彫でリアルに表現した草花をさりげなく展示し、その場をユニークな空間へと変容させました。照屋勇賢はファーストフードの紙袋など身近な素材を用いて、環境や経済など世界を取り巻く諸問題へと想像を促す作品を制作。渡辺おさむはお菓子やフルーツの食品サンプル技術を用いてカラフルでポップな世界を作り出しました。

アーティストたちが、自作と美術館コレクションとのコラボレーションにより生み出す、創意あふれる5つの「小さな世界」をお楽しみいただきました。

[関連イベント]

ゲスト・アーティストによるトーク

2月9日(土)13:30～16:00

場所：講堂(聴講無料)

参加人数：60人

須田悦弘公開制作

2月10日(日)9:30～16:00

場所：中2階(観覧無料)

ギャラリートーク(2階展示室/観覧券要)

当館学芸員による

2月16日(土)14:00～

参加人数：33人

美術館ボランティアcivi(シヴィ)による

会期中の日曜日及び祝日(2月10日を除く)11:00～、

14:00～(計12回)

参加人数：延158人

開発好明ワークショップ

「マグカップの中に小さな世界をつくろう!」☆

渡辺おさむワークショップ

「スイーツデコに挑戦!(こども編)」☆

伊藤存ワークショップ

「顔が顔に会うための顔をつくる」☆

アートで遊ぼう!☆

エントランス・ミニコンサート★

☆=教育普及の頁参照 ★=芸術的催物の頁参照



照屋勇賢展示



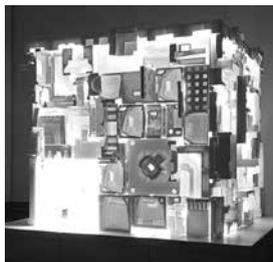
伊藤存展示



須田悦弘展示



渡辺おさむ展示



開発好明展示



ゲストアーティストによるトーク



須田悦弘公開制作

[主な掲載記事]

- ・ナイスタウンNo.430 3月号
- ・四国新聞2月7日「ポップでキュートな世界観」
- ・読売新聞2月18日「お菓子のよう 小さな世界」
- ・読売新聞2月25日「表情豊か 似顔絵アニメ」
- ・四国新聞3月18日「瀬戸芸参加者に注目「小さな世界」展」

[図録]

編集：牧野裕二(高松市美術館)

発行：高松市美術館

仕様：18.2×25.6cm、40頁

内容：ごあいさつ・謝辞／論考＝「小さな世界へのいざない」牧野裕二(高松市美術館)／図版＝照屋勇賢(ゲスト・アーティスト)、岩崎貴宏・野口里佳・さわひらき(美術館コレクション)、伊藤存(ゲスト・アーティスト)、須田悦弘(ゲスト・アーティスト)、ワシリー・カンディンスキー(美術館コレクション)、渡辺おさむ(ゲスト・アーティスト)、柳幸典・奈良美智・束芋・小沢剛(美術館コレクション)、開発好明(ゲスト・アーティスト)、伊藤隆康・宮島達男・宮永愛子(美術館コレクション)／ゲスト・アーティスト略歴／掲載図版リスト

「小さな世界へようこそ!」別冊インスタレーションビュー

編集：牧野裕二(高松市美術館)

発行：高松市美術館

仕様：14.8×20.9cm、18頁

内容：図版／作家ステートメント／出品リスト

(2) 常設展

第1 期常設展

会期：2012年4月6日(金)～6月17日(日)月曜日休館(4月30日、5月1日開館)64日間
企画担当及びギャラリートーク(6月2日(土)14:00～)三宅靖之
入場者数 4,447人

展示室1

高度経済成長期の鼓動 1962－1964年

1962-1964 : The Heartbeat of Japan's High-Economic Growth

日本の高度経済成長期である1962～64年に焦点を当て、この時代に制作された作品を展示しました。白髪一雄のアクション・ペインティングによる《天威星雙鞭呼延灼》や工藤哲巳の当時の社会を揶揄したような《あなたの肖像》、海外へ活動の場を求めた篠原有司男、堂本尚郎など、日本の戦後美術にとっての新しい表現手段が現れた時代に活躍していた作家たちが、何を求め、何を感じて制作してきたのか、前衛的美術作家20人による24点の表現形態を当時の世相とリンクさせて紹介しました。

[出品リスト]

No. 作家名/作品名/制作年/材質

- | | |
|---|--|
| 1. 襲 嘯 / Finger Box / 1963 / アタッシュケース・木 | 13. 白髪一雄 / 天威星雙鞭呼延灼 / 1964 / 油彩, 麻布 |
| 2. 池田満寿夫 / サイズはサイズ / 1963 / ドライポイント・ルーレット・エッチング・紙 | 14. 針生鎮郎 / ぼうずの陳情 / 1963 / 油彩・麻布 |
| 3. 池田満寿夫 / 化粧する女 / 1964 / ドライポイント・ルーレット・エッチング・紙 | 15. タイガー立石 / 東京バロック / 1963-1964 / 油彩・麻布 |
| 4. 磯辺行久 / WORK62-43 / 1962 / ミクストメディア | 16. タイガー立石 / 哀愁列車 / 1964 / 油彩・麻布 |
| 5. 宇佐美圭司 / 還元 NO.1 / 1963 / 油彩・麻布 | 17. 田淵安一 / 女の門 / 1962 / 油彩・麻布 |
| 6. 菊畑茂久馬 / ルーレット / 1963 / エナメル・アッサンブラージュ・木 | 18. 堂本尚郎 / 1962-21 / 1962 / 油彩・麻布 |
| 7. 工藤哲巳 / あなたの肖像 / 1963 / 木・プラスチック・ポリエステル | 19. 前川強 / 麻・赤 / 1963 / 油彩・ドンゴロス・麻布 |
| 8. 斎藤義重 / 作品 / 1962 / 油彩・合板(ドリルを使用) | 20. 前田常作 / 人間星座(丸) / 1962 / 油彩・キャンバス・一部コラージュ |
| 9. 斎藤義重 / 作品5 / 1963 / 油彩・合板 | 21. 宮脇愛子 / 作品 / 1962 / 油彩・麻布 |
| 10. 清水 晃 / 色盲検査表 No.15 / 1963 / 油彩・コラージュ・麻布 | 22. 村上善男 / Polymerization - N.V(W)の場合または腔内弾道学 / 1963 / 耐水ベニヤ・注射針・紙型・ポリエステル |
| 11. 清水 晃 / 色盲検査表 No.16 / 1963 / 油彩・コラージュ・麻布 | 23. 若林 奮 / 熱変へ / 1964 / 鉄 |
| 12. 篠原有司男 / ピストル. オン. エアメール / 1964 / シルクスクリーン・紙 | 24. 渡辺恂三 / 世上騒然 / 1964 / 油彩・麻布 |

展示室2

うるしの技/蒔醤

KINMA, Japanese Lacquer Technique

現在の「讃岐漆芸」は、江戸時代に高松藩主松平頼重のもと保護奨励され、藩主に重用された玉楮象谷が、明時代の存清、蒔醤、紅花緑葉など中国伝来の漆塗技法を研究したものです。蒔醤は、漆塗りの面に剣で文様を彫り、その凹みに色漆を埋めて研ぎだす技法です。この技法は数々の漆芸作家によって現代に引き継がれています。なかでも讃岐漆芸の祖といわれる象谷を研究されていた磯井如真は、凸版写真印刷からヒントを得た「点彫り蒔醤」を創案し、1956(昭和31)年重要無形文化財蒔醤保持者に認定されました。また、如真の三男である磯井正美は、均一の平面に斑文を生じさせる独自の蒔醤技法などにより、1985(昭和60)年父、如真と同じ蒔醤保持者に認定されました。さらに、太田儔は、藍胎を素地とした「布目彫り蒔醤」により、1994(平成6)年重要無形文化財蒔醤保持者に認定されました。このように古くからの蒔醤技法を研究することにより、新しい技法が生み出されて漆芸作品は、日々発展してきています。

このたびの展示では、江戸時代に研究されてから今日まで受け継がれてきた蒔醤表現の多様性を、12作家30作品により紹介しました。

[出品リスト]

No. 作家名/作品名/制作年/材質はすべて漆

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 明石朴景 / 蒔醤 水仙華紋筐 / 1947 | 16. 太田 儔 / 藍胎蒔醤 食籠 朱と白 / 1990 |
| 2. 明石朴景 / 蒔醤 紅梅紋筐 / 1948 | 17. 太田 儔 / 藍胎蒔醤 双色紙箱 潮騒 / 1991 |
| 3. 伊賀寛泰 / 彩漆蒔醤 飾箱 秋彩 / 1990 | 18. 太田 儔 / 藍胎蒔醤 盛器 チェリーボート / 1998 |
| 4. 磯井如真 / 蒔醤 香盆 密竹之圖 / 1943 | 19. 太田 儔 / 藍胎蒔醤 八角食籠 虫の図 / 2000 |
| 5. 磯井如真 / 乾漆蒔醤 水指 瀬戸内之圖 / 1949 | 20. 太田 儔 / 藍胎蒔醤 茶箱 浅春 / 2004 |
| 6. 磯井如真 / 蒔醤 千菓子盆 亀鶴松竹梅之圖 / 1963 | 21. 大谷早人 / 藍胎蒔醤 文箱 / 1989 |
| 7. 磯井正美 / 蒔醤 むらさき 箱 / 1990 | 22. 大谷早人 / 藍胎蒔醤 網代文 / 1997 |
| 8. 磯井正美 / 蒔醤 櫻花月彩 盆 / 2000 | 23. 岡田章人 / 蒔醤 雪柳之圖 手筈 / 1947 |
| 9. 磯井正美 / 蒔醤 墨流文香盆 / 1967 | 24. 佐々木文夫 / 藍胎蒔醤 盛器 / 1982 |
| 10. 磯井正美 / 蒔醤 月あかり 食籠 / 1973 | 25. 佐々木正博 / 蒔醤 草花文八角箱 / 2011 |
| 11. 磯井正美 / 蒔醤 蒲甘月映合子 / 1992 | 26. 玉楮象谷 / 彩色蒔醤 水指棚 / 1853 |
| 12. 磯井正美 / 蒔醤 翁草 菓子器 / 1995 | 27. 山下義人 / 蒔醤 色紙箱 波がさね / 1988 |
| 13. 太田加津子 / 藍胎蒔醤 盛器 波文 / 1986 | 28. 山下義人 / 蒔醤箱 くれない / 2005 |
| 14. 太田 儔 / 蒔醤 喰籠 竹林の図 / 1971 | 29. 山下義人 / 蒔醤箱 山笑う / 2011 |
| 15. 太田 儔 / 藍胎蒔醤 瀬戸内の棚 / 1978 | 30. 作者不詳 / ビルマ蒔醤 懸子付 盒子 |

第2期常設展

会期：2012年6月23日(土)～9月2日(日)月曜日休館
(7月16日開館、7月17日休館)62日間

企画担当 毛利直子、ギャラリートーク(7月7日(土)14:00～)川西弘一

ワークショップ「現代美術講釈入門」☆、子どものアトリエ「子ども現代美術講釈入門」☆

入場者数 3,431人

☆=教育普及の頁参照

展示室1

旅のはざまでー私はここにいますー In Between Journeys : Here I am

最近収蔵品に加えられた作品の中から、海外に拠点を置いた作家にスポットを当てました。特にドイツに滞在した作家が多いのですが、ちょうど高松市美術館では、1922年、若干21歳でベルリンにわたり、ダダや構成主義などの新興芸術を吸収した村山知義(1901-1977)の特別展「村山知義の宇宙」展(5/26～7/1)を開催しました。村山から半世紀以上の時間を経て、ドイツに降り立った美術作家には、海や地平線を「境界」のシンボルとして描くイケムラレイコ、世界中で大型プロジェクトに取り組む西野達、生と死の両義を見せる塩田千春、ドイツ国立デュッセルドルフ芸術アカデミーに学んだ奈良美智(1959年生)と村瀬恭子、同時期デュッセルドルフに滞在したO JUNらがいます。その他、イギリスやニューヨークに滞在した作家による作品、あわせて13作家、16点を紹介しました。

[出品リスト]

No. 作家名/作品名/制作年/材質

- | | |
|---|---|
| 1. イケムラレイコ / Pacific Red / 2006 / 油彩・麻布 | 8. さわひらき / eight minutes / 2005 / DVD |
| 2. 大岩オスカル / 虹 / 2003 / 油彩・キャンバス | 9. 塩田千春 / トラウマ/日常 / 2007 / 糸、鉄棒、服、アクリル絵具 |
| 3. 大竹伸朗 / 車窓 / 2000-01 / プリント・アクリル絵具・布・紙・アルミ | 10. 志賀理江子 / カナリア門 / 2006-07 / カラー写真(内10点程度) |
| 4. O JUN / 湖畔 / 2009 / 油彩・キャンバス | 11. 照屋勇賢 / You-I Flat Work Large / 2009 / 紅型・麻 |
| 5. O JUN / 津波 / 2010 / 油彩・キャンバス | 12. 奈良美智 / 地雷探知機 / 1993 / 油彩・キャンバス ※寄託作品 |
| 6. 金氏徹平 / Ghost in the Liquid Room #4 / 2010 / コラージュ(切り抜いた印刷物・蛍光紙) | 13. 西野達 / Life's Little Worries in Berlin / 2007 / Cプリント / ed.4/5 |
| 7. 金氏徹平 / Day Tripper(Sculpture of Photograph of paint#4) / 2010 / プラスチック、写真、ホットグルー | 14. 春木麻衣子 / rain / 2004 / タイプCプリント(2点) |
| | 15. 村瀬恭子 / Stage / 2010 / 油彩、色鉛筆・綿布 |
| | 16. 村瀬恭子 / Thistle / 2011 / 油彩、色鉛筆・綿布 |

展示室2

鳥と蝶ー飛翔 Soaring : Birds & Butterflies

今回の展示では、漆芸作品の中に見られる「飛翔」の姿、特に鳥と蝶があしらわれたものを紹介しました。讃岐漆芸の祖といわれる玉楮象谷の弟である藤川黒斎の《存清宴盆》では、伝統的な図柄の花鳥たちが人々の暮らしのハレの華やぎを盛り上げたことでしょう。その後、明治末頃には、讃岐漆器と讃岐彫の店「百花園」とその周辺で、石井馨堂、鎌田稼堂らが研鑽しあい、優れた彫漆作品を生み出しましたが、今回水鳥の伸びやかな様子を見ることが出来ます。そして、馨堂の一番弟子となった音丸耕堂は蘇鉄に見え隠れするアゲハ蝶を大胆なデザインの中に配し、彫漆の重厚さが意匠と相まっています。また、音丸に続き、翌1956(昭和31)年に重要無形文化財「蒔醬」保持者に認定された磯井如真は、アール・デコの影響の中にあつてモダンな鳥《ホロホロ鳥》を生み出し、その当時の工芸界の雰囲気は岡田章人や横山操作品にも見られました。やや時代が下り、明石朴景や大西忠夫の様式化された蝶や鳥、真子実也の錆漆を使った鳥の飛翔、そして最近の磯井正美や太田儒の作品など、讃岐漆芸における「飛翔」の造形世界を16作家、33点の作品によりお楽しみいただきました。

[出品リスト]

No. 作家名/作品名/制作年/材質はすべて漆

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 藤川黒斎 / 存清宴盆 | 17. 磯井正美 / 蒔醬存清 林間爽風 箱 / 1987 |
| 2. 藤川蘭斎 / 存清 饌合 / 1890頃 | 18. 磯井正美 / 蒔醬 紫 水差 / 1990 |
| 3. 玉楮蔵谷 / 堆朱香合 / 1910頃 | 19. 磯井正美 / 蒔醬 あまちゃ箱 / 1998 |
| 4. 石井馨堂 / 堆朱蜀葵山鶴圖香盆 / 1910年頃 | 20. 磯井正美 / 蒔醬 梅花吸蜜 箱 / 2003 |
| 5. 鎌田稼堂 / 堆朱月茶入合 | 21. 太田 儒 / 藍胎蒔醬 色紙箱 / 1974 |
| 6. 鎌田稼堂 / 堆朱菱盆 / 1941～45 | 22. 太田 儒 / 藍胎蒔醬 茶箱 春風 / 1998 |
| 7. 佐々竹僊 / 堆漆香盆 花物之図 / 1943 | 23. 磯井如真 / サボテンにホロホロ鳥 彫漆飾棚 / 1936 |
| 8. 佐々竹僊 / 狭貫彫 手筈 瑞雲鳴鳳之圖 / 1951 | 24. 磯井如真 / 鶴 香合 / 1939 |
| 9. 音丸耕堂 / 彫漆七面鳥香盆 / 1928 | 25. 磯井如真 / 雉子 香合 / 1940 |
| 10. 音丸耕堂 / 堆朱板文庫 昆虫之圖 / 1928 | 26. 磯井如真 / 彫漆蒔醬 色紙箱 / 1946 |
| 11. 音丸耕堂 / 讃岐彫 堆漆紅花緑葉香合 / 1929 | 27. 磯井如真 / 瑞鳥蒔醬香盆 / 1947 |
| 12. 音丸耕堂 / 彫漆蘇鐵文食籠 / 1948 | 28. 磯井如真 / 蒔醬 干菓子盆 遊鳥之圖 / 1963 |
| 13. 横山 操 / 彫漆白い鳥 八角香盆 | 29. 明石朴景 / 群蝶夢スクリーン / 1959 |
| 14. 岡田章人 / 彫漆鳳凰文鉢 / 1937 | 30. 真子実也 / 在る日 / 1961 |
| 15. 岡田章人 / 彫漆花鳥文筥 / 1965 | 31. 大西忠夫 / 宵 文筥 / 1950 |
| 16. 香川宗石 / 讃岐漆 存清花蝶紋 色紙箱 / 1965頃 | |

第3期常設展

会期：2012年9月8日(土)～10月28日(日)月曜日休館

(9月17日、10月8日開館、9月18日、10月19日は休館)44日間

企画担当及びギャラリートーク(2012年10月6日(土)14:00～)川西弘一

入場者人数 5,673人

展示室1

ピカソからウォーホルまで－20世紀美術の系譜

PICASSO to Warhol – Genealogy of 20th century Art

20世紀を代表する芸術家パブロ・ピカソ(1881～1973)は、その生涯を閉じるまで、今世紀の美術を常にリードしつづけ、今日では最も名を知られた芸術家のひとりとして有名です。ピカソの版画作品の中でも特に名高い《貧しき食事》は、貧困のどん底にある男女が、形ばかりの食事を前に互いの愛を確かめ合う場面を表現しており、《コンポートのある静物》では、キュビズムの手法で、果物などを盛る足つきの皿や果物を表現しています。一方、アンディ・ウォーホル(1928～1987)は戦後のアメリカ文化を体現するスーパースターです。ニューヨークで1950年代にグラフィック・デザイナーとして出発したウォーホルは、60年代の初めにマリリン・モンローやエルヴィス・プレスリー、コカコーラの瓶などの大衆的なイメージをシルクスクリーンなどによって機械的に反復した絵画を発表して美術界に衝撃を与え、ポップ・アートを代表する芸術家となりました。《マリリン》や《フラワー》では、映画の宣伝用写真やパンジーの花の写真の色彩を変えて表現した作品です。

このたびの展示では、20世紀美術において重要な役割を果たした二大巨匠にスポットをあて、20世紀美術の代表的な美術様式を含めた16作家による版画作品39点をご紹介します。

[出品リスト]

No. 作家名/作品名/制作年/材質

1. アンディ・ウォーホル/フラワーズ/1970/シルクスクリーン・紙
2. アンディ・ウォーホル/ヨーゼフ・ボイス/1980/83/シルクスクリーン・紙
3. アンディ・ウォーホル/ジャクリヌ・ケネディII/1965/シルクスクリーン・紙
4. アンリ・マティス/横たわるオダリスクと果物鉢/1925/リトグラフ・紙
5. サルヴァドール・ダリ/聖母受胎/1930/エッチング・紙
6. サルヴァドール・ダリ/見える女/1930/エッチング・紙
7. ジョルジュ・ブラック/キュビズムの静物/1912/エッチング・紙
8. ジョルジュ・ブラック/パル(テーブルの上のバスの瓶とコップ)/1911/エッチング・紙
9. ジョルジュ・ブラック/コンポジション(静物I)/1911/エッチング・紙
10. ジョアン・ミロ/岩壁の軌跡IV/アクアチント・紙
11. ジャン・デュビュッフェ/遊びと仕事/リトグラフ・紙
12. ジャクソン・ポロック/無題(P-13)/エングレーヴィング、ドライポイント・紙
13. ジャクソン・ポロック/無題(P-14)/エングレーヴィング、ドライポイント・紙
14. ジャクソン・ポロック/無題(P-16)/エングレーヴィング、ドライポイント・紙
15. ジャスパー・ジョーンズ/ナンバーズ/1967/リトグラフ・紙
16. ジャスパー・ジョーンズ/フラッグI/1973/シルクスクリーン・紙
17. ジャスパー・ジョーンズ/サヴァリン/1977/カラーリトグラフ・紙
18. ジャスパー・ジョーンズ/おとり/1971/リトグラフ・紙
19. ジャスパー・ジョーンズ/無題/1977-80/リトグラフ・紙
20. ジェームズ・ローゼンクイスト/マリリン/1974/リトグラフ・紙
21. ジェームズ・ローゼンクイスト/エア・コード/1969/リトグラフ・紙
22. ジェームズ・ローゼンクイスト/フラミンゴ・カプセル/1973/リトグラフ・紙
23. パブロ・ピカソ/貧しき食事/1904/エッチング・紙
24. パブロ・ピカソ/コンポートのある静物/1909/ドライポイント・紙
25. パウル・クレー/情熱の園/1913/エッチング・紙
26. フランク・ステラ/ベルシアの星I/1967/リトグラフ・紙
27. フランク・ステラ/ベルシアの星II/1967/リトグラフ・紙
28. フランク・ステラ/ダブル・グレイ・スクランブル/1973/シルクスクリーン・紙
29. マルセル・デュシャン/階段を降りる裸婦No.2/1937/複製、鉛筆、紙
30. マルセル・デュシャン/L.H.O.O.Q./1964/複製、鉛筆
31. マルセル・デュシャン/ひげをそったL.H.O.O.Q./1965/トランプ・カード
32. マックス・エルンスト/星型の城/1936/フロッターージュ(彩色)・紙
33. マックス・エルンスト/危険な照応/1947/ドライポイント・エッチング・紙
34. マックス・エルンスト/太陽・都市の全景/1968/リトグラフ・紙
35. ロバート・ラウシエンバーグ/兆候/シルクスクリーン・紙
36. ロバート・ラウシエンバーグ/ランドマーク/リトグラフ・紙
37. ロイ・リキテンシュタイン/クラック/1964/リトグラフ・紙
38. ロイ・リキテンシュタイン/泣く女/1963/リトグラフ・紙
39. ロイ・リキテンシュタイン/筆の跡/1967/シルクスクリーン・紙

香川の人間国宝－音丸耕堂・磯井如真・磯井正美・太田儔

Living National Treasures of Kagawa, Japan : OTOMARU,Kodo/ISOI,Joshin/
ISOI,Masami/OTA,Hitoshi

香川県ではこれまでに、讃岐漆芸の代表的な加飾技法である彫漆と蒔醤の技法で、4名の漆芸家が人間国宝(重要無形文化財保持者)に指定されています。音丸耕堂は豊富な色漆の駆使と大胆な意匠により彫漆における独自の境地を切り拓き、1955年(昭和30)彫漆保持者に認定されました。また、讃岐漆芸中興の祖とも称されている磯井如真は、凸版写真印刷からヒントを得た点彫り蒔醤を創案し、色漆の濃淡や奥行き表現に成功し、1956年(昭和31)蒔醤保持者に認定されました。また、如真の三男である磯井正美は、均一の平面に斑紋を生じさせる独自の技法により、蒔醤の表現領域を飛躍的に広げ、1985年(昭和60)蒔醤保持者に認定されました。さらに、太田儔は、藍胎を素地とした布目彫り蒔醤により、蒔醤の絵画的表現領域を深め、1994(平成6)蒔醤保持者に認定されています。

本展では、香川県が輩出した4名の人間国宝(重要無形文化財保持者)の名品37点を通して、讃岐漆芸の魅力を探りました。

[出品リスト]

No. 作家名/作品名/制作年/材質はすべて漆

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 磯井如真/草花文 乾漆花瓶 / 1930 2. 磯井如真/里芋之図 彫漆花瓶 / 1936 3. 磯井如真/乾漆花瓶 / 1937 4. 磯井如真/蜻蛉之図 香合 / 1937 5. 磯井如真/堆朱 柿香合 / 1941 6. 磯井如真/堆黒香盆 秋趣競味 7. 磯井如真/堆黒香盆 麒麟之図 / 1946 8. 磯井如真/蒔醤筆管 銀葉アカシヤ之図 / 1957 9. 磯井如真/飾棚竹林之図 / 1958 10. 磯井正美/捲胎 蒔醤 雲気文 花瓶 / 1963 11. 磯井正美/蒔醤 陽炎 丸盆 / 1972 12. 磯井正美/蒔醤彫漆 茜空 手箱 / 1978 13. 磯井正美/蒔醤 石庭 色紙箱 / 1979 14. 磯井正美/蒔醤 思草 色紙箱 / 1987 15. 磯井正美/蒔醤 石畳 箱 / 1987 16. 磯井正美/蒔醤 蒲甘月映合子 / 1992 17. 磯井正美/蒔醤 つばき文箱 / 1994 18. 磯井正美/蒔醤 根都古具佐 箱 / 1996 19. 磯井正美/蒔醤 五友文 盛器 / 1997 | <ol style="list-style-type: none"> 20. 音丸耕堂/讃岐彫 堆漆紅花緑葉香合 / 1929 21. 音丸耕堂/彫漆八仙花香合 22. 音丸耕堂/堆黒讃岐富士香合 / 1929 23. 音丸耕堂/彫漆食籠 / 1932 24. 音丸耕堂/彫漆菓子盆 / 1932 25. 音丸耕堂/堆朱南瓜文色紙箱 / 1949 26. 音丸耕堂/彫漆草花文八陵菓子器 / 1957 27. 音丸耕堂/彫漆水仙手箱 / 1975 28. 太田 儔/木地蒔醤 食籠 / 1970 29. 太田 儔/蒔醤食籠 竹林之図 / 1971 30. 太田 儔/藍胎存清 短冊箱 連翹の図 / 1987 31. 太田 儔/藍胎箱 波文 / 1990 32. 太田 儔/藍胎蒔醤 食籠 朱と白 / 1990 33. 太田 儔/藍胎蒔醤 双色紙箱 潮騒 / 1991 34. 太田 儔/藍胎蒔醤 短冊箱 夏ぐみ / 1996 35. 太田 儔/藍胎蒔醤 盛器 チェリーボート / 1998 36. 太田 儔/藍胎蒔醤 八角食籠 虫の図 / 2000 37. 太田 儔/藍胎蒔醤 茶箱 浅春 / 2004 |
|--|---|

第4期常設展

会期：2012年11月3日(土・祝)～12月24日(月・祝)月曜日休館
(12月24日は開館)45日間
企画担当及びギャラリートーク(12月1日(土)14:00～)三宅靖之
入場者数 1,746人

展示室1

女性陶芸家との出会い

An Encounter with Female Clay Artists

前衛陶芸の動きは、1950年代の中ごろから日本、アメリカにおいて同時期に現れました。日本では八木一夫、鈴木治、山田光ら「走泥社」の作家たちが先駆者となりました。そこには、陶芸作品に何らかの意味を持った器物としてではなく、美術性に重点をおいたオブジェに近い抽象形体の「やきもの」がありました。そのような時代、陶芸界における女性作家の進出は目覚ましいものがありました。彼女たちは、古いしきたりや因習に阻まれ、体力的にも困難といわれてきたこの分野で、男性中心の世界を打ち破ろうとしたのです。1957年(昭和32)に坪井明日香の呼びかけにより、7人の女性陶芸家らがわが国初の女性陶芸家集団「女流陶芸」を結成し、女性の陶芸進出の草分けとなっていきました。それから約50年の歳月を経た現在では、陶芸に新しい息吹を吹き込む女性陶芸家たちの姿を見ることができます。

今回の展示では、8人の女性作家の作品16点により、自らの主張と新たなアイデンティティによる、戦後女性作家のよる創造性豊かな世界をご紹介します。

[出品リスト]

No.作家名/作品名/制作年/材質

1. 荒木高子/砂の聖書/1983/陶土
2. 小川待子/K-2000/2000/陶(5点組)
3. 久谷薫枝/包 I I A/1977/陶土
4. 久谷薫枝/包 I I C/1977/陶土
5. 久谷薫枝/包 I I D/1977/陶土
6. 久谷薫枝/包 I I E/1977/陶土
7. 久谷薫枝/包 I I G/1977/陶土
8. 重松あゆみ/Yellow Fish/1998/陶

9. 重松あゆみ/骨の耳'98-7/1998/陶
10. 重松あゆみ/Inner Space/陶
11. 田嶋悦子/Cornucopia99-I/1999/陶・ガラス
12. 田嶋悦子/Cornucopia99-IV/1999/陶・ガラス
13. 坪井明日香/唐織追想行道(ゆくみち)/1990/陶土
14. 松田百合子/太陽の唇よ! I/1987/磁土
15. 松田百合子/太陽の唇よ! II/1987/磁土
16. 三島喜美代/Newspaper72/1972・73/陶土(6点組)

展示室2

香合—香りのうつわ—

Incense Cases — Containers for Scents —

わが国での香りの歴史は、538年の仏教伝来とともに始まったといわれており、仏前に香を供え、室内を浄化するための献香としておこなわれていました。香を入れる容器としては、古いものでは法隆寺、正倉院の塔鉢(とうまり)があります。これは金属製で、抹香を入れて使用されたものでした。やがて、室町時代に茶の湯が成立し、佗び茶が志向されるころ、茶室においても香が焚かれて、そこで使われる香合の存在が確立されます。香合は、炭点前の折に、練り香などを入れるために使用される小さな器のことを指しています。特に漆を用いた香合は、茶人によりにわかに関心が注がれていくこととなります。そのため茶席での鑑賞に堪えるものでなければなりません。香合には、緻密に彫りを施したり、丹念に作り込まれた作品が生まれています。

今回の展示では、香川で江戸時代後期に玉楮象谷が基礎を築き、現代まで伝統的に受け継がれてきた讃岐漆芸作品の中から香合に焦点をあてます。玉楮象谷をはじめ石井馨堂、鎌田稼堂ら14人の名工による作品40点の繊細な美の世界をお楽しみいただきました。

[出品リスト]

No. 作家名/作品名/制作年/材質はすべて漆

1. 石井馨堂/紅花緑葉 香合/1931
2. 石井馨堂/狹貫彫 重香合/1931
3. 石井馨堂/狹貫彫 布袋図 堆朱香合/1942
4. 石井馨堂/狹貫彫 蕪図 堆朱香合/1943
5. 石井馨堂/狹貫彫 牡丹図 堆黒香合/1943
6. 石井馨堂/紅花緑葉 香合
7. 磯井如真/彫漆 香合 菜果之図/1940頃
8. 磯井如真/雉子 香合/1940
9. 磯井如真/堆朱 香合 豊熟/1941頃
10. 磯井如真/堆黒 香合 海幸之圖/1941頃
11. 磯井如真/堆黒 香合 山野競味/1942
12. 磯井如真/堆朱 柿香合
13. 植田如僊/彫漆 香合/1937
14. 岡部敬象/堆漆 香合
15. 音丸耕堂/堆朱 香合 雀の御宿
16. 鎌田稼堂/堆黒 盧蟹 香合/1947
17. 鎌田稼堂/堆黒 放牛 香合/1940頃
18. 鎌田稼堂/堆黄 かまきり模様香合/昭和初期
19. 鎌田稼堂/堆黒 蜀葵 香合/昭和初期
20. 鎌田稼堂/堆朱 虫 香合

21. 鎌田稼堂/堆朱 クモ 香合
22. 鎌田稼堂/堆黒 旭海老 香合
23. 鎌田稼堂/堆黒 地紅海老 香合
24. 鎌田稼堂/堆黒 地紅 香合
25. 鎌田稼堂/堆黒 葦蟹 香合
26. 佐々竹僊/狹貫彫 堆黒香盒 鳥之圖/1947
27. 高木吉直/飯山 香合/1922
28. 高橋皖山/風月三毘 福祿壽 圖紅花緑葉香合/1919
29. 高橋皖山/福祿壽 牡丹華之圖 堆黒香合
30. 玉楮雪堂/堆朱 香合/明治中期
31. 玉楮象谷/堆黒 香合/1830頃
32. 玉楮象谷/存清 香合/1842
33. 玉楮象谷/狹貫彫 堆黒 松ヶ浦香合(天)/1851
34. 玉楮象谷/狹貫彫 堆黒 松ヶ浦香合(松)/1851
35. 玉楮象谷/狹貫彫 堆黒 松ヶ浦香合(は)1851
36. 玉楮象谷/堆黒 香合
37. 玉楮象谷/堆朱 香合
38. 玉楮象谷/堆黒 香合/1910頃
39. 玉楮象谷/堆朱 香合/1910頃
40. 森 象堂/紅花緑葉 香合 福壽天来図/1966

第5期常設展

会期：2013年1月5日(土)～3月31日(日)月曜日休館

(1月14日、2月11日は開館 1月15日、2月12日は休館)74日間

企画担当及びギャラリートーク(2013年3月2日(土)14:00～)川西弘一

入場者人数 4,732人

展示室1

現代アートのたのしみー草間彌生から奈良美智まで

From Yayoi Kusama to Yoshitomo Nara : The Pleasure of Contemporary Art

第二次大戦後、海外に長期間滞在することによって世界的な新しい美術運動に直接参加するなど、海外で評価される日本の画家たちが数多く登場します。1929年に渡欧した岡本太郎は、パリで結成された非具象主義などの前衛運動に参加し、帰国後も一貫してモダニズムを批判しつづけてきました。また、1957年に渡米した草間彌生は増殖する無限の網や水玉からなる作品で注目され、長く旺盛な活動を展開しています。1950年代以降、欧米では次々と前衛運動が起こりましたが、フランスの批評家ミシェル・タビエが唱導したアンフォルメル(非定形絵画)運動では、今井俊満や堂本尚郎がこの運動に参加し、わが国のアンフォルメル運動の中心的な役割を果たしています。

このたびの展示では、1950年代から2000年代までのアートシーンで注目を集めてきた日本の現代作家15人による作品20点を展示しました。

[出品リスト]

No. 作家名/作品名/制作年/材質

- | | |
|---|---|
| 1. 荒川修作/ THE CALL OF CONTINUITY / 1976～77 / 油彩、アクリル、鉛筆・麻布 | 11. 杉野洋 / Atelier Augarten 中断の時 / 2006 / アクリル・麻布 |
| 2. 今井俊満/夜の讃歌 / 1956 / 油彩・麻布 | 12. 辰野登恵子 / Work 86-P-13 / 1986 / 油彩・麻布 |
| 3. 岡本太郎/生成 / 1961 / 油彩・麻布 | 13. 堂本尚郎 / Peinture 1962-21 / 1962 / 油彩・麻布 |
| 4. 川端実 / RED FORM(C)1974 / アクリル・麻布 | 14. 中村一美 / モレーン / 1987 / 油彩・麻布 |
| 5. 草間彌生 / 無限の網 H.H / 1961 / アクリル・麻布 | 15. 奈良美智 / Milky Lake / 2001 / アクリル・リネン |
| 6. 草間彌生 / Airmail Accumulation / 1961 / コラージュ・紙 | 16. 村上隆 / Red Rope / 2001 / アクリル・麻布・板 |
| 7. 草間彌生 / Untitled / 1961 / コラージュ・紙 | 17. 村上隆 / Game / 2001 / アクリル・麻布・板 |
| 8. 草間彌生 / 無題(金色の椅子のオブジェ) / 1966 / ミクストメディア | 18. 村上隆 / Project KO2 1999 Perfect Edition / 1999 / レジンキャスト・ラッカー系塗料 |
| 9. 桑山忠明 / 無題一赤一 / 1961 / アクリル・麻布 | 19. 山田正亮 / Work C-93 / 1961-62 / 油彩・麻布 |
| 10. 篠原有司男 / モーターサイクルツイステッド / 1973 / カードボード・ポリエステル樹脂 | 20. 吉原治良 / 作品 / 1971 / 油彩・麻布 |

展示室2

高松の金工家たち

Metalwork Artists of Takamatsu

日本の工芸家が、自分自身の内部にひそむ自己というものの存在にめざめ、それを制作において表現しはじめたのは1920年代のことでした。大正14(1926)年に欧米各国を巡り帰国した津田信夫からアール・デコやロシア構成主義などの新しい動向を伝えられた若手の金工家たちは、翌年に伝統形式の打破や工芸の近代化を目的として「無型」(むけい)を結成します。高村豊周や高松出身の北原千鹿を中心とするこの革新的な工芸グループは、伝統の旧弊を打破し新時代の工芸を目指し、斬新な作品を制作しました。昭和2(1927)年、日展の前身である第8回帝展に悲願の美術工芸部が新設されると、千鹿や豊周らは、連続して特選を受賞するなど、華々しい活動を展開します。また、同年、金工芸界の革新を標榜して結成された「工人社」は、千鹿が中心となり、信田洋、山脇洋二らと並んで大須賀喬、鴨幸太郎、鴨政雄、後藤学ら同郷の高松出身者を包含し、昭和15(1940)年に解散するまで、昭和初期の工芸界で重要な役割を果たしました。

このたびの展示では、昭和初期にかけて工芸界をリードした北原千鹿、大須賀喬、鴨政雄のほか、戦後も日展を中心に目覚ましい活躍を続けた高松出身者の金工家など、あわせて10作家による作品30点を紹介しました。

[出品リスト]

No. 作家名/作品名/制作年/材質

- | | |
|-------------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 井尾敏雄 / 華文金彩花瓶 / 鉄 | 16. 北原千鹿 / 鍍金 / 毛彫竹二水文水指 / 1938頃 / 銅 |
| 2. 大須賀 選 / 銀彩銅鳥形盤 / 1981 / 銅 | 17. 北原千鹿 / 鳩 / 1939 / 銀・青銅 |
| 3. 大須賀 選 / みちしるべ / 1967 / 真鍮・ガス溶接 | 18. 北原千鹿 / 瑞雲 料紙函 / 1941 / 黄銅 |
| 4. 大須賀 喬 / 鳳凰文銀小壺 / 1937 / 銀 | 19. 北原千鹿 / 紙切 / 昭和初期 / 銅 |
| 5. 大須賀 喬 / 胡蝶紋手筥 / 1954 / 銀 | 20. 北原千鹿 / 金地毛彫皇土讃迎図 手函 / 1944 / 銅 |
| 6. 大須賀 喬 / 金彩虫の壺 / 1978 / 銀 | 21. 北原千鹿 / 鍍金鳴潮図 水指 / 銅 |
| 7. 大須賀 喬 / 象嵌鉄壺 蝶宴 / 1979 / 鉄・銀象嵌 | 22. 北原千鹿 / 毛彫菩薩像 / 黄銅 |
| 8. 鴨 幸太郎 / 喫煙具 / 1930 / 真鍮・漆・木 | 23. 北原千鹿 / 法冠 / 1949 / 銅 |
| 9. 鴨 幸太郎 / 鳥獸紋 香炉 / 1938 / 銅 | 24. 北原千鹿 / 双魚置物 / 1951 / 銅 |
| 10. 鴨 幸太郎 / 蛙と水草文香炉 / 1955 / 銀・銅 | 25. 後藤 学 / 鉄地打出銀布目遊心図手箱 / 鉄 |
| 11. 鴨 幸太郎 / 壁掛 蛙 / 1952頃 / 銀 | 26. 後藤 学 / 毛彫鍛鉄花瓶 / 鉄 |
| 12. 鴨 政雄 / 花器 蛾と月見草 / 1937 / 真鍮 | 27. 後藤 学 / 山葡萄 鍛鉄 置物 / 鉄・銅 |
| 13. 鴨 政雄 / トカゲと蝶紋花瓶 / 1952 / 真鍮 | 28. 羽原秋芳 / 鍛金 鉄の器 / 1967 / 鉄 |
| 14. 鴨 政雄 / 彫金盛器 蝶と玉羊歯模様 / 1957頃 / 銀 | 29. 羽原一陽 / 象嵌花器 窓 / 1967 / 銅 |
| 15. 鴨 政雄 / 彫金盛器 秋香 / 1980 / 銀 | 30. 三好真長 / 目貫 唐獅子 / 銅 |

2. 教育普及

[学期制実技講座]

場所：講座室(受講料12,000円、材料費4,000円(シルクスクリーン)・3,000円(銅版画))

対象：高校生以上

講座名	講師	参加者数[前期/後期]	日数	曜日	時間
版画(入門)	下村 宏	30人[15人/15人]	30日	毎金曜日	9:30～12:30

[ワークショップ]

場所：記載のないものは講座室

きみのみらいをおしえます

子どもたちが新しい占いの方法を考え、衣装・道具・ブースをサポーターと共に製作し、実演風景をビデオ撮影。造作物及び映像にて展示。特別展「高松コンテンポラリーアート・アニュアルvol.02」関連。

6月16(土)・17日(日)・23日(土)・24日(日)4回通し各10:00～16:00
(発表会)7月29日(日)14:00～16:00

講師：山本高之(映像作家)

場所：中2階、エントランスほか

受講料：500円

対象：小学2年生～4年生

参加人数：11人



チルドレン・プライド8.4 in 高松

日頃思っている願い事や言いたい事を書いたプラカードを掲げ、コールアンドレスポンスした。特別展「高松コンテンポラリーアート・アニュアルvol.02」関連。

8月4日(土)13:00～16:30

講師：山本高之(映像作家)

場所：講座室、丸亀町商店街ほか

対象：5～10歳

参加人数：17人



Boxing

自身の好きなものなどを段ボール箱の内側にコラージュし、それをかぶってエントランスホールを徘徊した。特別展「高松コンテンポラリーアート・アニュアルvol.02」関連。

8月5日(日)10:00～15:00

講師：山本高之(映像作家)

場所：講堂、エントランスホール

対象：高松市立古高松中学校・香川大学教育学部附属高松中学校 各美術部員

参加人数：20人



現代美術講釈入門

日本の伝統的な話芸である「講釈」についてレクチャーと実演を行い、参加者は第2期常設展展示作品の「講釈」を各自考え、披露した。第2期常設展関連。

8月11日(土)12:00～15:00

講師：やなぎみわ(現代美術家)、山本麻貴(舞台女優)

場所：講座室、常設展示室

受講料：500円

対象：高校生以上

参加人数：9人



3次元のドローイング

赤と青のペンを使って透明の球体に3次元のドローイングをした。特別展「高松コンテンポラリーアート・アニュアルvol.02」関連。

8月18日(土)14:00～16:00

講師：八木良太(美術家)

受講料：500円(材料費400円)

対象：小学生以上

参加人数：20人



大人のコマ撮リアニメ

バケーションをテーマに体を動かして1コマずつ写真を撮りアニメを制作した。特別展「高松コンテンポラリーアート・アニュアルvol.02」関連。

8月25日(土)14:00～16:00

講師：GABOMI(写真家)

場所：講座室、エントランスホールほか

受講料：500円

対象：高校生以上

参加人数：10人



ミニチュアの世界を創作しよう!

25cm四方の空間に縮小された世界を創作し、デジタルカメラを使って特撮写真を撮影した。特別展「ウルトラマン・アート!」関連。

9月17日(月・祝)9:30～16:00
講師：前田幸男(香川進空会所属)
アシスタント：高橋章(写真家)
受講料：500円(材料費300円)
対象：小学3年～中学生
参加人数：26人



マグカップの中に小さな世界をつくらう!

底に小さなオブジェがあるマグカップを作り、電気窯で焼いて参加者に渡した。特別展「小さな世界へようこそ!」関連。

2月9日(土)9:30～12:00
講師：開発好明(美術家)
受講料：500円(材料費400円)
対象：小学生以上
参加人数：17人



場所：記載のないものは講座室

日本画にチャレンジ!—張子人形(干支)を描こう

干支の張子から好きな人形を選び、日本画の画材を使って色紙に絵を描いた。特別展「春の京都から、日本画名品展」関連。

4月15日(日)9:30～16:00
講師：北地孝(日本画家、香川県美術家協会顧問)
受講料：500円(材料費500円)
対象：小学生3年～中学1年生
参加人数：9人



スイーツデコに挑戦!(こども編)

フォトフレームにフェイククリームでデコレーションを施した。特別展「小さな世界へようこそ!」関連。

2月10日(日)13:30～15:30
講師：渡辺おさむ(美術家)
場所：喫茶室
受講料：500円(材料費500円)
対象：小・中学生
参加人数：17人



顔が顔に会うための顔をつくる

参加者がお互いの顔を描き、それらをつなげてアニメーションを制作。完成した作品は展示会場に展示された。特別展「小さな世界へようこそ!」関連。

2月24日(日)13:30～16:00
講師：伊藤存(美術家)
対象：小学生以上
受講料：500円(材料費200円)
参加人数：16人



[子どものアトリエ]

TOMさんと籌子さんのお話を影絵劇にしよう!

村山知義・籌子作の絵本を題材に、手作りの影絵劇に挑戦。台本・人形・小道具制作、セリフ・人形動作練習を行い、最後に影絵劇を保護者の前で発表した。特別展「村山知義の宇宙」関連。

6月30日(土)・7月1日(日)2日間通し、
各9:30～15:30
講師：河野美恵子(人形劇団「ドリーム」)
場所：講堂
受講料：1,000円
対象：小学生以上、親子参加可
参加人数：8人



こども現代美術講釈入門

ワークショップ「現代美術講釈入門」の子ども版。第2期常設展関連。

8月11日(土)14:00～17:00

講師：やなぎみわ(現代美術家)、山本麻貴(舞台女優)

場所：講座室、常設展示室

受講料：500円

対象：小学4年生～中学生

参加人数：6人



怪獣をつくろう!

「ウルトラマン」にちなみ、自分が創造した怪獣を作った。講師が用意した人形の骨組みにポーズをとらせて紙粘土で肉付けをし、絵の具で色塗りをして完成させた。特別展「ウルトラマン・アート!」関連。

9月23日(日)9:30～16:00

講師：竹内信善(造形作家)

受講料：500円(材料費300円)

対象：小学生～中学生

参加人数：19人



[アートで遊ぼう!]

鑑賞教育の充実を図るための鑑賞プログラム。ゲームや遊びを取り入れながら、当館学芸員とともに美術作品を鑑賞した。毎回9:30～11:00 / 対象：小学3～6年生

展覧会名	開催月日	講師	参加者数
春の京都から、日本画名品展	5月12日(土)	川西弘一	8人
すべての僕が沸騰する 村山知義の宇宙	6月9日(土)	牧野裕二	7人
第2期常設展	7月14日(土)	牧野裕二	7人
第4期常設展	11月17日(土)	三宅靖之	3人
第5期常設展	3月2日(土)	川西弘一	3人
小さな世界へようこそ!	3月23日(土)	牧野裕二	4人

[美術館学習]

サンクリスタル学習参加校のうちで、午後より引き続き美術館での学習を希望する小学校を受け入れ(サンクリスタル高松-美術館間の交通費を負担)、作品鑑賞や施設見学、彫刻探検などの活動を行った。

期間：5月2日～2月20日

参加校：13小学校

参加人数：延1,444人

[美術館の日]

美術館の開館記念日(8月6日)に近い8月第1土曜日を「美術館の日」と制定し、展覧会の観覧料を無料にしたほか、やゲームを用意した「ふらっとアート」やミニコンサートなど、市民が気軽に美術館を訪れて楽しめる催しを開催。

8月4日(土)

参加人数：特別展観覧者498人、ふらっとアート35人、エントランス・ミニコンサート180人

[博物館実習]

期間：7月31日～8月5日

実習内容：概要説明・施設見学、美術館と作品収集(講義)、解説ボランティア活動・教育普及(講義)、資料の保管と管理・二次資料の保管(講義)、作品取扱い実習、ワークショップ補助実習、展示見学・他館見学

実習生数：6名(京都造形芸術大学1名、岡山大学1名、香川大学4名)

[ボランティア]

美術館ボランティアcivi(シヴィ)

市民の美術活動の支援と展覧会観覧者の利便を図るため、美術作品解説ボランティアcivi(シヴィ)を設置し、平成11年度から活動を行っている。特別展のギャラリートークのほか「しびのーと」の発行(年2回)、ワークショップのアシスタントなどの活動を行った。登録人数=22人

ギャラリートーク

原則として、特別展会期中の日曜日・祝日の11:00～、14:00～

延54回841人(「ウルトラマン・アート!」を除く4展の特別展において)

学生ボランティアcimi(シミイ)

市民の美術活動の支援と展覧会観覧者の利便を図るため、高校生から大学院生学生を対象とするボランティアcimi(シミイ)の活動を平成23年度より開始し、24年度は美術館の日イベント補助、各種ワークショップのアシスタントなどの活動を行った。登録人数=20人

ギャラリートークおよび 定例会(原則毎月第1土曜日)以外の活動

2012年

- 4月 1日 しびのーと25号発行
- 6月30日・7月 1日 子どものアトリエ「TOMさんと籌子さんのお話を景絵劇にしよう!」(講師:河野美恵子)アシスタント
- 6月16日 ~ 7月29日 ワークショップ「きみのみらいをおしえます」(講師:山本高之)アシスタント
- 8月 4日 ワークショップ「チルドレン・プライド8.4 in 高松」(講師:山本高之)アシスタント
- 8月11日 ワークショップ「現代美術講釈入門」(講師:やなぎみわ)アシスタント
- 8月18日 ワークショップ「3次元のドローイング」(講師:八木良太)アシスタント
- 8月25日 ワークショップ「大人のコマ撮りアニメ」(講師:GABOMI)アシスタント
- 10月 6日 岡山県立美術館「自由になれるとき 現代美術はこんなにおもしろい!」展鑑賞及び秋元雄史氏(金沢21世紀美術館館長)講演会聴講
- 11月10日 香川大学にて陶芸制作研修

2013年

- 1月12日~14、2月5日~8日 「小さな世界へようこそ!」開発好明氏発泡スチロール作品準備及び制作
- 2月 1日 しびのーと26号発行
- 2月 9日 ワークショップ「マグカップの中に小さな世界をつくろう!」(講師:開発好明)アシスタント
- 2月10日 ワークショップ「スイーツ・デコに挑戦!」(講師:渡辺おさむ)アシスタント
- 2月24日 ワークショップ「顔が顔に会うための顔をつくる」(講師:伊藤存)アシスタント
- 2月25日 山木朝彦教授(鳴門教育大学)「美術館・教育普及のいま(上)」大分合同新聞にてciviの活動が紹介される



しびのーと25号



しびのーと26号

[学芸インターン]

高松市美術館の学芸業務に実際に参加することにより、美術館の諸活動についての専門知識や業務経験をより一層深めてもらうとともに、美術館の活動を担う人材を育成することを目的に、大学院生又は大学生を対象とする本年度は1名採用し、「美術館の日」教育普及事業の準備などの活動を行った。

[美術図書室]

月別利用者数		
年月	入場者数(人)	開館日数(日)
H24.4月	248	26
5月	210	27
6月	210	26
7月	212	26
8月	248	27
9月	323	26
10月	295	26
11月	222	26
12月	185	24
H25.1月	151	24
2月	235	24
3月	154	27
合計	2,693	309

書籍			
区分	購入	寄贈	合計
図書	37	21	58
雑誌	56	70	126
逐次刊行物	0	206	206
図録	0	317	317
合計	93	614	707

[上映会]

トーク&シネマ「松本俊夫の蠅螂の斧」

映像作家・松本俊夫の生誕80周年を記念して制作された最新オムニバス映像作品三部作の上映を、参加作家によるトークを交えて開催した。

7月8日(日)12:00～17:00

ゲスト：奥野邦利、大木裕之

場所：講堂

協力：佐野画廊

入場料：500円

参加人数：42人



3. 芸術的催物

[ミニコンサート]

特別展ごとに、展覧会内容に関連する演奏プログラムを企画し、県内演奏家によるミニコンサートを開催。

場所：エントランスホール

進行：翠さやか(高松市美術館)

「春の京都から、日本画名品展」関連

箏やフルートの演奏で「さくら」や「まりと殿様」、大河ドラマ「平清盛」の挿入曲、京都ならではの「女ひとり」など春の京都をイメージした曲や日本古来の懐かしいメロディーを演奏した。

アンコールは当時放送中だった連続テレビ小説「カーネーション」オープニングで締めくくった。

4月29日(日)13:30～14:00

演奏者：青木香璃(箏)、佐柄晴代(フルート)、大山まゆみ(ピアノ)

参加人数：140人



「高松コンテンポラリーアート・アニュアルvol.02」関連

夏のポピュラーミュージックやクラシックの名曲を集めた。弦楽器ならではのハーモニーで映画の名曲「魅惑のワルツ」や「ムーンリバー」も演奏された。また、ロンドンオリンピックにちなみ、オリンピックのテーマソング「ギフト」も演奏。アンコールでは開館記念日に感謝の意をこめて、「ありがとう」で締めくくった。

8月4日(土)①11:00～11:30、②13:30～14:00

演奏者：[ラ・レゾナンス・アンサンブル]榎並歌織(チェロ)、大矢祐歌(ヴァイオリン)、後藤千晶(ヴァイオリン)、西浦弘美(ピオラ)、八尾知美(ヴァイオリン)

参加人数：延180人



「ウルトラマン・アート！」関連

「音楽でつづる宇宙と平和」

いまなお幅広い世代から根強い人気を誇る「ウルトラマン」シリーズにちなんだ曲を集めた。怪獣との戦いにちなんだシューベルト「戦いの歌」やホルスト「吹奏楽のための第2曲」、星や惑星をイメージしたワーグナー「夕星の歌」を演奏。

そして、2009年劇場版ウルトラマンの主題歌MISIA「星のように」や各世代に懐かしいウルトラマンメドレーをプラスバンドの演奏と男性合唱で熱唱した。

10月7日(日)①11:00～11:30、②13:30～14:00

演奏者：香川大学

参加人数：延203人



「小さな世界へようこそ！」関連

「現代音楽の系譜ーサティ・メシアン・ケージ」

現代美術のコレクション展にちなみ、現代音楽を代表する作家3名の曲を集めた。

ピアノを打楽器として演奏する「フラワー」や展覧会の作品の一つであるトイピアノを装飾した渡辺おさむ作〈Small World〉で「トイ・ピアノのための組曲」を演奏した。「リビング・ルーム・ミュージック」では、リビングを再現して日常のものが音楽になるというユニークな演出で観客を楽しませた。

3月16日(土)13:30～14:00

演奏者：藤村恵子(フルート)、森美由紀(ソプラノ)、大山まゆみ(ピアノ)、何森博子(打楽器)、鍋井沙織(打楽器)、川上侑紀(打楽器)、佐藤守(打楽器)

参加人数：100人



※共催事業

[演劇公演]

エントランスホールを使った芸術的イベントへの共催。

主催＝やなぎみわ演劇プロジェクト

「すべての僕が沸騰する 村山知義の宇宙」関連

やなぎみわ演劇プロジェクト vol.3 「1924 人間機械」

美術作家・やなぎみわが前年より取り組む演劇プロジェクト3部作「1924」完結編。ベルリンより帰国してから不眠不休の制作と発表を続ける若き芸術家、村山知義。やがて社会主義リアリズム演劇を連作するようになるまでの数年間、意識的構成主義を夢見た村山の葛藤を、音楽とダンスと映像を交えた連鎖劇で描いた。

6月9日(土)・10日(日)19:00開演(18:30開場)

企画・演出：やなぎみわ、脚本：あごうさとし、

音楽：柳下美恵 ほか

場所：エントランスホール

入場料：前売券3,500円、当日券4,000円、立見席1,500円

参加人数：延210人



[コンサート]

主催＝高松市美術館友の会※友の会の頁参照

ふれあいコンサート～七夕スペシャルコンサート 夜空に響くサクソフォーンとピアノの調べ～

ふれあいコンサート～歌と古楽器によるバロック音楽の調べ～

主催＝街クラシック in 高松実行委員会

演奏＝瀬戸フィルハーモニー交響楽団

街クラシック

7月14日(土)①12:30～13:00(弦楽四重奏)

参加人数：70人

4. サポート ショップ 事業



会期中の特別展チケットの半券、又は有効期間中の定期観覧券(年間パスポート)を提示すると、参加店舗で割引などの特典を受けることができる高松市美術館サポートショップ事業を平成24年度から実施した。

参加店舗数：39店

高松市美術館サポートショップマップ

5. 資料

(1) 収集

[購入作品]

平面

No.
作家名
作品名
制作年
技法・材質
寸法



1.
山口晃
大山崎交通乃圖
2008
紙にペン、水彩
56×75.5cm



2.
天明屋 尚
現代日本若衆絵図 鎌倉 九人の侍
2001
アクリル絵具、木
59.8×42cm



3.
天明屋 尚
現代日本若衆絵図 パラパラ(大日本帝国)対ブレイクダンス(匪米利加)
2001
アクリル絵具、木
59.8 × 42cm



4.
小川 信治
恋文
2006
油彩、麻布
50 × 43.6cm



5.
できやよい
カッペリ
2003
紙にアクリル絵具、パネル
150 × 100cm

工芸・漆工



6.
石井 馨堂
狭貫彫 堆朱料紙文庫 玉堂富貴之図
1927
漆・木
40.8 × 31.6 × 13.6cm

(2) 貸出実績

作家名	作品名	展覧会名/会場	会期
西村陽平	伝道の書V 知識を増す者は憂いを増す(3点)	西村陽平展 愛知県陶磁資料館	12.4/7 ~ 5/27
ジャスパー・ジョーンズ	標的	コレクションテーマ展	
ジャスパー・ジョーンズ	0から9までの形、色のある数字 連作から	ジャスパー・ジョーンズ—数字を描いた男 大原美術館	12.4/10 ~ 6/17
福田美蘭	ゼフィロスから見たクロリスと フローラと三美神	FLOWERSCAPES フラワースケープ展 DIC川村I記念美術館	12.4/28 ~ 7/22
金山 明	Mar.5	「具体」—ニッポンの前衛18年の軌跡展	
金山 明	Mar.7	国立新美術館	12.7/4 ~ 9/10
白髪富士子	作品 No.1		
田中敦子	電気服		
ヨシダミノル	JUST CURVE' 67 Cosmoplastic		
吉田総郎	SPRAY		
上田 薫	なま玉子J	自由になれるとき—現代美術はこんな におもしろい	
菊畑茂久馬	天動説 十五		
菊畑茂久馬	月光 二	岡山県立美術館	12.9/27 ~ 11/4
高松次郎	No.190		
アンディ・ウォーホル	キャンベルスープ		
アンディ・ウォーホル	キャンベルスープ II		
森本洋充	Untitled (無題)		
森本洋充	Untitled (無題)		
ジャスパー・ジョーンズ	標的		
瀧口修造	作品		
高松次郎	影No.294		
河口龍夫	関係一質		
河口龍夫	関係一質 青84-8		
舟越 桂	積んである読みかけの本のように		
束芋	Japanese Little Kitchen		
ロイ・リキテンシュタイン	スイートドリームズ、ベイビー!		
名和晃平	PixCell [Shoe#6(L)]		
鬼頭健吾	tower		

作家名	作品名	展覧会名/会場	会期
金沢健一	音のかけらー8つの音のためのドロイングー		
リチャード・ハミルトン	昨日の家庭をこんなに違った魅力的にしたのは、一体何か？		
リチャード・ハミルトン	今日の家庭をこれほど違ったものになっているのは、一体何か？		
三木富雄	耳		
大竹伸朗	ジャリおじさんと女たち		
大竹伸朗	ジャリおじさんと時間		
草間彌生	無題(金色の椅子のオブジェ)		
草間彌生	無限の網H.H		
白髪一雄	地威星百勝将韓滔		
白髪一雄	天威星雙鞭呼延灼		
吉原治良	作品		
吉原治良	作品		
桑山忠明	無題ー赤ー		
河原 温	Nov.18,1987		
金 昌烈	水滴 J.T.83003		
杉本博司	U.A.リトルネック、ニューヨーク		
福田美蘭	幼児キリストから見た聖アンナと聖母		
福田美蘭	帽子を被った男性から見た草上の二人		
福田美蘭	ゼフィロスから見たクロリスとフローラと三美神		
伊藤 存	森		
須田悦弘	チューリップ		
三沢厚彦	Dog 2004-02		
金沢健一	振動態ー正方形900		
金沢健一	振動態ー円900		
小林正人	作品14番 天国		
磯井正美	蒔醬 蕃萌 盛器	人間国宝 磯井正美展ー高松の漆芸 蒔醬の美と芸術	
磯井正美	蒔醬 かぎろい 菓子器	資生堂アートハウス	12.10/2 ~ 12/16
磯井正美	蒔醬 清明 盛器		
磯井正美	蒔醬 むらさき 箱		
磯井正美	蒔醬 存清 パガン旅行 合子		
磯井正美	蒔醬 黒富士 丸盆		
磯井正美	蒔醬 櫻花月彩 盆		
磯井正美	蒔醬 梅花吸密 箱		
嚙嘔	192 Gradation Rainbow	嚙嘔 ふたたび虹のかなたに	
嚙嘔	前へ！	広島市現代美術館	12.11/3 ~ 13.1/14
横尾忠則	電話	開館記念展 I 横尾忠則展「反反復復反復」	
		横尾忠則現代美術館	12.11/3 ~ 13.2/17
会田 誠	BRUTUS	天才でごめんなさい	
		森美術館	12.11/17 ~ 13.3/31
河口龍夫	無限空間におけるオブジェと イメージの相関又は8色の球体	TOKYO1955ー1970 新しい前衛	
間所沙織	神話・神々の誕生	ニューヨーク近代美術館	12.11/18 ~ 13.2/25
菊畑茂久馬	ルーレット		
及川正通	ガリガリ博士の犯罪		
及川正通	書を捨てよ！町に出よう！		
荒川修作	Untitled Endurance I		
山口勝弘	Sign Pole		
前田常作	快樂の園		
池田龍雄	シリーズ化物の系譜 ショーバイ(II)		
池田龍雄	シリーズ化物の系譜 出動		
池田龍雄	シリーズ禽獣記 覇鳥		
池田龍雄	シリーズ禽獣記 パーティ		
福島秀子	作品109		
北代省三	カストールとポルックス	戦後芸術を切り拓く 実験工房	
北代省三	カインの工房(パイル)	神奈川県立近代美術館 鎌倉・鎌倉別館	13.1/12 ~ 3/24
北代省三	エジプトの日蝕	いわき市美術館	13.4/20 ~ 6/2
北代省三	レーダー	富山県立近代美術館	13.7/13 ~ 9/8
北代省三	マイナス王のラヴィリントス	北九州市立美術館 分館	13.10/5 ~ 11/10
		世田谷美術館	13.11/23 ~ 14.1/26
田中敦子	電気服	具体展	
		グッゲンハイム美術館	13.2/15 ~ 5/12
北原千鹿	葡萄文水差	近代日本画と工芸の流れ1868 ~ 1945 展	
北原千鹿	花燭台	ローマ国立近代美術館	13.2/26 ~ 5/5
北原千鹿	燭台		
北原千鹿	鉄香爐		
大須賀喬	黄銅花器		
大須賀喬	パラソルの取っ手		
山脇洋二	煙草入れ		

(3) 修復実績

作家名	作品名	制作年	材質
河口龍夫	無限空間におけるオブジェとイメージの相関関係又は8色の球体	1968	石膏・ハーフミラー・ガラス・蛍光灯
河口龍夫	関係 質	1978	布・鉄・雨水
田中敦子	作品	1956	油彩、アクリル、麻布
福岡道雄	ピンク・バルーン	1968	ポリエステル

6. 利用実績

[特別展]

		春の京都から、村山知義の宇宙 日本画名品展	ア ニ ュ ア ル vol.02	ウルトラマン・ アート!	小さな世界へ ようこそ!	計	
開催期間		4/13 ~ 5/20	5/26 ~ 7/1	7/28 ~ 9/9	9/15 ~ 10/28	2/9 ~ 3/24	
開催日数		34	32	38	38	180	
有料	通常	一般 4,399	1,112	1,127	7,058	1,929	15,625
		大学生 65	120	150	210	247	792
	割引	一般 780	167	128	1,264	410	2,749
		大学生 10	10	14	11	35	80
	前売	一般 486	165	36	616	233	1,536
	大学生 2	2	10	7	3	24	
	共通定期観覧券	1,665	536	238	264	288	2,991
	小計	7,407	2,112	1,703	9,430	3,145	23,797
無料	高校生	128	115	129	396	218	986
	中学生	93	61	639	393	127	1,313
	小学生	655	206	235	2,187	325	3,608
	就学前	56	27	75	2,546	156	2,860
	小計	932	409	1,078	5,522	826	8,767
免除	大学生ほか	106		76	39	22	243
	引率者	33	12	15	106	22	188
	障がい者介添人	500	153	150	618	154	1,575
	小計	639	165	241	763	198	2,006
招待券等		603	514	835	770	465	3,187
観覧者総数		9,581	3,200	3,857	16,485	4,634	37,757
一日当たり入場者数		282	100	102	434	122	210
夜間(火~土曜日の17~19時)		185	122	161	413	153	1,034

[常設展]

		第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	計
開催期間		4/6 ~ 6/17	6/23 ~ 9/2	9/8 ~ 10/28	11/3 ~ 12/24	1/5 ~ 3/31	
開催日数		64	62	44	45	74	289
有料	通常	一般 232	389	518	499	897	2,535
		大学生 9	24	41	18	57	149
	割引	一般 33	56	39	118	119	365
		大学生 1	1		3	22	26
	共通定期観覧券	414	242	213	126	275	1,270
	小計	688	712	811	764	1,370	4,345
無料	高校生	36	50	120	11	164	381
	中学生	54	438	119	50	60	721
	小学生	439	152	708	337	308	1,944
	就学前	20	50	376	10	104	560
	小計	549	690	1,323	408	636	3,606
免除	大学生ほか	103	81	47		22	253
	引率者	21	6	63	16	16	122
	長寿	297	252	318	412	551	1,830
	障がい者介添人	124	87	178	65	106	560
	小計	545	426	606	493	695	2,765
招待券等		2,665	1,603	2,933	81	2,031	9,313
観覧者総数		4,447	3,431	5,673	1,746	4,732	20,029
一日当たり入場者数		69	55	129	39	64	69
夜間(火~土曜日の17~19時)		204	221	228		194	847

[一般・企画展示室]

展覧会名	会期	日数	入場者数
第4回一榮書道展	4/6～4/8	3	608
芙蓉の会 作品展	11/1～11/4	4	765
市民美術の祭典2012	11/7～11/11	5	2,151
第44回青龍書展	11/15～11/18	4	1,703
第54回墨華書道展	11/21～11/25	5	2,079
由源香川書展	11/30～12/2	3	1,315
高校書道教員作品展	12/7～12/9	3	323
第29回香川県高等学校総合文化祭(書道展)	12/13～12/16	4	521
第29回香川県高等学校総合文化祭(美術・工芸展)	12/13～12/16	4	556
第9回香川県小・中学校総合文化祭	12/21～12/24	4	4,995
平成24年度高松市教育文化祭展覧会	12/21～12/24	4	5,085
硯友展	1/8～1/13	6	1,628
日本墨彩画院展	1/16～1/20	5	997
第39回毎日書道学会展	1/25～1/27	3	1,108
第10回清澄かな書作展併設こども書道硬筆展	1/31～2/3	4	4,716
合計	16展	66	30,147

[市民ギャラリー]

展覧会名	会期	日数	入場者数
第15回グループ版展	4/10～4/15	6	636
第27回あかつき会展	4/17～4/22	6	971
木彫展	4/24～4/30	7	1,177
井上志幽書展	5/1～5/6	6	1,050
第2回景光会書展	5/10～5/13	4	380
三人展	5/17～5/20	4	305
凹版展	5/22～5/27	6	503
ヨーロッパアンポーセリンアート展	5/29～6/3	6	956
第45回旅の思い出展	6/5～6/10	6	689
第37回チャールズ会高松展	6/12～6/17	6	803
第2回ひかり絵画研究会展	6/19～6/24	6	766
油絵アコンズ	6/26～7/1	6	661
第2回グループ尚 作品展	7/3～7/8	6	569
第38回自由美術香川グループ	7/18～7/22	5	707
美術文化協会 香川支部展	7/24～7/29	6	433
O'S工房展	7/31～8/5	6	779
大西 一子 日本画展	8/7～8/12	6	504
革で創る面白い形展	8/24～8/26	3	191
堀得感堂 親子表装展	8/28～9/2	6	744
高原節蔵展「軌跡」	9/4～9/11	7	246
渋谷祥子日本画展	9/15～9/22	7	654
第5回農梢会	9/25～9/30	6	424
第6回アトリエ樋笠作品展	10/2～10/8	7	808
模型展示 進空会	10/10～10/14	5	704
R展	10/16～10/21	6	758
西尾裕子個展	10/23～10/28	6	567
第18回サロンエウスン「彩」の会	10/30～11/4	6	1,081
第27回道香社 書作展	11/6～11/11	6	969
第15回布あそび希瑠人パッチワーク展	11/13～11/18	6	878
創元会香川支部展	11/20～11/25	6	791
由源香川書展	11/30～12/2	3	1,114
女子美術大学同窓会香川支部	12/4～12/9	6	1,057
グループPeal展	12/11～12/16	6	614
彩季会 展覧会	12/18～12/24	7	1,232
第34回香川県高等学校美術・工芸教員作品展	1/11～1/14	4	507
花の宴—衣装浪漫—	1/16～1/20	5	1,250
第38回チャールズ会高松展	1/22～1/27	6	902
第10回清澄かな書作展併設こども書道硬筆展	1/31～2/3	4	1,922
如月会 墨彩画展	2/5～2/11	7	499
池川直彫刻展	2/13～2/17	5	698
第13回グループアイズ絵画作品展	2/19～2/24	6	729
言の葉書会展	2/26～3/3	6	757
手押し車の魚屋さん	3/5～3/10	6	594
第1回瑞心展	3/15～3/17	3	511
第46回墨彩画 旅の思い出展	3/19～3/24	6	564
瀧川 無中 木彫展	3/26～3/31	6	364
合計	46展	261	34,018

[講堂]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用人数	280	50	70	400	250	40	30	0	80	60	70	240	1,570
利用回数	4	1	1	5	3	1	1	0	1	1	1	3	22

[講座室]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用人数	693	722	1,087	1,010	662	999	956	1,083	675	730	800	870	10,242
利用回数	37	34	51	47	33	55	53	51	35	37	39	43	515

1. 展覧会

(1) 特別展



高松市美術館開館25周年記念 チェブラーシカとロシア・アニメーションの作家たち

会期 2013年4月6日(土)～5月19日(日)
 休館日：4月22日、30日、5月7日、13日 40日間
 主催 高松市美術館
 後援 ロシア文化フェスティバル組織委員会 ロシア連邦文化省 駐日ロシア連邦大使館 ロシア連邦協力庁 朝日新聞高松総局 NHK高松放送局
 OHK岡山放送 産経新聞社高松支局 山陽新聞社 RSK山陽放送 四国新聞社
 KSB瀬戸内海放送 TSCテレビせとうち RNC西日本放送 毎日新聞高松支局
 読売新聞高松総局
 協力 チェブラーシカ・プロジェクト フロンティアワークス
 ロシア国立映画博物館 公益財団法人徳間記念アニメーション文化財団 平凡社 香川大学
 企画協力 株式会社イデッフ
 入場料 一般1,000円 大学生500円 高校生以下無料
 入場者数 6,625人
 担当学芸員 三宅靖之

本展覧会では、ロシアの人形アニメ『チェブラーシカ』のスケッチや絵コンテ、人形やマケット(舞台装置)、映像、童話の挿絵原画などによって、キャラクター誕生からその変遷、アニメーション映画の創作過程などを多面的に紹介し、その人気の秘密に迫りました。

巡回会場＝滋賀県立近代美術館、三菱地所アルティアム、高松市美術館、八王子市夢美術館、兵庫県立円山川公園美術館

[関連イベント]

アニメーション上映会

・映画「雪の女王」(1957年)
 4月29日(月・祝)14:00～ 場所：講堂(入場無料)
 参加者数：98人

・1旧作「チェブラーシカ」(1969年～83年、全4話)
 ・2新作「劇場版チェブラーシカ」(2010年、全3話)
 ・3「ミトン」(1967年)
 時間：1会期中日・祝11:00、2会期中日・祝13:00
 3会期中随時
 場所：2階展覧会場(観覧券要) 参加者数：延621人

人形劇公演(入場無料/整理券要)

5月4日(土)13:30～14:30
 出演：とらまる人形劇団
 演目：「おらあ、テングだあ!」、「すてられたつきみそう」
 場所：講堂 参加人数：86人

ギャラリートーク(2階展示室/観覧券要)

当館学芸員による
 4月13日(土)、5月11日(土)14:00～ 参加人数：38人

チェブラーシカといっしょに撮影しよう!

展覧会開催期間中の毎日曜・祝日 10:30～11:00、13:00～13:30
 場所：2階展覧会場前(入場無料) 参加者数：延べ812人

ワークショップ「マリオネット人形を作ろう!」☆
 子どものアトリエ「ばらばらアニメ制作!」☆
 テルミン&マトリョミンコンサート★
 エントランス・ミニコンサート★
 ☆＝教育普及の頁参照 ★＝芸術的催物の頁参照



会場



会場



撮影会



人形劇

[主な掲載記事]

・香川こまち4月号
 ・ナイスタウン4月号
 ・四国新聞4月6日「25周年記念展きょうスタート」

・朝日新聞4月7日「スケッチや人形300点」
 ・四国新聞4月25日「ロシアアニメの魅力満載」
 ・読売新聞5月19日「子どもにロシア音楽演奏」

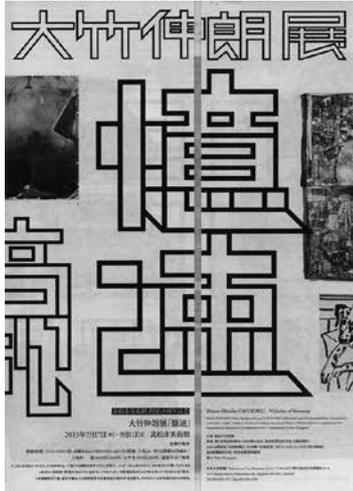
[図録]

編集：柴田勢津子(株式会社イデッフ)

発行：株式会社イデッフ

仕様：23×21cm、158頁

内容：ごあいさつ＝主催者/セクション解説＝第1部「チェブラーシカ」の誕生と絵本の中の「チェブラーシカ」、第2部アニメーション化とキャラクターの変遷(1章アニメーション化されたチェブラーシカ、2章世界に広がるキャラクター「チェブラーシカ」、第3部新作チェブラーシカ、第4部チェブラーシカとロシア・アニメーションの作家たち(1章シュワルツマンとヴィノクーロフ、2章新世代の作家とスタジオ・シャール)/論考＝「チェブラーシカとロシアの挿絵画家たち」アナスタシア・アーヒボヴァー、「ロシア・アニメーションの過去と現在」井上徹/関連年表 柴田勢津子 編/出展作家略歴 後藤正子 編/出品作品リスト/上映作品リスト



高松市美術館開館25周年記念 大竹伸朗展 憶速

会期 2013年7月17日(水)～9月1日(日) 会期中無休 47日間
 主催 高松市美術館
 後援 朝日新聞高松総局 OHK岡山放送 産経新聞高松支局 山陽新聞社
 RSK山陽放送 四国新聞社 KSB瀬戸内海放送 TSCテレビせとうち
 RNC西日本放送 毎日新聞高松支局 読売新聞高松総局
 協力 Take Ninagawa
 入場料 一般1,000円、大学生500円、高校生以下無料
 8月3日は美術館の日のため無料
 入場者数 10,426人
 担当学芸員 毛利義嗣(高松市塩江美術館)、牧野裕二

大竹伸朗(1955-)は、1980年代初頭から美術家として疾走を続け、当館のオープンと同じ1988年には宇和島市に拠点を移し、絵画、立体、印刷物、音といった様々な手法で、膨大かつ多彩な表現を生み出してきました。近年では、2012年「ドクメンタ13」(ドイツ)、2013年「第55回ヴェネチア・ビエンナーレ」(イタリア)に出品するなど、ますますめざましい活躍を見せています。

本展は、“「記憶」の「速度」”と創作の関係性を大きな軸にした回顧展です。作品の時間軸をほどき、《遠景の記憶》《残像-内的露光》《アフリカ-反響する記憶》《日本景-内と外に見る景》《貼-既にそこにあるものと記憶の層》《手製本-身体と本》《スケッチブック-日常の風景》という7つのセクションに編み直すことによって、これまで別のシリーズとされてきた作品たちの新しい繋がりや形や共振する姿をお見せしました。油彩・水彩・写真・映像・立体など総点数534点(うち新作・近作を含む未発表作品73点)、これまでの特徴的な作品シリーズに加え、「手製本」の全貌、初公開となる全96冊の「スケッチブック」も展示しました。

[連携事業]

2013年夏、国内外で「大竹伸朗展 憶速」のほかに3つの大竹伸朗関連のプロジェクトが開催されたことから、各機関・施設と連携し、合同記者発表やプレスツアーなどの事業を行ないました。また、3つのプロジェクトの共同チラシを製作し、3つのプロジェクトを回ると特製缶バッジがもらえるスタンプラリーを実施しました。

●3つのプロジェクト…第55回ヴェネチア・ビエンナーレ企画展「The Encyclopedic Palace」6月1日～11月24日／「大竹伸朗展ニューニュー」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 7月13日～11月4日／「女根／めこん」女木島、瀬戸内国際芸術祭2013夏会期7月20日～9月1日、秋会期10月5日～11月4日)

[関連イベント]

高松市美術館開館25周年事業

「坂本龍一 Playing the Piano Tribute to Shinro Ohtake」★=芸術的催物の頁参照

ギャラリートーク(2階展示室／観覧券要)

当館学芸員による

7月20日(土)・8月17日(土)各14:00～

参加人数：延80人

美術館ボランティアcivi(シヴィ)による

会期中の日曜日 11:00～、14:00～(計14回)

参加人数：延269人

「アートで遊ぼう!」☆=教育普及の頁参照



開展式で挨拶する大竹氏



会場



会場



《ダブ平&ニューシャネル》を演奏する大竹氏



会場



会場



会場(中2階)



プレスツアー

[主な掲載記事]

- ・四国新聞5月11日「画家・大竹伸朗の全容を国内外4美術展に参加」＊伊勢新聞5月12日、新潟日報5月20日、岐阜新聞5月22日にも同内容記事あり
- ・朝日新聞6月13日「坂本龍一さん即興演奏披露」
- ・四国新聞6月7日「坂本龍一さんコンサート」
- ・ミセス No.704 7月5日「大竹伸朗の展覧会」長谷川香苗(文筆家)
- ・朝日新聞「見て！現代美術2か所で個展」聞き手・太田成美(記者)
- ・四国新聞7月19日「現代美術家大竹伸朗さん思い語る」
- ・装苑 68-09 7月27日
- ・四国新聞7月29日「瀬戸内海の鼓動 大竹伸朗、瀬戸内デルタ」毛利義嗣(高松市塩江美術館学芸員)
- ・日本経済新聞7月30日「大竹伸朗、香川で3つの展覧会」田村広済(大阪・文化担当)

- ・ブレーン vol.637 8月1日「今年の夏は、香川で大竹伸朗を」
- ・ギャラリー No.339 7月1日「この夏、四国で大竹伸朗の芸術世界が広がる」
- ・京都新聞8月10日「香川で大竹伸朗展」小吹隆文(美術ライター)
- ・四国新聞8月11日「美術館に世界の音色 坂本龍一さんコンサート」
- ・毎日新聞8月21日「個展、国際展参加相次ぐ 大竹伸朗」岸桂子(記者)
- ・美術手帳No.993 10月号「特集・大竹伸朗」
- ・四国新聞9月2日「最終日に1万人到達」
- ＊同日の朝日新聞、読売新聞にも1万人達成関連記事あり
- ・四国新聞10月7日「大竹伸朗 県内3会場で新作、回顧展」

[図録]

編集：毛利義嗣(高松市塩江美術館)、牧野裕二、木藤野絵、翠さやか(高松市美術館)

発行：エディション・ノルト

仕様：タテ26.5×ヨコ19×高さ3cm(箱)、テキスト小冊子1冊、各セクション図版小冊子7冊、「Works in Setouchi, 1994-2013」1冊、インスタレーションビュー1冊

内容：ごあいさつ＝主催者／論考＝「憶速」大竹伸朗、「大竹伸朗 宇和島、高松」毛利義嗣(高松市塩江美術館)／『「憶速」セクション解説－未発表作品を中心に』(セクション：1_遠景の記憶、セクション：2_残像－内的露光、セクション：3_アフリカ－反響する記憶、セクション：4_日本景－内と外に見る景、セクション：5_貼－既にそこにあるものと記憶の層、セクション：6_手製本－身体と本、セクション：7_スケッチブッカー－日常の風景)毛利義嗣／略歴／参考文献



3プロジェクト共同チラシ



特製缶バッジ



図録



高松市美術館開館25周年記念 グランマ・モーゼスと近代絵画

— 損保ジャパン東郷青児美術館コレクションより —

会期 2013年9月7日(土)～10月14日(月・祝)
休館日：9月9日、17日、24日、30日 34日間
主催 高松市美術館
後援 朝日新聞高松総局 NHK高松放送局 OHK岡山放送 産経新聞高松支局
山陽新聞社 RSK山陽放送 四国新聞社 KSB瀬戸内海放送 TSCテレビせとうち RNC西日本放送 毎日新聞高松支局 読売新聞高松総局
協力 損保ジャパン東郷青児美術館 損保ジャパン 香川大学
入場料 一般1,000円 大学生500円 高校生以下無料
入場者数 4,575人
担当学芸員 三宅靖之

アメリカの国民的画家グランマ・モーゼス(1860-1961)の国内最大規模のコレクションを有する、損保ジャパン東郷青児美術館から貴重なグランマ・モーゼス作品25点を特別にお借りし、その魅力を存分に堪能いただきました。またあわせて、同美術館コレクションの中から、優美で詩情あふれる女性像により人気を博した東郷青児をはじめ、ルノワール、ルオー、ピカソらによる近代絵画の名作、89点をご紹介します。

[関連イベント]

ギャラリートーク(2階展示室／観覧券要)

当館学芸員による

9月21日(土)14:00～

参加人数：55人

美術館ボランティアcivi(シヴィ)による

会期中の日曜日および祝日11:00～、14:00～(計17回)

参加人数：延268人

アートで遊ぼう!☆

ワークショップ「名画模写にチャレンジ!」☆

子どものアトリエ

「私の街・あなたの街・みんなの街」☆

エントランス・ミニコンサート

「20世紀パリのミューズ」★

☆=教育普及の頁参照 ★=芸術的催物の頁参照



会場



会場



civiによるトーク



アートで遊ぼう!

[主な掲載記事]

- ・香川こまち9月号
- ・四国新聞9月12日「郷愁誘う素朴なタッチ」

- ・ナイスタウン10月号
- ・四国新聞9月24日「記者ノート 豊かな老後送るヒント」
頼富正郎(記者)

[パンフレット]

編集・発行：高松市美術館

仕様：仕上がり寸法A4判、6頁

内容：展覧会概要／グランマ・モーゼス年譜／作品解説(グランマ・モーゼス)／東郷青児年譜／作品解説(東郷青児)／作家・作品解説(有島生馬、岸田劉生、岡田謙三、宮本三郎、パブロ・ピカソ、ロベール・クーチュリエ、中川紀元、オーギュスト・ルノワール、ジョルジュ・ルオー、エミリオ・グレコ)／作品リスト

[出品リスト]

No.	作家	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(cm)
1	東郷青児	自画像	1914	油彩・板	32.8×23.6
2	東郷青児	巴里の女	1922	油彩・キャンヴァス	52×33
3	東郷青児	バンティミーユの女	1922	油彩・キャンヴァス	46.7×39.2
4	東郷青児	スペインの女優	1922	油彩・キャンヴァス	53.2×45.4
5	東郷青児	ビルヌーブ・ルーベ	1923	油彩・キャンヴァス	53.4×46
6	東郷青児	ラケット	1925	油彩・キャンヴァス	53×45.7
7	東郷青児	花をいける女	1926	油彩・キャンヴァス	46.4×38.7
8	東郷青児	裸婦	1926	油彩・キャンヴァス	49.8×63.3
9	東郷青児	ピエロ	1926	油彩・キャンヴァス	90.8×63.4
10	東郷青児	超現実派の散歩	1929	油彩・キャンヴァス	64×48.2

No	作家	作品名	制作年	技法・材質	サイズ (cm)
11	東郷青児	黒い手袋	1933	油彩・キャンヴァス	119.2×68.2
12	東郷青児	婦人像	1936	油彩・キャンヴァス	73.3×53.5
13	東郷青児	四重奏	1955	油彩・キャンヴァス	162.2×130.6
14	東郷青児	野辺の花	1959	油彩・キャンヴァス	144.8×111.7
15	東郷青児	プロヴァンスの丘	1961	油彩・キャンヴァス	116.4×80.2
16	東郷青児	レダ	1968	油彩・キャンヴァス	144.7×97
17	東郷青児	越路吹雪	1953	鉛筆、水彩・紙	34×25
18	東郷青児	ベルベールの女	1973	コンテ、水彩・紙	37×30
19	東郷青児	マリアヌ	1972	ブロンズ	45×20×20
20	東郷青児	男と女	1972	ブロンズ	49×70×40.5
21	有島生馬	黒衣の女	1909	油彩・キャンヴァス	45.5×37.9
22	有島生馬	宮の下残雪	1934	油彩・キャンヴァス	60×80
23	井上寛造	獵人日記	1975	油彩・キャンヴァス	162.8×128.8
24	岡田謙三	バルコン	1932	油彩・キャンヴァス	130.3×80.2
25	岡田謙三	少女	1933	油彩・キャンヴァス	117×80.5
26	織田廣喜	白鳥と少女	1968	油彩・キャンヴァス	163×129.3
27	新道繁	松	1976	油彩・キャンヴァス	117.3×91.7
28	中川紀元	東郷青児像	1952	油彩・キャンヴァス	73.2×61.2
29	中川紀元	風景	1963	油彩・キャンヴァス	72.8×100.4
30	宮本三郎	女優	1962	パステル・紙	51.2×32.7
31	マルク・シャガール	よく見る夢	1969	リトグラフ・紙	48×61.7
32	アンドレ・ドラク	海辺		油彩・キャンヴァス	18.4×31
33	アルマン・ドルーアン	港		油彩・キャンヴァス	60.7×73.5
34	パロン＝ルヌアール	眠った街	1962	油彩・キャンヴァス	100×100
35	テオ・トビアス	茶色の馬の食事	1956	油彩・キャンヴァス	114.8×146.5
36	ロベール・クーチュリエ	縄跳びをする少女	1949	ブロンズ	117×56×40
37	ロベール・クーチュリエ	水浴	1951	ブロンズ	116×40×70
38	エミリオ・グレコ	腰かける女	1949	ブロンズ	84×40×33
39	岸田劉生	虎ノ門風景	1912	油彩・キャンヴァス	23×32
40	岸田劉生	自画像	1913	油彩・キャンヴァス	45.5×28.2
41	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	浴女	1892～93	油彩・キャンヴァス	53.5×38
42	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	帽子の娘	1910	油彩・キャンヴァス	52×39.5
43	グランマ・モーゼス	夕暮れ	1940	油彩・板	25.4×20.5
44	グランマ・モーゼス	砂糖作り	1940	油彩・板	35.3×46.3
45	グランマ・モーゼス	イギリスの別荘の花園	1940	刺繍・キャンヴァス	26.8×33.3
46	グランマ・モーゼス	夕暮れ、森のキャンプ	1940	刺繍・キャンヴァス	25.4×20.3
47	グランマ・モーゼス	冬の古い屋根のついた橋	1941	油彩・板	25.5×26.1
48	グランマ・モーゼス	森の火事	1942	油彩・板	28.6×35.9
49	グランマ・モーゼス	いこい	1943	油彩・板	50.1×60.2
50	グランマ・モーゼス	トロイの大火事	1943	油彩・板	47.7×75.8
51	グランマ・モーゼス	古い櫳のつるべ	1943	油彩・板	46.1×60.7
52	グランマ・モーゼス	古い格子縞の家	1944	油彩・板	60.7×109.4
53	グランマ・モーゼス	フージック・フォールズ、 ニューヨーク II	1944	油彩・板	51×65.7
54	グランマ・モーゼス	静けさ	1944	油彩・板	25.8×28.3
55	グランマ・モーゼス	夏	1944	油彩・板	57.2×91.4
56	グランマ・モーゼス	古い櫳のつるべ、1760年冬	1944	油彩・板	61×86.4
57	グランマ・モーゼス	古い赤い製粉所	1944	油彩・板	60.7×86.7
58	グランマ・モーゼス	古い台所	1948	油彩・板	50.5×41
59	グランマ・モーゼス	厩の屋根葺き	1951	油彩・板	45.6×61
60	グランマ・モーゼス	イマジネーション	1951	油彩・板	39.4×52.5
61	グランマ・モーゼス	丘の道	1954	油彩・板	45.5×60.4
62	グランマ・モーゼス	丘の秋	1954	油彩・板	30.5×45.7
63	グランマ・モーゼス	ワウ!(生まれ)	1958	油彩・板	30.5×40.6
64	グランマ・モーゼス	イーグル・ブリッジ小学校	1959	油彩・板	30.2×40.6
65	グランマ・モーゼス	古いつるべ	1960	油彩・板	40.4×60.9
66	グランマ・モーゼス	シュガー・キャンディ	1961	油彩・板	40.5×60.6
67	グランマ・モーゼス	見えないもの	1961	油彩・板	30.5×40.6
68	パブロ・ピカソ	長いひげの裸体像	1865-96	油彩・キャンヴァス	58.5×32
69	パブロ・ピカソ	宝石	1899-1900	木炭、鉛筆、水彩・紙	46.3×27.4
	パブロ・ピカソ	裸体男性像(上下反転)	1895	鉛筆・紙	46.3×27.5
	パブロ・ピカソ	椅子に座る女性像	1899	木炭・紙	62.8×47.7
70	パブロ・ピカソ	ベートーヴェンのデスマスク	1899	木炭・紙	62.8×47.8
71-84	ジョルジュ・ルオー	連作《悪の華》14点	1926、27	エッチング・紙	35×25.5他
85	モーリス・ドニ	抱き合うクレールとポール	1942	リトグラフ	32.4×40
86	モーリス・ドニ	息子フランソワの出生通知状	1915	木版	17.2×9.9
87	モーリス・ドニ	孫シャルルの出生通知状	1942	木版	16.8×11.9
88	高村光太郎	水野勝興像	1917	油彩、キャンヴァス	61.5×50
89	高村光太郎	水野実技像	1917	油彩、キャンヴァス	61.5×50



高松市美術館開館25周年記念
高松コンテンポラリーアート・アニユアル vol.03
DAYDREAMS / 夢のゆくえ

会期 2013年10月26日(土)～12月1日(日)
休館日=11月5・11・18・25日 33日間
主催 高松市美術館
後援 朝日新聞高松総局 NHK高松放送局 OHK岡山放送 産経新聞高松支局
山陽新聞社 RSK山陽放送 四国新聞社 KSB瀬戸内海放送
TSCテレビせとうち RNC西日本放送 毎日新聞高松支局 読売新聞高松総局
助成 芸術文化振興基金
入場料 一般800円 大学生500円 高校生以下無料
入場者数 3,085人
担当学芸員 牧野裕二

「高松コンテンポラリーアート・アニユアル」は優れた活動を行っている作家や将来性のある作家を発掘・紹介することによって美術・文化の育成に継続的に寄与しようとする企画で、今回で4回目の開催を迎えました。今回は「DAYDREAMS/夢のゆくえ」と題し、夢や空想を手がかりに世界と対峙しようとする5組6人のアーティストを紹介しました。

[出品作家]

スプツニ子! Sputniko!

1985年東京都生まれ、東京都・ボストン在住。ロンドン大学インペリアル・カレッジ数学科および情報工学科を20歳で卒業後、英国王立芸術学院(RCA)デザイン・インタラクション科修士課程を修了。在学中より、テクノロジーによって変化していく人間の在り方や社会を反映させた作品を制作。2013年マサチューセッツ工科大学(MIT)メディアラボ助教に就任。

高木正勝 TAKAGI Masakatsu

1979年 京都府生まれ。京都府在住。自ら撮影した映像の加工やアニメーションによる映像制作と、長く親しんでいるピアノやコンピュータを使った音楽制作の両方を手掛けるアーティスト。国内外のレーベルからのCDやDVDリリース、美術館での展覧会や世界各地でのコンサートなど、分野に限定されない多様な活動を展開している。2012年公開の映画「おおかみこどもの雨と雪」(監督：細田守)の劇伴を手掛ける。

高松明日香 TAKAMATSU Asuka

1984年香川県生まれ。香川県在住。市立尾道大学大学院美術研究科修士課程を修了。映画やインターネットから集めた画像などを題材に、現実から僅かにずれた、浮遊感のある世界をみずみずしい筆致で描き出す。11年「高松明日香展 イメージの擬態」(高松市塩江美術館)、14年「高松明日香展 無形のライブラリー」(奈義町現代美術館)開催。現在、倉敷芸術科学大学非常勤講師。14年第7回岡山県新進美術家育成I氏賞大賞受賞。

トーチカ Tochka

ナガタケシ(1978年熊本県生まれ)とモノノカツエ(1978年奈良県生まれ)によるユニットで、1998年より活動開始。2006年に、デジタルカメラによる長時間露出とコマ撮りアニメーションの手法を融合し、空中にペンライトの光で絵を描くことでアニメーションを作る「PiKAPiKA」を編み出す。そのほか様々な手法を用い、商業フィルム、現代美術など、業種の垣根を超えて活動を行う。

依田洋一朗 YODA Yoichiro

1972年高松市生まれ。生後3ヶ月でNYへ移り、現在に至る。1995年タイラー・スクール・オブ・アート学士号。1998年クイーンズ・カレッジ修士号。古い映画の登場人物やニューヨークの劇場などを題材に、虚と実が交錯する幻想的な風景をキャンバスに描き出す。2012年「記憶のドラマ 依田洋一朗展」(三鷹市美術ギャラリー、東京)などニューヨーク、東京で個展、グループ展多数開催。

[展覧会アドバイザー]

木ノ下智恵子(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任准教授)
茂木健一郎(脳科学者)

[関連イベント]

アーティスト&アドバイザー・トーク

(エントランスホール／聴講無料)

10月26日(土)16:00～18:00

出演: スブツニ子!、高木正勝、高松明日香、トーチカ、
依田洋一朗、木ノ下智恵子

参加人数: 100人

茂木健一郎スペシャルトーク (講堂／抽選当選者対象)

11月19日(火)17:30～19:00

入場料: 1,000円

参加人数: 150人

高木正勝スペシャル・ピアノライブ★

エントランス・ミニコンサート★

★=芸術的催物の頁参照

ギャラリートーク (2階展示室／観覧券要)

当館学芸員による

11月2日(土)14:00～ 参加人数: 23人

美術館ボランティアcivi(シヴィ)による

会期中の日曜日 11:00～、14:00～(10月27日を除く)
(計14回)

参加人数: 延185人

スブツニ子!ワークショップ「スプ子さんと作品鑑賞しよう!」☆

高木正勝 ワークショップ「曲をつくる」☆

依田洋一朗 ワークショップ「立体ドローイングをつくろう!」☆

トーチカ ワークショップ「PiKAPiKAがえがく夢の世界」☆

高松明日香 ワークショップ「映画の場面を描こう!」☆

☆=教育普及の頁参照



スブツニ子!展示



高松明日香展示



トーチカ展示



依田洋一朗展示



高木正勝展示



スブツニ子!氏



高木正勝氏



アドバイザートーク



茂木健一郎氏

[主な掲載記事]

- ・香川こまち No.125 10月20日
- ・ナスタウン No.438 10月20日
- ・四国新聞 10月27日 「『空想』をテーマに県出身者ら意欲作」

- ・読売新聞 10月29日 「夢、空想あふれる作品」
- ・四国新聞 11月29日 「茂木さん(脳科学者)トーク」

[図録]

編集: 牧野裕二(高松市美術館)

発行: 高松市美術館

仕様: A4判変形(29.7×20.cm)、64頁

内容: 図版(スブツニ子!／高木正勝／高松明日香／トーチカ／依田洋一朗)／「開催にあたって」牧野裕二(高松市美術館)／作家略歴／出品リスト

インスタレーションビュー

編集: 牧野裕二(高松市美術館)

発行: 高松市美術館

仕様: A4判変形(29.7×20.cm)、29頁

内容: 図版(スブツニ子!／高松明日香／トーチカ／依田洋一朗／高木正勝)／作家論=「スブツニ子!ーボストン経由、月へ」・「トーチカー光がつくる幸せの時間」・「依田洋一朗ー赤いレクイエム」・「高木正勝ー夢を紡ぐ人」牧野裕二(高松市美術館)、「高松明日香ーImpression Material」毛利義嗣(高松市塩江美術館)／「夢を、イメージを、つくる農夫の収穫祭」木ノ下智恵子(大阪大学コミュニケーションデザインセンター特任准教授)、「茂木健一郎スペシャルトークより」トーク一部抜粋・要約: 牧野裕二(高松市美術館)／作家ステートメント



高松市美術館開館25周年記念 没後50年 磯井如真展

会期 2014年2月18日(火)～3月23日(日) 月曜日休館 30日間
 主催 高松市美術館
 共催 NHK高松放送局 四国新聞社
 協力 公益社団法人 日本工芸会四国支部
 助成 財団法人自治総合センター
 入場料 一般800円 大学生500円 高校生以下無料
 入場者数 2,748人
 担当学芸員 川西弘一

磯井如真(1883-1964)は、香川郡宮脇村(現・高松市亀岡町)に生まれました。1903(明治36)年、香川県工芸学校用器漆工科を卒業後、大阪の山中商会で、中国の美術工芸品の修理や加工に従事し、様々な工芸技術を修得。帰郷後、玉楮象谷の遺作を通じて独自の研究を重ね、13(大正2)年、凸版印刷をヒントに、点彫り蒔罨(きんま)を創案。従来の線彫りにはない奥行と立体感を出すことによって、蒔罨の新たな表現領域を生み出したのです。27(昭和2)年帝展に工芸部が設置されると、如真は卓抜した意匠と造形力による独創的な作品を発表し、帝展、新文展を舞台に活躍、38(昭和13)年第2回新文展《彫漆 石南花之凶手箱》で特選受賞。特に31(昭和6)年第12回帝展に出品した《彫漆草花文 鼓箱》は、彫漆と点彫り蒔罨を併用した作品であり如真の出世作として知られています。また、如真は様々な加飾技法を自家薬籠中の物としており、新材料のレーキ顔料で白から紫にぼかして塗り重ね、透明なカットグラスのような質感を出す技法や、堆漆板で作った文様を切り抜き、器胎に貼り付けて立体感を強調する技法など、創意あふれる技と卓抜した造形感覚には、讃岐漆芸の粋を見いだすことができます。如真は、終生、高松で讃岐漆芸の近代化確立に尽力し、「讃岐漆芸中興の祖」とも称され、1956(昭和31)年には蒔罨で国の重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定されました。

本展覧会は如真没後50年を記念し、初期から晩年に至る代表作や資料あわせて75点を展示する回顧展となりました。

[関連イベント]

記念講演会「近代工芸と磯井如真」

3月1日(日)14:00～15:30
 講師：金子賢治(茨城県陶芸美術館館長、
 多治見市美濃焼ミュージアム館長)
 場所：講堂(入場無料)
 参加人数：85人

ギャラリートーク(2階展示室/観覧券要)

当館学芸員による
 3月22日(土)14:00～
 参加人数：28人
 美術館ボランティアcivi(シヴィ)による
 会期中の日曜日及び祝日 11:00～、14:00～(計12回)
 参加人数：延170人

ワークショップ「彫漆でブローチをつくろう」 ☆=教育普及の頁参照



磯井正美氏の挨拶



会場



金子賢治氏講演会



civiによるトーク

[主な掲載記事]

- ・四国新聞2月18日「きょうから没後50年展」
- ・四国新聞2月10日「技と創意 讃岐漆芸」
- ・四国新聞2月20日・27日・3月6日・13日・20日(連載5回)「没後50年 磯井如真展」川西弘一(当館学芸員)
- ・朝日新聞3月14日「讃岐漆芸の神髄 磯井如真 没後50年展」森本俊司(記者)
- ・山陽新聞3月20日「没後50年 讃岐漆芸・蒔罨の人間国宝 磯井如真」

[図録]

編集：高松市美術館
 発行：高松市美術館
 仕様：25.9×26.2cm、140頁
 内容：はじめに＝高松市美術館／論考＝「磯井如真芸術の源泉と構成部分」金子賢治(茨城県陶芸美術館館長、多治見市美濃焼ミュージアム館長)、「不世出の漆芸家 磯井如真」住谷晃一郎(高松市美術館)／図版・作品解説／スケッチブックと下図／蒔罨制作工程／影如(磯井如真アルバム)太田加津子氏提供／年譜／文献／作品目録

(2) 常設展

第1 期常設展

会期：2013年4月5日(金)～6月2日(日)

(4月22日、30日、5月7日、13日、20日、27日休館)53日間

企画担当及びギャラリートーク(4月6日(土)14:00～)川西弘一

入場者人数 3,330人

展示室1

旧高松市立美術館ベストコレクション

Collection of the Best Art of the Old Takamatsu City Museum of Art

旧高松市立美術館は、戦後初の公立美術館として、昭和24年11月3日、栗林公園内に開館しました(設計：山口文象)。総入館者数は、昭和63年に旧館がその使命を終えるまでに、延べ420万人に達しました。収蔵品は開館当初より郷土に関係の深い美術作品を中心に作品取得を行い、38年間でのべ154点を収蔵しました。

このたびの展示では、旧美術館のコレクションから日本画、洋画、彫刻の代表的な作品を紹介しました。日本画では、池田遙邨の描いた戦後間もない高松の市街図や、穏やかな瀬戸内の風景をテーマとした樋笠数慶の大作など。洋画では、東郷青児の詩情性豊かな女性像を描いた作品や、高松出身の木村忠太や猪熊弦一郎の作品など。彫刻では、ロダンの指導を受けた藤川勇造の猿面レリーフや、新田藤太郎の肖像作品など。あわせて29作家による作品31点を展示しました。

[出品リスト]

No.作家名/作品名/制作年/材質

日本画

1. 池田遙邨/紫雲山より高松市を望む/1952/紙本・着色
2. 岩倉 壽/湿地早春/1970/紙本・着色
3. 奥田元宋/百合/1953/絹本・着色
4. 寺本郷史/鳴門/1983/紙本・着色
5. 野生司香雪/屋島の暮色/1956/紙本・着色
6. 馬場不二/朝顔/1948/紙本・着色
7. 樋笠数慶/春潮/1983/紙本・着色
8. 広島晃甫/窓辺静物/1949/紙本・着色

洋画

9. 井上員男/阿波浄瑠璃人形従太郎/1977/木版・和紙
10. 市村 力/はと/1963/油彩・麻布
11. 猪熊弦一郎/赤い服と猫/1949/油彩・麻布
12. 川島 猛/N.Y.100/1968/アクリル・麻布
13. 角 卓/虹光屋島/1982/油彩・麻布
14. 木村忠太/生きる男/1943頃/油彩・麻布
15. 木村忠太/食事/1949/油彩・麻布
16. 木村忠太/地下鉄の駅/1963/油彩・麻布

17. 小林萬吾/乳母車/1913/油彩・麻布
18. 須田国太郎/栗林公園/1952/油彩・麻布
19. 谷本重義/他人の耳/1977/油彩・麻布
20. 東郷青児/聖道女/1935/油彩・麻布
21. 武田三郎/アッシジ/1978/木版・和紙
22. 藤川栄子/静物/1981/油彩・麻布
23. 三谷照男/塔建立/1977/水彩・紙
24. 山下菊二/双頭/1973/油彩・麻布
25. 山尾薫明/昇天(アルメニアのイコンによる)/不詳/油彩・麻布

彫刻

26. 池川敏幸/ECHŌ/1978/黒御影石
27. 池田勇八/放牧/1955/ブロンズ
28. 菊池一雄/平和の群像(あけぼの)中央像習作/1982/ブロンズ
29. 国方林三/裸婦/1935/ブロンズ
30. 新田藤太郎/建国/1939/ブロンズ
31. 藤川勇造/猿面レリーフ/1907/ブロンズ

展示室2

玉楮象谷と一門の系譜

On the Genealogy of the Tamakaji Zokoku School

讃岐漆芸は、江戸時代後期にあらわれた高松藩の漆工、玉楮象谷(1806～69)に始まります。当時日本の美術工芸は爛熟期を迎え、漆芸の分野では蒔絵が最も代表的な手法でしたが、象谷はあえて蒔絵によらず、堆朱、堆黒など中国から伝来された唐物漆器や、あるいは茶人の愛用した「苺マ手」と呼ばれる南方渡来の監胎漆器に着目し、これらを模して地方色豊かな漆器を創り出しました。これらの技法は、今日では「苺醬」「存清」「彫漆」として発展し、「香川の三技法」と呼ばれています。象谷の死後、その子雪堂が跡を継ぎましたが、孫の三代蔵谷が明治45年に没すると、直系は途絶えました。一方、象谷の弟、藤川黒斎や、その子蘭斎等がその技法を受け継ぎ、全国に苺醬や存清漆器を紹介しました。

本展では、讃岐漆芸の祖と称される玉楮象谷及び藤川家一門による6作家、あわせて33点の作品をご紹介します。

[出品リスト]

No.作家名/作品名/制作年/材質はすべて漆

1. 玉楮雪堂/喰籠/1859
2. 玉楮雪堂/苺醬文庫
3. 玉楮雪堂/堆朱香盒
4. 玉楮象谷/堆黒香盒/1830頃
5. 玉楮象谷/存清香盒/1842
6. 玉楮象谷/堆朱 御筆葉筥/1851
7. 玉楮象谷/狹貫彫堆黒 松ヶ浦香合/1851
8. 玉楮象谷/讃岐彫堆朱 手向山香盒/1852
9. 玉楮象谷/堆朱紅葵饌合/1852
10. 玉楮象谷/彩色苺醬 水指棚/1853
11. 玉楮象谷/堆黒 張成香盒
12. 玉楮象谷/堆黒香盒
13. 玉楮象谷/堆朱香盒
14. 玉楮象谷/印筥
15. 玉楮象谷/存清 蓮文盆
16. 玉楮象谷/存清網代杯
17. 玉楮蔵谷/堆朱香盒/1910頃

18. 玉楮蔵谷/堆黒香盒/1910頃
19. 藤川秋郊/苺醬丸盆
20. 藤川秋郊/監胎紅地堆黒 菊花硯箱/1895
21. 藤川黒斎/存清角膳 花鳥図
22. 藤川黒斎/存清菓子盆
23. 藤川黒斎/存清 花文鞍
24. 藤川黒斎/存清宴盆
25. 藤川黒斎/苺醬盆
26. 藤川黒斎/存清香盆
27. 藤川黒斎/存清盆
28. 藤川蘭斎/存清饌合/1890頃
29. 藤川蘭斎/存清重箱/1900頃
30. 藤川蘭斎/苺醬卓
31. 藤川蘭斎/苺醬肉池
32. 藤川蘭斎/堆黒平棗
33. 藤川蘭斎/堆黒香盒

第2期常設展

会期：2013年6月8日(土)～8月18日(日) 月曜日休館(7月15日開館)
ただし特別展開催期間中(7月7日～8月18日)は無休 66日間
企画担当及びギャラリートーク(7月6日(土)14:00～)三宅靖之
入場者人数 3,610人

展示室1

ザ・コレクションー 絵画 The collection – Painting –

1988年に四国と本州を結ぶ瀬戸大橋が開通して、早や四半世紀がたちます。その同じ年に、栗林公園内にあった旧高松市立美術館は市内中心部へ場所を移し、高松市美術館として装いも新たに開館しました。これを機に現在のコレクションの方向が確立され、「戦後日本の現代美術」「20世以降の世界の美術」「香川のみ美術」の3本柱により本格的にコレクションが行われるようになりました。

このたびの展示では、過去25年間にコレクションされた中から代表的な絵画作品20点と前年度の新収蔵品5点を紹介しました。

[出品リスト]

No. 作家名/作品名/制作年/材質

1. 鬮 嘸/前へ! / 1955 / 油彩・板
2. 合田佐和子/くわえタバコのデートリッヒ / 1973 / 油彩・麻布
3. 会田 誠 / BRUTUS / 1992(1996加筆) / パネル・木炭紙・木炭・アクリル絵具
4. 荒川修作/作品 / 1965 / 油彩・麻布
5. イチハラヒロコ/恋する美術だ。(「恋する美術だ。」シリーズより) / 2006 / アクリル・麻布
6. 上田 薫/スプーンのゼリーB / 1974 / アクリル・麻布
7. 宇佐美圭司/半島(ヘレンケラーのように) / 1965 / 油彩・麻布
8. 岡本太郎/生成 / 1961 / 油彩・麻布
9. 河原 温 / Nov.18.1987 / 1987 / アクリル・麻布
10. 菊畑茂久馬/天動説十五 / 1985 / 油彩・木・麻布
11. 北代省三/エレクトラ・コンプレックス / 1952 / 油彩・麻布
12. 篠原有司男/鮫とコニーアイランド / 1981 / アクリル・麻布
13. 白髪一雄/地蔵星百勝将韓滔 / 1961 / 油彩・麻布
14. タイガー立石/東京パロック / 1963-1964 / 油彩・麻布

15. 高松次郎/影 No.294 / 1970 / 油彩・麻布
16. 中西夏之/山頂の石蹴り No.1 / 1969 / 油彩・麻布
17. 奈良美智 / 「Time of My Life 2001」より / 2001 / 色鉛筆・紙
18. 福田美蘭/帽子を被った男性から見た草上の二人 / 1992 / アクリル・合板
19. 横尾忠則/電話 / 1965 / 油彩・麻布
20. 吉原治良/作品 / 1966 / 油彩・麻布

新収蔵作品

1. 小川 信治/恋文 / 2006 / 油彩・麻布
2. できやよい/カッペリ / 2003 / アクリル・紙・パネル
3. 天明屋 尚/現代日本若衆絵図 鎌倉 九人の侍 / 2001 / アクリル・木
4. 天明屋 尚/現代日本若衆絵図 パラパラ(大日本帝国) 対ブレイクダンス(亜米利加) / 2001 / アクリル・木
5. 山口 晃/大山崎交通乃圖 / 2008 / 水彩・紙・ペン

展示室2

「百花園」ー集いし匠たちー HYAKKAEN – Artists Collective –

香川県輩出の衆議院議員・田中定吉の弟・熊吉により、1907年(明治40)頃「百花園」という讃岐彫りを中心に讃岐漆器を商う店が存在しました。「百花園」の所在地は、現在の高松市内に在る裁判所の南で、今の兵庫町の北側にはお城の堀りがあって電話局の裏辺りにあったといわれています。この店には、石井馨堂、高橋皖山、鎌田稼堂、佐々竹僊、森象堂などの塗り・彫りの名人、木地職人らが集い、日々切磋琢磨して技を磨いており、象谷が残した讃岐漆芸を伝承していくとともに漆器の量産化、産業化に貢献し漆工芸の一時代を支えてきました。「百花園」が商われていたのは、明治末から大正2、3年ごろまでの短い期間でしたが、今日の香川の漆工芸作家輩出の源流をなすもので、歴史的にも貴重な役割を果たしてきた拠点として位置づけることが出来ます。

このたびの展示では、「百花園」に集い彫りの双璧と謳われた石井馨堂、高橋皖山そして、後に人間国宝となった音丸耕堂ら名工たち6人による作品30点を紹介しました。

[出品リスト]

No. 作家名/作品名/制作年/材質はすべて漆

1. 石井馨堂/堆朱 蜀葵山鶴図 香盆 / 1910頃
2. 石井馨堂/堆漆 蜀葵形 菓子器 / 1921
3. 石井馨堂/堆朱 肉池 / 1925
4. 石井馨堂/狭貫彫 堆朱料紙文庫 玉堂富貴之図 / 1927
5. 石井馨堂/俱利料紙文庫 俱利硯箱 / 1928
6. 石井馨堂/紅花緑香盆 水草虫之図 / 1928
7. 石井馨堂/狭貫彫 堆黒 香卓 / 1931
8. 石井馨堂/堆朱 線香筒 虫之図
9. 音丸耕堂/彫漆 七面鳥 香盆 / 1928
10. 音丸耕堂/堆朱 板文庫 昆虫之図 / 1928
11. 音丸耕堂/讃岐彫 堆漆 紅花緑葉 香合 / 1929
12. 音丸耕堂/彫漆 食籠 / 1932
13. 音丸耕堂/彫漆 菓子盆 / 1932
14. 音丸耕堂/彫漆 双鯉之図料紙箱 / 1934
15. 鎌田稼堂/堆黒 放牛 香合 / 1940頃

16. 鎌田稼堂/堆朱 菱盆 / 1941-45
17. 鎌田稼堂/堆黒 蘆蟹 香合 / 1947
18. 鎌田稼堂/堆朱 かまきり模様 香合 / 昭和初期
19. 鎌田稼堂/堆黄 クモ 香合
20. 鎌田稼堂/堆黒 肉池
21. 佐々竹僊/堆漆 香盆 花物之図 / 1943
22. 佐々竹僊/狭貫彫 堆黒 香合 烏之図 / 1947
23. 佐々竹僊/狭貫彫 手筈 瑞雲鳴鳳之図 / 1951
24. 高橋皖山/風月三昆 福祿壽図 紅花緑葉 香合 / 1919
25. 高橋皖山/采果並福壽之図 堆朱 香炉盆 / 1920
26. 高橋皖山/荷葉紅魚 野菜類之図 堆朱肉池
27. 高橋皖山/福祿壽 牡丹華之図 堆黒香盆
28. 森 象堂/堆黄 松葉 花瓶 / 1920頃
29. 森 象堂/狭貫彫 紅花緑葉茶量 福自天来之図 / 1931
30. 森 象堂/彩色蒔醬 茶箱 雲錦之図 / 1965頃

第3期常設展

会期：2013年8月24日(土)～10月20日(日)

(9月2日、9日、17日、24日、30日、10月15日休館)52日間

企画担当およびギャラリートーク(10月19日(土)14:00～)川西弘一

入場者人数 3,702人

展示室1

ザ・コレクションー版画ー

The collection – Print –

高松市美術館は「20世紀以降の世界の美術」を作品収集方針のひとつとして掲げています。生涯を通して作風を変えながら巨大な足跡を残したピカソ、平面的な画面構成と鮮烈な色彩で後の作家に計り知れない影響を与えたマチス、夢や無意識の世界に題材を求めたシュルレアリスムのエルンスト、ミロは、それぞれ異なる作風で人間の自由な想像力を謳いあげています。第2次大戦後、美術の中心はパリからニューヨークへと移りますが、ジャスパー・ジョーンズやラウシェンバーグは日常的なものを主題として新しい絵画構造を生み出し、ウォーホルやリキテンシュタインらに代表されるポップ・アートは、大量生産、大量伝達に象徴される現代の大衆文化を反映しています。

このたびの展示では、代表的な外国の版画作品31点を紹介しました。

[出品リスト]

No. 作家名/作品名/制作年/材質

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. アンディ・ウォーホル/マリリン/1967/シルクスクリーン・紙 2. ジュリアン・オピー/Imagine you are driving/1998-99/シルクスクリーン・紙 3. ジュリアン・オピー/Imagine you are walking/1998-99/シルクスクリーン・紙 4. マックス・エルンスト/博物誌「木の葉の習俗」/1926/コロタイプ・紙 5. マックス・エルンスト/博物誌「スフィンクスの厩舎の中で」/1926/コロタイプ・紙 6. パウル・クレー/綱渡り/1923/リトグラフ・紙 7. ヤラチェフ・クリスト/梱包されたライヒスターク/1972/布、パステル、木炭他・紙 8. ヤラチェフ・クリスト/梱包されたボン・ヌフ/1985/布、パステル、木炭他・紙 9. ジャスパー・ジョーンズ/ハトラス/1963/リトグラフ・紙 10. ジャスパー・ジョーンズ/標的/1974/シルクスクリーン・紙 11. ジャスパー・ジョーンズ/二つの旗/1980/リトグラフ・紙 12. サルヴァドール・ダリ/聖母受胎/1930/エッチング・紙 13. サルヴァドール・ダリ/見える女/1930/エッチング・紙 14. マルセル・デュシャン/階段を降りる裸婦No.2/1937/複製、鉛筆・紙 15. マルセル・デュシャン/大ガラス「完成大ガラス」/1965/カラーエッチング・和紙 | <ol style="list-style-type: none"> 16. パブロ・ピカソ/貧しき食事/1904/エッチング・紙 17. パブロ・ピカソ/コンポートのある静物/1909/ドライポイント・紙 18. ジョルジュ・ブラック/コンポジション(静物I)/1911/エッチング・紙 19. サム・フランシス/白い線/1960/リトグラフ・紙 20. リチャード・ハミルトン/インテリア/1964-65/スクリーンプリント・ステンシル・紙 21. リチャード・ハミルトン/昨日の家庭をこんなに違った魅力的にしたのは、一体何か?/1991/カラーレーザープリント・紙 22. デイヴィッド・ホックニー/ウェザー・シリーズ：太陽/1973/リトグラフ・スクリーンプリント・紙 23. デイヴィッド・ホックニー/ウェザー・シリーズ：雨/1973/リトグラフ・スクリーンプリント・紙 24. ジャクソン・ポロック/Number 8,1951 "Black flowing"/1964/シルクスクリーン・紙 25. ジャクソン・ポロック/Number 19,1951/1964/シルクスクリーン・紙 26. アンリ・マチス/横たわるオダリスクと果物鉢/1925/リトグラフ・紙 27. ジョアン・ミロ/岩壁の軌跡IV/1967/アクアチント・紙 28. ロバート・ラウシェンバーグ/ランドマーク/1968/リトグラフ・紙 29. ロイ・リキテンシュタイン/夢想/1965/シルクスクリーン・紙 30. ロイ・リキテンシュタイン/スウィート ドリームズ、ベイビー!/1965/シルクスクリーン・紙 |
|--|--|

展示室2

帝展工芸部の作家たちー磯井如真と工会

The Artists from the Imperial Academy Art Exhibition (Craft Division) : Joshin Isoi and the Takumi Group

昭和4年(1929)高松の磯井如真は第10回帝展に初入選を果たし讃岐漆芸の草分け的な存在となりますが、これは他の工芸家たちを刺激し、やがて帝展入選を目指す若い漆芸家たちは、昭和8年頃には「工会」(たくみかい)を結成し、毎月研究会を開き互いに持ち寄った作品などを批判し合って、研究を深めていきました。如真が主宰をつとめ、音丸耕堂、中西耕芳、岡田章人、高橋静道、谷澤不二松、真鍋光男が最初の会員となりました。彼らは展覧会を通じて香川漆芸の宣伝と振興に貢献すると同時に、帝展やその後身である文展(文部省美術展覧会)に入選することにより漆芸家としての実力を示しました。特に磯井如真、谷澤不二松、音丸耕堂は特選を受賞するなど目覚ましい活躍を続けました。

このたびの展示では、帝展、文展の出品作や「工会」の会員の作品20点をご紹介します。

[出品リスト]

No. 作家名/作品名/制作年/材質はすべて漆

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 浅田真水/蒔醬草花文彫漆箱/1966 2. 磯井如真/サボテンにホロホロ鳥 彫漆飾棚/1936 3. 磯井如真/里芋之圖 彫漆花瓶/1936 4. 磯井如真/乾漆花瓶/1937 5. 磯井如真/堆黒 香盆 麒麟之図/1946 6. 磯井如真/蒔醬香盆 密竹之圖/1943頃 7. 磯井如真/小屏風朝/1939頃 8. 岡田章人/蒔醬雪柳之図手箱/1947 9. 音丸耕堂/彫漆月之花手箱/1942 10. 音丸耕堂/彫漆椿文手箱/1943 | <ol style="list-style-type: none"> 11. 塩田 宏/春望 乾漆壺/1968 12. 高橋静堂/彫漆蒔醬 煌葉文短冊箱/1985 13. 谷澤不二松/草花文 彫漆香盆/1933 14. 谷澤不二松/水葵之図 彫漆香盆/1938 15. 谷澤不二松/金魚文 彫漆鉢/1938 16. 谷澤不二松/虫とみのりの図小屏風/1940 17. 二代 辻北陽斎/蒔絵月影乾漆色紙箱/1978 18. 藤岡研斎/乾漆時絵色紙箱 菜園/1982 19. 真鍋光男/蘭の花 茶ひつ/1953頃 20. 横山 操/葉文 彫漆香盆/1933 |
|---|--|

第4期常設展

会期：2013年10月26日(土)～12月23日(月・祝)月曜日休館
(10月28日、11月4日、12月23日開館)52日間
企画担当及びギャラリートーク(12月7日(土)14:00～)三宅靖之
入場者数 2,451人

展示室1

ザ・コレクションー立体ー The CollectionーSolidー

オブジェに近い抽象形態を制作した八木一夫・鈴木治・山田光、女性の陶芸界への進出の草分け的存在となった坪井明日香、木彫における独自のスタイルで主張する舟越桂、海外に活動の場を広げた篠原有司男、「耳」を主題に制作し続けた三木富雄、深い自然観に基づく思索的な作品を制作した若林奮、理想的形態を求めて造形思考した堀内正和、独特の質感で動物を題材に彫刻制作する三沢厚彦、セルフポートレートの手法を使い有名な絵画や有名な人などを表現する森村泰昌など。

戦後からの現代作家17人による異なる素材、表現方法の立体作品24点の魅力をお楽しみいただきました。

[出品リスト]

No. 作家名/作品名/制作年/材質

- | | |
|--|------------------------------------|
| 1. 荒木高子/砂の聖書/1983/シャモット | 13. 舟越桂/積んである読みかけの本のように/1983/楠・大理石 |
| 2. 飯田善國/HITO/1966/木 | 14. 堀内正和/四角と丸の組み合わせa/1956/鉄 |
| 3. 小谷元彦/Arabesque woman with a heart/2009/FRP他 | 15. 堀内正和/人差指/1966/ブロンズ |
| 4. 黒川弘毅/Golem No.50/1990-91/ブロンズ | 16. 三木富雄/耳/1964-65/アルミニウム |
| 5. 黒川弘毅/Golem No.53/1990-91/ブロンズ | 17. 三沢厚彦/Dog 2004-02/2004/楠・油彩 |
| 6. 黒川弘毅/Golem No.54/1990-91/ブロンズ | 18. 森村泰昌/ボデゴン(鼻つき洋梨)/1992/ミクストメディア |
| 7. 黒川弘毅/Golem No.55/1990-91/ブロンズ | 19. 八木一夫/抗走者/1955/信楽土 |
| 8. 黒川弘毅/Golem No.56/1990-91/ブロンズ | 20. 八木一夫/提示/1974/黒陶 |
| 9. 篠原有司男/モーターサイクル・ツイスティッド/1973/カードボード・ポリエステル樹脂 | 21. 柳原睦夫/金銀彩花器/1970/陶土・ラスター釉 |
| 10. 鈴木治/仔馬像/1983/信楽土・赤化粧・土灰 | 22. 山田光/作品/1958/信楽土 |
| 11. 坪井明日香/唐織追想行道(ゆくみち)/1990/陶土 | 23. 若林奮/LIVRE OBJETのための試作/1971/鉄・紙 |
| 12. 福岡道雄/北風(2)/1978/FRP・木 | 24. 若林奮/LIVRE OBJET/1971/鉄・本 |

展示室2

大正・昭和期のモダニズムー金工の歩みー Modernism of the Taisho and Showa PeriodーHistory of Metalworkー

日本の近代工芸は、美術的な傾向へと向かいます。それは、20世紀始めにヨーロッパでおこったアール・ヌーヴォーが基本にあります。この新しい世界の流れをいち早く取り入れようと日本の若い工芸作家たちにより、グループが結成されてよりモダンな感覚が追及されていきます。その代表的な工芸団体として、「无型」や「工人社」があげられます。「无型」は、1919年に鍍金の高村豊周を中心に、彫金家、漆芸家、染織家などの工芸家たちにより結成されます。伝統様式を打破し、モダンで自由な作風を展開します。また、「工人社」は、1927年に高松出身の北原千鹿が中心となり山脇洋二、大須賀喬、鴨政雄などが参加し結成されます。旧態依然としていた工芸界に新鮮な息吹を吹き込み、日本の近代工芸の発展に大きな役割を果たしていきます。

このたびの展示では、明治以後の伝統的な作風から脱して近代的な感覚で、新しい傾向の作品が制作されてきた大正・昭和期に注目し、この時代に活躍した津田信夫、香取秀真、清水南山、北原千鹿などの金工作家18人の作品35点を紹介しました。

[出品リスト]

No. 作家名/作品名/制作年/材質

- | | |
|----------------------------|--------------------------------|
| 1. 大須賀 選/みちるべ/1967/真鍮・ガス溶接 | 19. 佐々木象堂/蠟型鑄銅置物采花/1959/銅 |
| 2. 大須賀 喬/黄銅花器/1930/黄銅 | 20. 佐々木象堂/鑄銅花葉文花入/昭和初期/銅 |
| 3. 大須賀 喬/胡蝶紋手筥/1954/銀 | 21. 信田 洋/金象嵌銀瓶/1958/金象嵌・銀 |
| 4. 大須賀 喬/パラソルの取っ手/昭和初期/銀 | 22. 杉田禾堂/花瓶/1949/銅 |
| 5. 越智健三/中庭構成のために/1965/鉄 | 23. 高村豊周/青銅花入/青銅 |
| 6. 香取秀真/兎/青銅 | 24. 高村豊周/把手花入/昭和初期/朱銅 |
| 7. 鴨 幸太郎/喫煙具/1933/木・鉄・銅・銀 | 25. 高村豊周/臙銀花入草徑/臙銀 |
| 8. 鴨 幸太郎/鳥獸紋香爐/1938/銅 | 26. 津田信夫/一點玲瓏/1934/青銅 |
| 9. 鴨 政雄/花器 蛾と月見草/1937/真鍮 | 27. 西村敏彦/壺形鑄銅花瓶/1920/鑄銅 |
| 10. 鴨 政雄/トカゲと蝶紋花瓶/1952/銅 | 28. 羽原一陽/象嵌花器 窓/1967/銅 |
| 11. 北原千鹿/葡萄文水差/1923/銀 | 29. 内藤四郎/銀渦文香合/銀・陶 |
| 12. 北原千鹿/花燭台/1926/銅 | 30. 内藤四郎/草花文香子/銀・陶 |
| 13. 北原千鹿/燭台/1928/黄銅 | 31. 内藤四郎/亀甲文銀漆香合/銀・漆 |
| 14. 北原千鹿/鹿文金彩花瓶/1936/銀 | 32. 村越道守/彫金 金消模様一輪ざし/1929頃/銅 |
| 15. 北原千鹿/夏の山草金彩壺/1937/銀 | 33. 山脇洋二/壁掛照明器/1927/銅 |
| 16. 北原千鹿/鳩/1939/銀・黄銅 | 34. 山脇洋二/壁掛照明器/1931/ガラス・銅 |
| 17. 後藤 学/山葡萄 鍛鉄 置物/鉄・銅 | 35. 山脇洋二/照明器/1931/クリスタルガラス・銅・銀 |
| 18. 佐々木象堂/鑄銅 耳付花入/1926/銅 | |

第5期常設展

会期：2014年1月7日(火)～3月30日(日)月曜日休館

(1月13日開館、1月14日休館)72日間

企画担当およびギャラリートーク(2月1日(土)14:00～)牧野裕二

ワークショップ「椅子を置く／音を置く—インスタレーションであそぶ—」☆

開館25周年記念講演会「高松市美術館の「具体」コレクション 田中敦子《電気服》を中心に」★

「ヨシダミノルについて」★

☆＝教育普及の頁参照 ★＝芸術的催物の頁参照

入場者数 2,890人

展示室1

ザ・コレクション—インスタレーション・映像・写真— The Collection — Installation, Video, and Photograph —

平成25年度の常設展第1室では、高松市美術館開館25周年を記念し、1700点以上あるコレクションの全体像を、1期は旧美術館時代コレクション、2期は絵画、3期は版画、4期は立体というくくりで紹介してきました。本年度最後となる5期では、絵画・版画・立体という旧来の美術のカテゴリーには収まらない多彩な表現形式による作品の数々を「インスタレーション・映像・写真」というテーマで紹介しました。

このたびの展示では、テクノロジー・アートやインスタレーションの先駆的な作例でもある、約200の電球がカラフルに点滅する田中敦子《電気服》(1956・86年)を中心に、ヨシダミノルによる音や光や動きを取り入れた作品、宮島達男によるLEDのデジタルカウンターを用いた作品、藤本由紀夫による音を題材にした作品など、8作家による作品10点をご紹介します。

[出品リスト]

No. 作家名／作品名／制作年／材質

1. 池田亮司／Data.scan／2009／LEDディスプレイ他
2. 池田亮司／the transcendental (π) [n° 1-c]／2009／ピグメントプリント・紙、アルミ
3. 金山明／Mar.5 Mar.6 Mar.7／1957／フェルトペン、紙
4. さわひらき／eight minutes／2005／DVD(8分50秒)
5. 杉本博司／U.A. リトルネック、ニューヨーク／1976／ゼラチンシルバークラウドプリント

6. 田中敦子／電気服／1956／86／エナメル、電球、コード
7. 田中敦子／作品／1962／油彩、アクリル、麻布
8. 藤本由紀夫／EARS WITH CHAIR (on the wall)／1990-93／ミクストメディア
9. 宮島達男／Counterline No.1／1998／ダイオード他
10. ヨシダミノル／JUST CURVE '67 Cosmoplastic／1967／ステンレス、プラスチック、蛍光灯、センサー他

展示室2

戦後の讃岐漆芸 Sanuki Lacquer Art After World War II

江戸時代後期に玉椿象谷により基礎が築かれ、明治・大正・昭和にかけて数々の名工によって受け継がれてきた讃岐漆芸。彫漆、蒔罫、存清という独自の加飾技法を特色とする讃岐漆芸は、戦後、日本伝統工芸展と日展を拠点に活躍する作家たちによって、伝統をベースとしながらも常に新しい要素を加えながら、バラエティ豊かに展開してきました。

このたびの展示では、日本伝統工芸展やうのみ会を舞台に活躍した作家を中心に、22作家による作品26点により、戦後の讃岐漆芸の流れを概観しました。

[出品リスト]

No. 作家名／作品名／制作年／材質はすべて漆

1. 明石朴景／春秋麗日／1979
2. 石原雅員／彫漆小筆筒 花苑／2004
3. 伊賀寛泰／彩漆蒔罫飾箱 秋彩／1990
4. 磯井正美／蒔罫 月あかり 食籠／1973
5. 磯井正美／蒔罫 むらさき 箱／1990
6. 太田加津子／籃胎蒔罫 盛器 波文／1986
7. 太田 儔／籃胎蒔罫 短冊箱 夏ぐみ／1996
8. 太田 儔／籃胎蒔罫 茶箱 春風／1998
9. 大谷早人／籃胎蒔罫 文箱／1989
10. 大西忠夫／鬱気／1963
11. 音丸耕堂／彫漆蘇鐵文食籠／1948
12. 音丸耕堂／彫漆八仙花 香合
13. 香川宗石／讃岐漆 存清花蝶紋 色紙箱／1965頃

14. 北岡省三／彫漆短冊箱 碧麗／1995
15. 後藤健吉／心象風景Ⅲ／2009
16. 佐々木正博／蒔罫草花文八角箱／2011
17. 竹内幸司／乾漆 喰籠／1993
18. 辻 照二／乾漆彩色時絵短冊箱／1993
19. 中島光夫／堆漆 合せ菱文 短冊箱／1992
20. 西岡春雪／繩胎朱塗 食籠／2001
21. 藤田正堂／彫漆蒔罫流文盛器／2002
22. 真子実也／スクリーン むつごと／1967
23. 向井武志／蒔絵箱 揺／1998
24. 安本一夫／實蘆／1984
25. 山下義人／蒔罫箱 くれない／2005
26. 山下義人／蒔罫箱 山笑う／2011

2. 教育普及

[ワークショップ]

場所：記載のないものは講座室

マリオネット人形を作ろう!-木を使った糸操り人形-

木製の部品を組み合わせ糸操り人形を制作。手足を組み立てて色を塗り、服を作り、最後に手足に糸を取り付けて完成。特別展「チェブラーシカとロシア・アニメーションの作家たち」関連。

4月21日(日)9:30～12:00

講師：川崎展子(美術作家)

受講料：500円(材料費300円)

対象：小学生3年～中学生

参加人数：20人

音の鳴る楽器を作ろう!

ペットボトルにマジックやビーズ、シールなどで装飾を施し、「美術館の日」のミュージアムミニコンサートで演奏するマラカスを制作。午前の演奏に参加した。

8月3日(土)9:30～12:00

講師：美術館職員

対象：小学生以上

参加人数：15人



へんな植物をつくろう

植物の図鑑や絵本を参考にしながら、茎、葉、花のパーツを組み合わせたたり、新しい形を考えたりしながら、自分だけの植物を絵にした。

8月17日(土)9:30～12:00

講師：やぎともひろ(アルフェテ代表)

受講料：500円(材料費300円)

対象：未就学児(4、5歳)～小学校2年生

参加人数：17人



はがすコラージュをつくろう

紙をお菓子の空箱に何層も重ねて貼り、それを剥がして紙の層を作り、コラージュを楽しんだ。

8月17日(土)13:00～16:00

講師：やぎともひろ(アルフェテ代表)

受講料：500円(材料費300円)

対象：小学校3～6年生

参加人数：5人



子ども陶芸教室-自分だけのお皿をつくろう-

お皿のデザインを紙に描き、それを型紙にしてオリジナルのお皿を制作。後日、お皿を焼いて参加者に渡した。

8月25日(日)13:00～16:00

講師：美術館職員

材料費：1,000円

対象：小学生

参加人数：12人



名画模写にチャレンジ!

絵画の写真を使って模写を制作。色づかいや筆のタッチなども正確に模写しながら、作品の美しさの秘密を学んだ。特別展「グランマ・モーゼスと近代絵画」関連。

9月23日(月・祝)9:30～12:00

講師：杉本公和(アトリエころあん美術研究所所長、美術家)

受講料：500円

対象：中学生～大人

参加人数：12人



スプ子さんと作品鑑賞しよう!

スプツニ子!氏が小中学生と展示作品やアートについて語りあった。特別展「高松コンテンポラリーアート・アニュアルvol.03」関連。

10月26日(土)13:00～14:30

講師：スプツニ子!(美術家)

場所：2階展示室

受講料：500円

対象：小学4年生～中学生

参加人数：18人



曲をつくる

参加者が持参した楽器を用いて、打ち上げ花火など身の回りの音を表現し、最後に各自の曲の断片を組み合わせ、合奏した。特別展「高松コンテンポラリーアート・アニュアルvol.03」関連。

10月27日(日)9:30～12:30

講師：高木正勝(映像作家・音楽家)

受講料：500円

対象：小学4年生以上

参加人数：15人



立体ドローイングをつくろう!

持参した菓子箱などに白絵具を塗り、上からマジックで好きな絵や依田氏が用意したドーナツを描いた。特別展「高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol.03」関連。

10月27日(日)14:00～17:00

講師：依田洋一朗(美術家)

受講料：500円

対象：小学生以上

参加人数：15人



PIKAPIKA でえがく夢の世界

参加者各自の「夢」ややりたいものを互いに協力してペンライトで描き、映像作品を制作。特別展「高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol.03」関連。

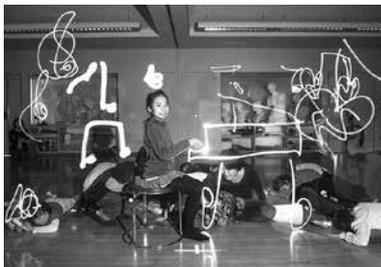
11月3日(日) 9:30～12:30 / 14:00～17:00

講師：トーチカ(映像作家)

受講料：500円

対象：小学生(午前) / 中学生以上(午後)

参加人数：15人(午前)、10人(午後)



場所：記載のないものは講座室

ぱらぱらアニメ制作!

各自が考えたストーリーをもとに、少しずつ変化する絵を小さな紙に描き、最後に全員のぱらぱらアニメをスライド上映した。特別展「チェブラーシカとロシア・アニメーションの作家たち」関連。

4月14日(日)9:30～12:00

講師：横山俊一(グラフィックデザイナー)

受講料：500円(材料費300円)

対象：小学3年～中学生

参加人数：17人

映画の場面を描こう!

映画「E.T.」の各場面を分担して透明フィルムなどの上に描き、最後に紙芝居を上演。特別展「高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol.03」関連。

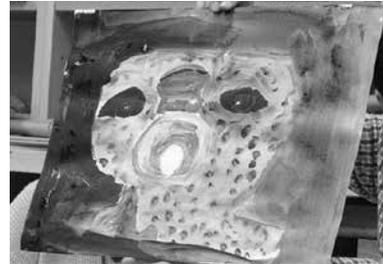
11月4日(月・祝)9:30～12:30

講師：高松明日香(美術家)

受講料：500円

対象：小学4年生以上

参加人数：10人



彫漆でブローチをつくろう

何層にも塗り重ねられた漆に彫刻刀で模様を彫り、ブローチを制作。特別展「磯井如真展」関連。

3月8日(土)13:00～

講師：山下哲二(公益社団法人日本工芸会正会員)

場所：香川県漆芸研究所7階造形実習室

受講料：500円(材料費1,500円)

対象：中学生以上

参加人数：18人



椅子を置く / 音を置く - インスタレーションであそぶ -

空間における椅子の配置やオルゴールの設置を通してインスタレーションを楽しんだ。第5期常設展関連。

3月9日(日)13:30～16:30

講師：藤本由紀夫(美術家)

場所：中2階休憩スペースほか

受講料：500円

対象：小学生以上

参加人数：12人



[子どものアトリエ]

私の街・あなたの街・みんなの街

陶芸粘土を使って、陶板の上に空想の街を作り出した。完成した街を参加者同士でつなぎ合わせることで、より大きな街になった。特別展「グランマ・モーゼスと近代絵画」関連。

9月15日(日)13:30～15:00
 講師：倉石文雄(香川大学教授、陶芸家)
 受講料：500円(材料費300円)
 対象：小学生
 参加人数：19人



あつまれ!デコびな手芸部

身近な素材を使ってひな人形を制作した。おもちゃの野菜やつけまつげや毛糸・ビーズなどを飾り付けて、不思議でかわいいひな人形が出来上がった。3月2日(日)9:30～12:00(時間内に自由に参加可能)

講師：千葉尚実(美術家)
 場所：中2階休憩スペース
 受講料：300円
 対象：小学生以上
 参加人数：13人



ボクだけの仮面をつくろう!

段ボールに絵を描いたりコラージュするなどして仮面を制作した。

3月15日(土)9:00～12:00
 講師：森かおり(アートサイコセラピスト)
 受講料：500円
 対象：未就学児以上
 参加人数：10人



でっかいボクを描こう!

大きな紙に自身の身体の輪郭をトレースし、等身大の自画像を描いた。

3月16日(日)9:00～12:00
 講師：森かおり(アートサイコセラピスト)
 受講料：500円
 対象：未就学児以上
 参加人数：11人



[アートで遊ぼう!]

鑑賞教育の充実を図るための鑑賞プログラム。ゲームや遊びを取り入れながら、当館学芸員とともに美術作品を鑑賞した。毎回9:30～11:00 / 対象：小学3～6年生

展覧会名	開催月日	講師	参加者数
大竹伸朗展 憶速	8月24日(土)	牧野裕二	5人
グランマ・モーゼスと近代絵画	9月28日(土)	三宅靖之	5人
高松コンテンポラリーアート・アニュアルvol.03	11月2日(土)	牧野裕二	3人

[美術館学習]

サンクリスタル学習参加校のうちで、午後より引き続き美術館での学習を希望する小学校を受け入れ(サンクリスタル高松-美術館間の交通費を負担)、作品鑑賞や施設見学、彫刻探検などの活動を行った。

期間：5月1日から3月6日
 参加校：19小学校
 参加人数：延1,523人

[美術館の日]

美術館の開館記念日(8月6日)に近い8月第1土曜日を「美術館の日」と制定し、展覧会の観覧料を無料にしたほか、ゲームを用意した「ふらっとアート」やミニコンサートなど、市民が気軽に美術館を訪れて楽しめる催しを開催。

8月3日(土)
 参加人数：特別展観覧者864人、ふらっとアート100人、ミュージアムコンサート240人

[博物館実習]

期間：7月30日～8月4日

実習内容：概要説明・施設見学、美術館と作品収集(講義)、解説ボランティア活動・教育普及(講義)、資料の保管と管理・二次資料の保管(講義)、作品取扱い実習、ワークショップ補助実習、展示見学・他館見学
 実習生数：4名(宮崎大学1名、京都精華大学1名、金沢工芸大学1名、香川大学1名)

[ボランティア]

美術館ボランティアcivi(シヴィ)

市民の美術活動の支援と展覧会観覧者の利便を図るため、美術作品解説ボランティアcivi(シヴィ)を設置し、平成11年度から活動を行っている。特別展のギャラリートークのほか「しびのーと」の発行(年2回)、ワークショップのアシスタントなどの活動を行った。登録人数=22人

ギャラリートーク

原則として、特別展会期中の日曜日・祝日の11:00～、14:00～

延べ57回892人(「チェブラーシカとロシア・アニメーションの作家たち」を除く4展の特別展において)

ギャラリートーク及び定例会(原則毎月第1土曜日)以外の活動

2013年

- 4月 6日 「チェブラーシカといっしょに撮影しよう!」アシスタント
- ～5月19日
- 4月14日 子どものアトリエ「ばらばらアニメ制作!」(講師:横山俊一)アシスタント
- 4月21日 ワークショップ「マリオネット人形を作ろう!」(講師:川崎展子)アシスタント
- 5月 1日 しびのーと27号発行
- 5月17・18・19日「三木町高齢者教育学園」アシスタント
- 6月22日 シヴィ新メンバー養成講座(全6回)研修
- ～8月24日
- 7月20日 瀬戸内国際芸術祭2013「海あかりプロジェクト」参加
- ～9月1日
- 9月15日 子どものアトリエ「私の街・あなたの街・みんなの街」(講師:倉石文雄)アシスタント
- 9月23日 ワークショップ「名画模写にチャレンジ!」(講師:杉本公和)アシスタント
- 10月20日 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館「大竹伸朗展 ニューニュー」見学
- 10月26日 ワークショップ「スプ子さんと作品鑑賞しよう!」(講師:スプツニ子!)アシスタント
- 10月27日 ワークショップ「曲をつくる」(講師:高木正勝)アシスタント
- 10月27日 ワークショップ「立体ドローイングをつくろう!」(講師:依田洋一朗)アシスタント
- 11月 3日 ワークショップ「PiKAPiKAでえがく夢の世界」(講師:ナガタタケシ+モンノカヅエ)アシスタント
- 11月 4日 ワークショップ「映画の場面を描こう!」(講師:高松明日香)アシスタント

2014年

- 3月 9日 ワークショップ「椅子を置く/音を置くーインスタレーションであそぶー」(講師:藤本由紀夫)アシスタント
- 3月22日 香川県善通寺市「四国こどもとおとなの医療センター」見学



しびのーと 27号

[美術図書室]

月別利用者数

年月	入場者数(人)	開館日数(日)
H25.4月	192	27
5月	147	27
6月	159	26
7月	214	28
8月	690	31
9月	229	25
10月	113	29
11月	153	26
12月	177	24
H26.1月	178	24
2月	155	24
3月	174	26
合計	2,581	317

書籍

区分	購入	寄贈	合計
図書	23	31	54
雑誌	55	67	122
逐次刊行物	0	272	272
図録	0	368	368
合計	78	738	816

[共催講演会]

かがわ・山なみ芸術祭特別企画 篠原有司男講演会

瀬戸内国際芸術祭関連事業として始まる「かがわ・山なみ芸術祭」に先立ち、ネオダダの旗手、篠原有司男による芸術的経験と国際的な視野に立つ芸術論を披露するトークショーを開催。また、「かがわ・山なみ芸術祭出品作家によるプレゼンテーション」も同時開催された。

4月9日(火)18:00～20:00

場所：講堂(入場無料)

講師：篠原有司男(美術家)

参加人数：120人

主催：かがわ・山なみ芸術祭実行委員会

共催：高松市美術館

3. 芸術的催物

[開館25周年
記念事業]

坂本龍一 Playing the Piano Tribute to Shinro Ohtake

開館25周年記念事業及び「大竹伸朗展 憶速」関連企画として、大竹氏と親交のある坂本龍一氏によるピアノコンサートが開催された。坂本氏は大竹氏の音を発する作品《ダブ平&ニューシャネル》などのサンプリング音と、「美貌の青空」など自身のナンバーを含むピアノ音を即興的に組み合わせながら約1時間にわたり多彩な音楽を紡ぎ出し、観客を大いに魅了した。演奏に先立ち、坂本・大竹両氏によるトークセッションも行なわれた。

8月10日(土)18:00 開場 18:30 開演

出演：坂本龍一、大竹伸朗

場所：エントランスホール

入場料：5,000円

参加人数：210人

主催常設展の開催に併せて、展示のテーマに沿った講演会を開催した。



高松市美術館の「具体」コレクション

一 田中敦子《電気服》を中心に

1950~60年代に話題となった前衛美術グループ「具体」について、美術史家の加藤氏に、田中敦子「電気服」を含む高松市美術館のコレクションと絡めながらお話しいただいた。

1月26日(日)13:00～14:30

場所：講堂(入場無料)

講師：加藤瑞穂(大阪大学総合学術博物館招聘准教授)

参加人数：52人



「ヨシダミノルについて」

前衛美術グループ「具体」において光や音などを用いた特異なインスタレーションやパフォーマンスを発表した作家・ヨシダミノルについて、美術家・藤本由紀夫氏に自身の親交の思い出も交えてお話しいただいた。

関連記事：しびのーと28号 2014年5月1日「藤本由紀夫トーク「ヨシダミノルについて」を聴いて」福田千恵(高松市美術館)

1月26日(日)15:00～16:30

場所：講堂(入場無料)

講師：藤本由紀夫(美術家)

参加人数：60人



[ミニコンサート]

特別展ごとに、展覧会内容に関連する演奏プログラムを企画し、県内演奏家によるミニコンサートを開催。

場所：エントランスホール

進行：翠さやか(高松市美術館)

「チェブラーシカとロシア・アニメーションの作家たち」関連

「こどものためのロシアの音楽」

「チェブラーシカ」のアニメ曲を間奏にはさみながら、ショスタコーヴィチ「祖国は聞いている」、チャイコフスキー「こどものためのアルバム」などロシアゆかりの名曲を演奏した。また、「ピーターとおおかみ」をスライドアニメと管楽器を交え朗読した。

5月18日(土)13:30～14:00

演奏者：若井健司(語り・香川大学教授)、梅本香織(ピアノ)、上野由佳(ソプラノ)、安友孝宣(ソプラノ・サクソフォーン)、中田恵美(クラリネット)、見垣佑介(ファゴット)、萩原かや乃(ホルン)、青山夕夏(監修・フルート・香川大学教授)

参加人数：133人

協力：香川大学



「美術館の日」関連

午前は、「シンコペーティッドクロック」の演奏に子どもたちがお手製のマラカスで参加したほか、開館25周年を記念して25年前のヒット曲「乾杯」なども演奏。午後は、幼児対象のプログラムとして、ジブリの名曲演奏や、親子で参加できる手遊び「ひつつきもつつき」、スライドを使った「にじ」、パネルシアター「ボールがとんできて」などで楽しんだ。

8月3日(土)①11:30～12:00、②13:30～14:20

演奏者:[トリオ・ティラーレ]西浦弘美(ヴァイオリン)、榎並歌織(チェロ)、大山まゆみ(ピアノ)、志賀勇太(バリトン)、みゅーじっくすペーす・コモド

参加人数：延240人



「グランマ・モーゼスと近代絵画」関連関連

「20世紀パリのミューズ」

東郷青児が十代でパリに留学したという経歴から、ドビュッシー「クラリネットのための第1狂詩曲」、ケックラン「ジーン・ハーロウの墓碑銘 Op.164」、ラヴェル「夜のガスパール」よりオンディーヌ」など、パリにちなんだ名曲を集めた。

9月28日(土)13:30～14:00

演奏者：大久保かおり(クラリネット)、安友孝宣(サクソフォーン)、前田千恵/浅田萌(ピアノ)、青山夕夏(監修・フルート)

参加人数：96人

協力：香川大学



「高松コンテンポラリーアート・アニュアルvol.03」関連

「現代音楽にみる夢」

展覧会のテーマにちなみ、「夢」や「空想」に関連のある現代音楽を選曲。ストラビンスキー「三つの小品」、一柳慧「忘れえぬ記憶の中」など。

11月30日(土)13:30～14:00

演奏者：石川幸司(クラリネット)、西村絵梨名(フルート)、大山まゆみ(ピアノ)
参加人数：100人



[展覧会関連音楽
イベント]

テルミン&マトリョミンコンサート

ロシア生まれの世界最古の電子楽器「テルミン」とマトリョーシカの形をした「マトリョミン」を用いた演奏。テルミン独奏で組曲「仮面舞踏会」より夜想曲やテルミンのための曲「Time Slips Away 訪れざりし未来」などを演奏後、演奏体験もでき、テルミンに触れる貴重な機会となった。特別展「チェブラーシカとロシア・アニメーションの作家たち」関連。

5月5日(日)13:30～14:30

演奏者：中村隆子(テルミン奏者)

場所：講堂(入場無料)

参加人数：150人



高木正勝スペシャルピアノライブ

スタジオジブリのドキュメンタリー映画「夢と狂気の王国」の音楽を担当するなど、音楽家としても精力的な活動を続ける高木氏が自作映像にあわせてピアノ演奏をおこなった。特別展「高松コンテンポラリーアート・アニュアルvol.03」関連。

10月26日(土)18:30～19:00頃

場所：エントランスホール(入場無料)

参加人数：100人



※共催事業

[コンサート]

エントランスホールを使った芸術的イベントへの共催。

主催＝高松市美術館友の会※友の会の頁参照

4. サポート ショップ 事業

会期中の特別展チケットの半券、又は有効期間中の定期観覧券(年間パスポート)を提示すると、参加店舗で割引などの特典を受けることができる高松市美術館サポートショップ事業を平成24年度から実施している。また、平成25年度から新たに、各サポートショップに「高松市美術館サポートショップ利用者割引券」を設置し、サポートショップ利用のお客様がその割引券を美術館に持参すると特別展観覧料が割引になる相互割引制度を導入した。

参加店舗数：53店

美術館での割引券利用件数：67件



高松市美術館サポートショップマップ 利用者割引券

5. 資料

(1) 収集

[購入作品]

平面

No.
作家名
作品名
制作年
技法・材質
寸法



1.
キース・ヘリング
Statue of Liberty(自由の女神)
1986
シルクスクリーン・紙
95×72cm



2.
加藤 泉
無題
2008
油彩・麻布
194×162cm

立体



3.
ヤノ ベケンジ
ガイガーチェック:ワールドワイド No.5
1998
ガイガー・カウンター、スーツケース、時計、世界地図、他
45×37×h13cm



4.
ヤノ ベケンジ
ミニ・アトムスーツ
2003-13
ガイガー・カウンター、プラスチック、他
45×33×h96cm

工芸・漆工



5.
藤田 正堂
彫漆蒔番 蓋物 律
2012
乾漆
20.6×20.6×h15.5cm

(2) 貸出実績

作家名	作品名	展覧会名/会場	会期
桂 ゆき	作品	生誕百年 桂 ゆき	
桂 ゆき	象	東京都現代美術館	13.4/6 ~ 6/9
桂 ゆき	作品	下関市立美術館	13.6/21 ~ 8/4
マルセル・デュシャン	ひげをそったL.H.O.O.Q	〈遊ぶ〉シュルレアリスム展	
マルセル・デュシャン	L.H.O.O.Q	徳島県立近代美術館	13.4/27 ~ 6/30
マルセル・デュシャン	トランクの箱	損保ジャパン東郷青児美術館	13.7/9 ~ 8/25
瀧口修造	作品(デカルコマニー)		
瀧口修造	作品(ロト・デッサン)		
瀧口修造	作品(バート・ドローイング)		
瀧口修造	作品(デカルコマニー)		
マックス・エルンスト	百頭女		
マックス・エルンスト	カルメン修道会に入ろうとしたある少女の夢		
マックス・エルンスト	慈善週間 あるいは七大元素		
アンドレ・ブルトン	切り裂きジャック		
池田龍雄	シリーズ化物の系譜 ショーバイ	日本の「妖怪」を追え!展	
池田龍雄	シリーズ化物の系譜 出勤	横須賀美術館	13.7/13 ~ 9/1
池田龍雄	シリーズ禽獣記 羈鳥		
池田龍雄	シリーズ禽獣記 パーティ		
小沢 剛	なすび画廊-コンプレッソ・プラスティコ	昭和40年会 We were boys	
小沢 剛	なすび画廊-パルコ木下	鎌田共済会郷土資料館	13.7/2 ~ 9/1
小沢 剛	なすび画廊-小沢 剛		
小沢 剛	なすび画廊-昭和40年会		
小沢 剛	なすび画廊-オスカル大岩幸男		
イサム・ノグチ	Untitled	丹下健三 伝統と創造 瀬戸内から世界へ	
		香川県立ミュージアム	13.7/20 ~ 9/23
太田 儔	籃胎蒟醬 茶箱 浅春	江戸から現在へ受け継がれる 香川漆芸の美	
		香川県漆芸研究所	13.7/15 ~ 9/23
福田美蘭	侍女ドーニャ・マリア・アウグスティーナから見た女王マルガリータ、ドーニャ・イサベル・ベラスコ、矮人マリア・バルボラ、矮人ニコラシート・ペルトウサートと犬	福田美蘭展	
		東京都美術館	13.7/23 ~ 9/29
鈴木 治	山の上にかかる高い雲	鈴木治回顧展	
		京都国立近代美術館	13.7/12 ~ 8/25
		愛知県陶磁資料館	13.10/12 ~ 12/23
		東京ステーションギャラリー	14.7/26 ~ 8/31
		山口県立萩美術館・浦上記念館	14.11/1 ~ 12/23
玉楮象谷	堆黒 香合	第63回企画展「古今高松大物産展」	
藤川黒斎	蒟醬 盆	高松市歴史資料館	13.7/27 ~ 9/1
後藤太平	彫抜 楕円式 茶具入		
磯井如真	存清 六角香盆		
音丸耕堂	彫漆 狛魔犬 水指		
磯井正美	蒟醬 黒富士丸盆		
曾谷朝絵	Bathtub no.15	曾谷朝絵展	
		水戸芸術館	13.7/27 ~ 10/27
中村 宏	聖火千里行	六本木クロッシング2013	
		森美術館	13.9/21 ~ 14.1.13
山下義人	蒟醬箱 山笑う	日本のわざと美-重要無形文化財とそれを支える人々	
		山梨県立美術館	13.9/7 ~ 10/14
玉楮象谷	狭貫彫 堆黒 松ヶ浦香合	j a p a n - 漆の世界-	
玉楮雪堂	蒟醬 文庫	岡山県立博物館	13.10/22 ~ 11/17
藤川蘭斎	存清 重箱		
藤川秋郊	籃胎紅地 堆黒 菊花硯匣		
石井馨堂	紅花緑葉 香盆		
高橋皖山	采果並福壽之図 堆朱 香炉盆		
佐々竹僊	狭貫彫 手筈 瑞雲鳴鳳之圖		
鎌田稼堂	堆朱 菱盆		
音丸耕堂	彫漆 八仙花 香合		
磯井如真	飾棚 竹林之図		
磯井正美	蒟醬 むらさき 箱		
佐々木正博	蒟醬 草花文 八角箱		
石原雅員	彫漆 小簞笥 花苑		
西岡春行	縄胎朱漆 食籠		
竹内幸司	乾漆 喰籠		

作家名	作品名	展覧会名/会場	会期
太田 儔	籃胎蒔醬 瀬戸内の棚	日本の原風景 式年遷宮記念神宮美術館	13.10/7 ~ 11/4
工藤哲巳	広島化石(1)	あなたの肖像—工藤哲巳回顧展 国立国際美術館 青森県立美術館	13.11/2 ~ 14.1/19 14.4/12 ~ 6/8
工藤哲巳	広島化石(2)		
工藤哲巳	広島化石(3)		
工藤哲巳	広島化石(4)		
工藤哲巳	広島化石(5)		
工藤哲巳	マザー・コンプレックス・バラダイス	ハイレッド・センター：『直接行動』の軌跡 名古屋市美術館 渋谷区松濤美術館	13.11/9 ~ 12/23 14.2/11 ~ 3/23
工藤哲巳	東洋-西洋、ブラックホール 構造-腸詰構造		
中西夏之	コンパクトオブジェ	人間国宝—生み出された美、伝えゆくわざ— 東京国立博物館	14.1/15 ~ 2/23
音丸耕堂	堆朱 南瓜文色紙箱	グループ『幻蝕』と石子順造1966-1971 —時代を先駆けた冒険者たちの記録展 静岡県立美術館	14.2/1 ~ 3/23
タイガー立石	東京バロック	本物を越えて 福井市美術館	14.2/22 ~ 3/23
中村 宏	望遠鏡・富士山		
高松次郎	遠近法の箱		
高松次郎	遠近法の人物No.192		
荒川修作	作品		
吉田克明	cut-off 8		
小島信明	立像		
嶋 剛	団地 T&T	静—歌会始御題によせて— 式年遷宮記念神宮美術館	14.2/19 ~ 3/23
上田 薫	なま玉子J		
三尾公三	Fiction space B-2		
金 昌烈	水滴 J.T.83003		
太田 儔	籃胎蒔醬 波の棚	中村一美展 国立新美術館	14.3/19 ~ 5/19

(3) 修復実績

作家名	作品名	制作年	技法・材質
高松次郎	遠近法の人物 No.192	1967	油彩・キャンバス

6. 利用実績

[特別展]

		チェブラーシカ	大竹伸朗展 憶速	グランマ・モーゼス	ア ニ ュ ア ル	磯井如真展	計	
開催期間		4/6 ~ 5/19	7/17 ~ 9/1	9/7 ~ 10/14	10/26 ~ 12/1	2/18 ~ 3/23		
開催日数		40	47	34	33	30	184	
有料	通常	一般	2,547	3,238	1,858	930	1,082	9,655
		大学生	147	384	83	106	47	767
	割引	一般	874	2,898	536	434	194	4,936
		大学生	25	310	12	22	1	370
	前売	一般	377	47	183	90	173	870
		大学生	10	2	3	2	1	18
	共通定期観覧券	315	206	509	195	271	1,496	
	小計	4,295	7,085	3,184	1,779	1,769	18,112	
無料	高校生	160	166	40	49	46	461	
	中学生	181	697	90	98	53	1,119	
	小学生	716	343	518	470	223	2,270	
	就学前	468	201	41	40	28	778	
	小計	1,525	1,407	689	657	350	4,628	
免除	大学生ほか	99	92	25	10		226	
	引率者	22	13	21	31	15	102	
	障がい者介添人	262	214	250	96	129	951	
	小計	383	319	296	137	144	1,279	
	招待券等	422	1,615	406	512	485	3,440	
	観覧者総数	6,625	10,426	4,575	3,085	2,748	27,459	
	一日当たり入場者数	166	222	135	93	92	149	
	夜間(火~土曜日の17~19時)	192	896	127	182	82	1,479	

[常設展]

		第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	計	
開催期間		4/5～6/2	6/8～8/18	8/24～10/20	10/26～12/23	1/7～3/30		
開催日数		53	66	52	52	72	295	
有料	通常	一般	415	543	240	204	615	2,017
		大学生	17	28	31	12	63	151
	割引	一般	99	127	57	67	93	443
		大学生	2	7	10	2	2	23
	共通定期観覧券		192	100	197	120	149	758
小計		725	805	535	405	922	3,392	
無料	高校生	中学生	69	46	33	21	89	258
		小学生	41	248	100	52	60	501
		就学前	217	184	451	744	247	1,843
		就学前	114	85	28	14	24	265
	小計		441	563	612	831	420	2,867
免除	大学生ほか		106		50	10		166
	引率者		19	3	26	48	16	112
	長寿		575	335	289	274	322	1,795
	障がい者介添人		118	86	75	53	83	415
	小計		818	424	440	385	421	2,488
招待券等		1,346	1,818	2,115	830	1,127	7,236	
観覧者総数		3,330	3,610	3,702	2,451	2,890	15,983	
一日当たり入場者数		63	55	71	47	40	54	
夜間(火～土曜日の17～19時)		121	222	184	106	112	745	

[一般・企画展示室]

展覧会名	会期	日数	入場者数
第5回一榮書道展	5/23～5/25	3	661
発足30年あかつき会記念展	5/28～6/2	6	1,037
創元展	6/19～6/23	5	1,503
第40回高松市民美術展	12/3～12/8	6	1,436
第38回香川高等学校総合文化祭 書道展	12/12～12/15	4	615
第30回香川県高等学校総合文化祭 美術工芸展	12/12～12/15	4	492
平成25年度高松市教育文化祭展覧会	12/20～12/23	4	5,882
香川県小中学校総合文化祭	12/20～12/23	4	5,048
第55回記念墨華書道展	1/7～1/12	6	2,598
第45回青龍書展	1/16～1/19	4	1,600
第40回毎日書道学会展	1/24～1/26	3	1,107
毎日現代書巡回展	1/29～2/2	5	1,185
光宗道子遺墨展	2/13～2/16	4	717
日本墨彩画院展	2/26～3/2	5	758
合計	14展	63	24,639

[市民ギャラリー]

展覧会名	会期	日数	入場者数
デジタル一眼で写真を楽しもう 丸亀・屋島分室	4/2～4/7	6	743
デジタル一眼で写真を楽しもう 高松・屋島分室	4/9～4/14	6	714
景山 憲展	4/23～4/29	7	475
グループ尚作品展	5/1～5/6	6	498
凹版展	5/8～5/12	5	483
松本弘子 岩本敬子 二人展	5/14～5/19	6	482
第17回 双樹会	5/21～5/26	6	598
西岡慶子 日本画展	5/28～6/2	6	684
古高松南、国分寺南部切り絵同好会	6/20～6/23	4	442
第3回ひかり絵画研究会展	6/25～6/30	6	598
第39回チャールズ会高松展	7/2～7/7	6	673
二科会写真部 香川支部展 写真展	7/9～7/15	7	622
バン格拉デッシュ 絵画の精髓展	7/20～9/1	44	2,989
香川キルトクラブ作品展	9/10～9/16	7	781
油絵アコンズ	9/18～9/23	6	537
旅の思い出展	9/25～9/29	5	538
第25回美術教室DODO作品展	10/1～10/6	6	614
宮武喜代子・柳橋秀一二人展	10/7～10/14	8	553
新協香川第10回近作展	10/16～10/20	5	521
鎌野幸子の描く 曼荼羅	10/22～10/27	6	567
第17回Aアートクラブ油絵展	10/28～11/3	7	592
第19回サンエウスン作品展	11/6～11/10	5	802
第8回パッチワークキルト展	11/19～11/24	6	587
田所 小弥太展	11/26～12/1	6	263

展覧会名	会期	日数	入場者数
マイセラ西洋陶芸展	12/3 ~ 12/8	6	1,436
彩の会作品展	12/10 ~ 12/15	6	527
創元会 香川支部展	12/17 ~ 12/23	7	778
第35回香川県高等学校美術・工芸教員作品展	1/11 ~ 1/13	3	308
第2回T&T二人絵画展	1/15 ~ 1/19	5	453
写真道場なんのき村写真展	1/21 ~ 1/26	6	751
花梨の会 日本画展	1/28 ~ 2/2	6	584
第40回チャーチル会 高松展	2/11 ~ 2/16	4	654
第14回グループアイズ展	2/18 ~ 2/23	6	590
坂口由香さをり織個展	2/25 ~ 3/2	6	507
グループ Pearl展	3/4 ~ 3/9	6	485
第48回旅の思い出展	3/18 ~ 3/23	6	530
合計	36展	249	23,959

[講堂]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用人数	300	310	0	250	150	330	290	130	660	100	60	200	2,780
利用回数	4	3	0	4	1	5	3	2	6	1	2	3	34

[講座室]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用人数	745	740	863	920	795	1,030	997	930	733	795	725	780	10,053
利用回数	38	36	46	49	39	57	54	53	38	38	42	40	526

高松市塩江美術館

平成23(2011)年度

平成24(2012)年度

平成25(2013)年度

1. 展覧会

(1) 企画展

11展
開催日数 267日間
入場者数 5,871人

*印はコレクションを活用した展覧会



熊野俊一の花展*

会期 2011年4月2日(土)～4月24日(日)
入場者数 236人

塩江町出身の油彩画家・熊野俊一の花を描いた絵画を約30点展示。平成21年度塩江美術館新規収蔵作品「パンジー」も併せて初公開。



塩江アートプロジェクト

GABOMI PHOTO EXHIBITION “美しいってなんだ？”

会期 2011年4月29日(金)～6月5日(日)
入場者数 1,003人

高知県出身、香川在住の写真家GABOMI(ガボミ)の個展。GABOMIは、身近な香川の「人・モノ・出来事」をカメラに収めることで、その等身大の魅力を写真を通して伝えています。本展では、人がなにかを美しいと感じるその心の動きをテーマとし、「汚い」と分類されるものの中にある美しさを見せ、「美しい」についての定義を鑑賞者に問いかけました。



展示



PHOTO-MIX in 夜の美術館

[出品リスト]

No.	作品名	No.	作品名	No.	作品名
1	水とソラ(塩江)	27	青い星	53	GREEN TEA
2	風(丸亀港)	28	雲光(屋島)	54	道は分岐する。
3	白い柱(徳島)	29	ミズイロ(粟島中学校跡)	55	道具と時間
4	納屋	30	ライト細胞	56	ぐるぐる(商店街)
5	CUBE	31	灯火	57	ガラス(昼)
6	とんび	32	草原と船(丸亀港)	58	乾電池
7	FOREST(塩江)	33	テトラポット	59	雪と電線と外灯
8	月	34	木とソラ	60	UNTITLED
9	サンポート	35	サクラ	61	音色
10	ガラス(夜)	36	散歩(仏生山)	62	サビ
11	雪	37	青いサクラ	63	SCORPIONと宇宙塵
12	CRISTINA	38	ソラと山(塩江)	64	UNTITLED
13	黒猫	39	ハトと飛行機雲(高知)	65	イルミネーション
14	七夕	40	ソラと山2(塩江)	66	UNTITLED
15	しっぽ	41	DEEP BLUE(塩江)	67	UNTITLED(塩江)
16	UNTITLED	42	ライト細胞	68	宇宙と宇宙塵
17	ソラへ	43	ソラと木(塩江)	69	RED2
18	水と女	44	GREEN	70	RED3
19	納屋2	45	屋上	71	BLUE1(青信号)
20	アーケード上を歩く。	46	ドライブ(高知)	72	青と赤
21	ゴミ箱4兄弟	47	青い手	73	雪の日の外灯
22	丸いソラ(志度テアトロン)	48	カビ	74	アダムの子
23	目(志度テアトロン)	49	夕暮れ	75	RED 1 (赤信号)
24	キズ	50	パトライト		
25	四角い道	51	SUNSET		
26	MOON	52	UNTITLED		

[関連イベント]

学校訪問ワークショップ「みんなで出演!コマ撮りアニメーションをつくろう」☆
 GABOMIワークショップ「日常の美を見つける。」☆
 GABOMI「PHOTO-MIX in 夜の美術館」★
 ☆=教育普及の頁参照 ★=芸術的催し物の頁参照

[掲載記事]

- ・四国新聞5月5日「美の定義を問いかける 写真展『GABOMI PHOTO EXHIBITION』」
- ・高知新聞5月21日「写真家・GABOMI(高知市出身)高松市で個展」
- ・香川こまち5月号
- ・香川こまち6月号



国際子ども秀作絵画展

会期 2011年6月9日(木)～6月26日(日)

入場者数 194人

文部科学省が平成22年度に後援した全国規模のコンクールの中から各団体の協力のもと、全国を巡回し、約130点展示。

[関連イベント]

高橋あづさワークショップ「あおぞらおえかき～お父さんに休日Tシャツをつくろう～」☆教育普及の頁参照



ヘンないきものみ展

会期 2011年7月2日(土)～8月14日(日)

入場者数 1,089人

平成22年度に開催した3人の女性作家による「ヘンないきもの」展に続く。独創的ないきものたちを制作する3人の男性作家、四宮龍、柳生忠平、アダム・ウェストンによる展覧会。妖怪の絵を描く絵描鬼(えかき)柳生忠平、フジツボを体にまとった生物「SEAMAN」を制作する四宮龍、日本の河童に魅力を感じて制作するアダム・ウェストン。それぞれの作家の探求するいきものの技法や色やかたちを紹介しました。



四宮龍展示



柳生忠平展示



アダム・ウェストン展示

[出品リスト]

No. 作家名/作品名/制作年/材質

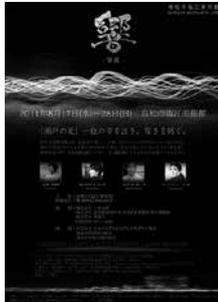
- | | |
|---|--|
| 1. 四宮龍/Seaman No.1 / 2003 / ミクストメディア | 18. 柳生忠平/おとあわせ / 2011 / 岩絵具、水干絵具、墨、他 |
| 2. 四宮龍/Seaman No.5(むすめさん) / 2004 / ミクストメディア | 19. アダム・ウェストン/ Midnight Kappa1 / 2004 / アクリル、木 |
| 3. 四宮龍/Seaman No.7 / 2004 / ミクストメディア | 20. アダム・ウェストン/ Midnight Kappa1 / 2004 / アクリル、木 |
| 4. 四宮龍/Seaman No.8(むすめさん) / 2006 / ミクストメディア | 21. アダム・ウェストン/ Blue Moon Kappa / 2004 / アクリル、木 |
| 5. 四宮龍/Seaman No.9(赤メバルと空缶) / 2008 / ミクストメディア | 22. アダム・ウェストン/ Kappa Emerging / 2004 / アクリル、木 |
| 6. 四宮龍/Seaman No.12(女) / 2010 / ミクストメディア | 23. アダム・ウェストン/ Kappa at Dawn / 2004 / ミクストメディア |
| 7. 四宮龍/Seaman No.13(少年) / 2010 / ミクストメディア | 24. アダム・ウェストン/ Neuron / 2011 / アクリル、木 |
| 8. 四宮龍/Seaman No.14 / 2010 / ミクストメディア | 25. アダム・ウェストン/ Alpha,Beta,Kappa / 2011 / ミクストメディア |
| 9. 四宮龍/Seaman No.8(微笑む) / 2010 / アクリル | 26. アダム・ウェストン/ カップの子 / 2011 / ミクストメディア |
| 10. 四宮龍/Seaman No.15 / 2010 / アクリル | 27. アダム・ウェストン/ 88Temples / 2004 / ペン画 |
| 11. 柳生忠平/舞鬼 1 / 2010 / 岩絵具、水干絵具、墨、他 | 28. アダム・ウェストン/ No Fishing / 2004 / ペン画 |
| 12. 柳生忠平/舞鬼 2 / 2010 / 岩絵具、水干絵具、墨、他 | 29. アダム・ウェストン/ Fishing / 2004 / ペン画 |
| 13. 柳生忠平/境目 / 2010 / 岩絵具、水干絵具、墨、他 | 30. アダム・ウェストン/ Four Kappa / 2004 / ペン画 |
| 14. 柳生忠平/女の乱 / 2010 / 岩絵具、水干絵具、墨、他 | 31. アダム・ウェストン/ 3.11(kappa's Tears) / 2011 / アクリル、木 |
| 15. 柳生忠平/人面製造装置 / 2011 / 岩絵具、水干絵具、墨、他 | 32. アダム・ウェストン/ Hydrogen(Water Forming) / 2011 / アクリル、木 |
| 16. 柳生忠平/魍魎 / 2011 / 岩絵具、水干絵具、墨、他 | 33. アダム・ウェストン/ かつばの川流れ / 2011 / ミクストメディア |
| 17. 柳生忠平/変面 02 / 2011 / 岩絵具、水干絵具、墨、他 | |

[関連イベント]

ワークショップ
 アダム・ウェストン「石膏でヘンないきものをつくろう」☆
 四宮龍「壁かけをつくろう」☆
 美術館の日「モノノケシアター」☆
 ☆=教育普及の頁参照

[掲載記事]

・高知新聞7月28日「四国・中国文化ガイド ヘンないきもの」
 ・ナスタウン8月号



響：HIBIKI展

会期 2011年8月17日(水)～8月28日(日)

入場者数 372人

瀬戸内をはじめとする日本特有の伝統文化、技術を用いたアートとデザインの展覧会。未来創造への波紋となることを目的として集まった井上靖久(デザイナー)、藤井康彰(日本画家)、岸上奈生(現代人形作家)、鍛冶川竹大(立体造形作家)。異なるジャンルならではの作風を紹介しました。



展示



紡TUMUGI：Heart Full Concert

[関連イベント]

コンサート「紡 TSUMUGI：Heart Full Concert」★芸術的催物の頁参照

[掲載記事]

・四国新聞8月3日



**塩江美術館コレクションより
 藤澤東暎、藤澤南岳の書跡展 I***

会期 2011年8月30日(火)～9月25日(日)

入場者数 460人

所蔵品より、塩江町出身の儒学者藤澤東暎と藤澤南岳の書を中心に、第I部、第II部にわけて約60点の書作品を展示。併せて、藤澤東暎の関連書籍やその子孫藤澤黄坡や藤澤桓夫の書も公開しました。

**塩江美術館コレクションより
 藤澤東暎、藤澤南岳の書跡展 II***

会期 2011年9月29日(木)～10月10日(月)

入場者数 129人

同タイトルの上記展覧会の第II部。約30点の書作品を展示。

[掲載記事]

・四国新聞9月8日「藩きつての儒家人となり筆跡に」



ゆらゆらとモヤモヤ展

会期 2011年10月15日(土)～12月4日(日)

入場者数 1,405人

大阪在住のH@L(画家・絵本作家)と香川在住のイワサトミキ(画家)による二人展。H@Lは幼少の頃の心象風景を思い出させるかのようなやわらかな色彩の風景や動物、人物を描きます。イワサトミキはアイデンティティを模索する女の子の姿をシニカルに描きます。その二人の作家が自分自身の絵画に対して名づけた擬態語「ゆらゆら」と「モヤモヤ」をテーマに、二人の絵画作品を紹介しました。



イワサトミキ展示



H@L展示



tonari session's ライブ

[主な出品リスト]

No.	作家名	作品名		
1	H@L	日曜日の昼下がりに	3	イワサトミキ ネコムスメ
2	H@L	上空1000フィートの快音	4	イワサトミキ うごけない

[関連イベント]

ワークショップ

H@L「おえかき花壇」☆

イワサトミキ「カワラの家の家主になろう。」☆

香西知佳、渋谷陽菜、kin「ちょっと遊んでいきませんか?」☆

香西知佳、渋谷陽菜、kin「コンテンポラリーダンス tanemaki」★

トナリセッションズ「tonari session's LIVE」★

☆=教育普及の頁参照 ★=芸術的催物の頁参照



塩江アートプロジェクト
高松明日香展 イメージの擬態

会期 2011年12月17日(土)～2012年2月5日(日)

入場者数 531人

高松市出身、在住の美術家高松明日香の個展。彼女は自ら撮影した写真やインターネットから拾い集めた画像、映画の一場面などのイメージから画面を構成して絵画の主題として描きます。現代を生きる画家として、モチーフの実在性や架空性、その形態の差異を追求する高松の描く絵画は、次元の中に漂う空気や時間の流れまでも表現し、見る者を画面に引き込む魅力を備えています。今展覧会では、自身の重要な制作テーマである「イメージの擬態」を追求するために、彼女が取り組んでいるモチーフのひとつである「鹿」を描いた絵画作品を中心に展示しました。



展示



学校訪問ワークショップ

[関連イベント]

ワークショップ

学校訪問ワークショップ「テクスチャーを使って風景を表現しよう」☆

高松明日香「写真を元に絵画を制作しよう～思い出を新たな記憶に～」☆

☆=教育普及の頁参照

No. 作品名/制作年/規格(縦×横cm)/材質

1. メロディアスな雰囲気 / 2011 / 162×130.3 / アクリル絵具・キャンバス	8. さざ波 / 2011 / 60.6×45.5 / アクリル絵具・キャンバス
2. 火の玉 / 2011 / 72.7×91 / アクリル絵具・キャンバス	9. 花柄の花 / 2011 / 72.7×91 / アクリル絵具・キャンバス
3. 洗礼者ヨハネ・シュミレーション / 2011 / 65.2×53 / アクリル絵具・キャンバス	10. 星 / 2011 / 45.5×65.1 / アクリル絵具・キャンバス
4. Mt. / 2011 / 19×24 / アクリルガッシュ・キャンバス	11. 肖像 / 2011 / 27.3×22 / アクリル絵具・キャンバス
5. 脈(室内) / 2011 / 60.6×91 / アクリルガッシュ・キャンバス	12. ジャンプして SAYONARA / 2011 / 97×145.5 / アクリル絵具・キャンバス
6. 封印 / 2011 / 80.3×80.3 / アクリル絵具・キャンバス	13. 擬態 / 2011 / 100×100 / アクリル絵具・キャンバス
7. 無酸素空間 / 2011 / 60.6×91 / アクリル絵具・キャンバス	14. 朝焼け / 2011 / 116.7×91 / アクリル絵具・キャンバス

[掲載記事]

- ・読売新聞1月25日『『花』『鹿』『山』非日常の不思議』
- ・四国新聞12月29日「シカや花 見慣れたものを擬態化」
- ・香川こまち1月号

- ・ナイスタウン2月号
- ・タウン情報かがわ1月号



池田利夫 版画展 おもちゃと花 *

会期 2012年2月10日(金)～2月26日(日)

入場者数 264人

高松市出身、在住の池田利夫の「古里のおもちゃ」「高松張子版画集」など身近な郷土玩具や花をモチーフとした版画作品を約60点展示。版画のモチーフとなった郷土玩具(高松市歴史資料館所蔵)12点も展示。



コレクションの愉しみ展

会期 2012年3月8日(木)～3月25日(日)

入場者数 188人

美術館で作品を鑑賞するだけでなく、作品を所有する愉しみを紹介するため、サラリーマンコレクターに作品を借用し、約30点展示。



展示

[出品リスト]

No. 作家名/作品名/制作年/材質

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 伊部年彦/ #C07-05 / 2006 / 油彩・キャンバス 2. 川田英二/ Theoria 12-01,03,06,07,09 / 2003 / エッチング、コログラフ・紙 3. 神谷徹/ dunkeld / 2004 / 油彩・キャンバス 4. 今道子/ タコ+メロン / 1989 / ゼラチンシルバークラウドプリント 5. 高崎元尚/ 装置 / 2004 / FRP・板 6. 高崎元尚/ 装置 / 2006 / FRP・板 7. 中ザワヒデキ/ 方法舞踊第一番 / 2000-2001 / ジェットインクプリント・紙 8. 中原昌也/ 無題(『名もなき孤児たちの墓』カバー画) / 2006 / アクリル、鉛筆、トイレットペーパー・紙 9. 中野渡尉隆/ 洞窟としての耳のために-No.87 / 2002 / Cプリント 10. 長谷川ちか子/ GIFT-Dendrobates azureus / 2001 / プレキシガラス、Cプリント 11. 藤本由紀夫/ DISK (The Velvet Underground & Nico) / 1994 / インク、型押し・紙 12. ふるかはひでたか/ Isolde-b., -h. / 2006 / シルクスクリーン・キャンバス 13. 島村敏明/ dawn / 2007 / 油彩・キャンバス 14. 北城貴子/ Ripple 01 / 2006 / 油彩・キャンバス 15. 館勝生/ Untitled-2004 / 油彩、ペン・キャンバス 16. 前田朋子/ 彼女のピンヒール #3 / 2008 / 油彩・パネル | <ol style="list-style-type: none"> 17. 小野耕石/ 秘録T-五 / 2010 / シルクスクリーン 18. 松居邦明/ reflections 北へII / 2009 / 顔料印刷・鳥の子紙 19. 川島慶樹/ 女鳥〜 Tape Series / 2004 / 油彩・キャンバス 20. 山部泰司/ GOLD PAINTING No.013 / 2006 / 油彩・キャンバス 21. 松岡徹/ 空飛溜息男 / 2010 / 顔料、水彩・紙 22. 吉村敏治/ 内緒にしたいこと / 2004 / 陶 23. 西山美なこ/ Untitled / 2007 / 石膏、アクリル絵具、フレーム 24. 小郷千裕/ Fixed Stars -lily-02 / 2011 / 水干絵具、岩絵具・絹 25. 太田三郎/ Beach Sands 14 November 2006 Hakuto-Beach Tottori Japan / 2006 / コピーワーク 26. 青木陸祐/ LIFE05-1 / 2005 / シルクスクリーン・紙 27. まつながえみ/ Untitled / 2007 / アクリル・キャンバス 28. 冬耳/ Period / 2010 / アクリル・キャンバス |
|---|---|

[関連イベント]

「トーク&シネマ」★=芸術的催物の頁参照

[掲載記事]

- ・四国新聞3月1日「現代アート支えるコレクター」

(2) 常設展

3期
開催日数：296日間
入場者数：6,238人
美術館の所蔵品のうち、テーマを設定して年間3回の入れ替えで展示。

第1期常設展

池田利夫の植物図鑑展

会期 2011年4月20日(水)～8月28日(日)
入場者数 2,681人
1928年高松市出身、在住の池田利夫の版画作品を収蔵品より展示。植物をモチーフとしたやさしい色や緻密な線による作品44点。
[掲載記事]
・四国新聞6月23日「小さな命に温かいまなざし」

第2期常設展

山山(やまやま)

会期 2011年8月31日(水)～2012年1月15日(日)
入場者数 2,286人
香川に縁のある作家たちの描いた山のある風景を展示。熊野俊一の描くマッターホルン、伊東義久の日本各地の山のスケッチなど、油絵、水彩、版画を含む9作家29点を展示。

第3期常設展

コンポジション／構成

会期 2012年1月18日(水)～4月15日(日)
入場者数 1,271人
所蔵品の中から、作品の部分、全体、色、かたちが響き合う「コンポジション」をテーマとした作品を紹介。猪熊弦一郎、江戸健、川島猛、山下晴義ほか9作家による油絵、版画、アクリル画、工芸作品など32点を展示。
[掲載記事]
・四国新聞2月2日「構成に見る『個』の表現」

2. 教育普及

平成23年度は、陶芸教室、風鈴作り教室に加えて、ワークショップ11講座を開講し、一般来館者等を対象とした「絵付け体験コーナー」は、5月中旬まで随時受け付けた。

[ワークショップ]

学校訪問ワークショップ みんなで出演！ コマ撮リアニメーションをつくろう

(塩江アートプロジェクト GABOMI PHOTO EXHIBITION
“美しいってなんだ？” 関連)
塩江小学校の3、4年生を対象とし、児童がさまざまなポーズで静止した写真を利用し、コマ撮リアニメを作成する。
5月11日(水)
講師：GABOMI(写真家)
場所：高松市立塩江小学校
参加人数：高松市立塩江小学校3、4年生 16人



日常の美を見つける。

(塩江アートプロジェクト GABOMI PHOTO EXHIBITION
“美しいってなんだ？” 関連)
身近な場所にある“美”を再発見するための写真撮影のワークショップ。
6月5日(日)13:00～15:30
講師：GABOMI(写真家)
参加人数：13人

あおぞらおえかき ～お父さんに休日Tシャツをつくろう☆～

(国際子ども秀作絵画展関連)
子どもたちから、働くお父さんのために休日Tシャツをつくってプレゼントする。
6月19日(日)
講師：高橋あづさ(美術家)
参加人数：30人



石膏でヘンないきものをつくろう

(ヘンないきもの展関連)
粘土で形をつくり、石膏を流してヘンないきものを作る。
7月31日(日)13:00～15:00
講師：アダム・ウェストン(美術家)
参加人数：16人



壁かけをつくろう

(ヘンないきもの展関連)
布、流木、色砂でヘンないきものの壁かけをつくる。
8月7日(日)13:00～15:00
講師：四宮龍(美術家)
参加人数:13人



おえかき花壇

(ゆらゆらとモヤモヤ展関連)
東日本大震災被災地へのメッセージを込め、レンガに絵を描き、花壇をつくる。
10月15日(土)13:00～16:00
講師：H@L(画家・絵本作家)
参加人数：9人



カワラの家の家主になろう

(ゆらゆらとモヤモヤ展関連)
日本瓦と同じ素材でできた家のオブジェを制作する。
11月13日(日)13:00～15:00
講師：イワサトミキ(画家)
参加人数：9人



ちょっと遊んでいきませんか？

(ゆらゆらとモヤモヤ展関連)
コンテンポラリーダンス tanemaki 公演に出演する3組のダンサーによる、日常的な動作を用いて身体を動かす楽しさを知る無料ワークショップ。
11月19日(土)19:00～20:00
講師：香西知佳、渋谷陽菜、kin(金崎洋一・金崎明子)
参加人数：9人



塩江アートプロジェクト学校訪問ワークショップ テクスチャーを使って風景を表現しよう

(塩江アートプロジェクト
高松明日香展 イメージの擬態関連)
自分で色をぬった色紙を使って、上西小学校の1、2年生が自分の家のちぎり絵を制作。
12月7日(水)9:30～11:20
講師：高松明日香(美術家)
参加人数：高松市立上西小学校1、2年生2人

塩江アートプロジェクト学校訪問ワークショップ テクスチャーを使って風景を表現しよう

(塩江アートプロジェクト
高松明日香展 イメージの擬態関連)
自分で色をぬった色紙を使って、上西小学校の3～6年生が上西小学校から見える塩江の風景のちぎり絵を制作。
12月7日(水)13:50～15:25
講師：高松明日香(美術家)
参加人数：高松市立上西小学校3～6年生7人



写真を元に絵画を制作しよう ～思い出をあらたな記憶に～

(塩江アートプロジェクト
高松明日香展 イメージの擬態関連)
思い出のある写真を参加者が持ち寄り、それを元に絵を描く。
1月15日(日)13:00～16:00
講師：高松明日香(美術家)
参加人数：10人



- [絵付け体験] 湯のみ・皿・コーヒーカップに釉薬で絵付けを体験し、焼成して後日受け渡し。
5月中旬まで実施。
担当：美術館スタッフ
参加人数：16人
- [風鈴作り教室] オリジナルの風鈴を陶土で制作し、焼成して後日受け渡し。
7月17日(日)10:00～12:00、14:00～16:00
講師：貴志 勉(陶芸家)
場所：陶芸館
対象：小学生以上～一般
参加人数：29人
- [陶芸教室] 全6回の授業で基礎コースと経験者コースに分かれて陶芸作品を制作する。基礎コースでは基本的な陶芸作品を制作体験し、経験者コースでは講師の指導を受けながら、自分の作りたい作品を制作。
10月8日(土)、15日(土)、22日(土)、29日(土)、11月19日(土)、26日(土)
10:00～12:30
講師：田淵太郎(陶芸家)
場所：陶芸館
参加人数：延べ69人
- [美術館の日] 高松市美術館とともに、8月第1土曜日を「美術館の日」と定め、展覧会(企画展：へんないきものみ、常設展：池田利夫の植物図鑑)の観覧料を無料にしたほか、企画展関連イベントとして「モノノケシアター」出演：柳生忠平(絵)、村井知之(音)、三木総司(語り)を開催した。
8月6日(土)
参加人数：入場者数100人、モノノケシアター47人

3. 芸術的催物

[主催事業]

コンサートなど他分野におけるアートイベントをホールにて開催。

PHOTO-MIX in 夜の美術館

塩江アートプロジェクト GABOMI PHOTO EXHIBITION に関連した体験型のイベント。

6月4日(土)19:00～21:00

出演：GABOMI(写真)、イノクマシンジ(映像)、aslan+(音楽)

参加人数：107人

紡 TUMUGI : Heart Full Concert

響展に関連し、カワイ音楽教室の講師を務める4人によるミニコンサートを開催。

8月21日(日)11:00～12:00、14:00～15:00、16:00～17:00

出演：中西千恵美(ボーカル)、大矢祐歌(ヴァイオリン)、浅原久美子(フルート)、田岡真千子(ピアノ)

参加人数：70人

コンテンポラリーダンス tanemaki

3組のダンサーによるコンテンポラリーダンスの多様性と楽しさを伝える公演。

11月19日(土)14:00～15:00、18:00～19:00

出演：香西知佳、渋谷陽菜、kin(金崎洋一・金崎明子)

参加人数：74人

tonari session' s

香川県西部を中心に、県内外で音楽活動を行うトナリセッションズのライブを開催。ミヤタケ、ゴゴ、ナナ、そして企画展「ゆらゆらとモヤモヤ」に参加するイワサトの4名で活動。

12月4日(日)14:00～15:00

出演：トナリセッションズ

参加人数：83人

トーク&シネマ

企画展「コレクションの愉しみ」の関連イベントとして、アメリカ全土の美術館に4,000点余りのコレクションを寄贈した夫婦のドキュメンタリー『ハーブ&ドロシー』の上映と、収集作品を高松市美術館に寄贈された福西哲唯氏を招いて作品収集の魅力についてトークを実施。

3月24日(土)18:00～20:00

参加人数：15人

4. 貸館

文化的事業へ貸し出しを実施。

[テラス]

第15回 八兵衛茶会

讃岐の河川事業に貢献した西嶋八兵衛を顕彰するため、お茶席や催事を設けて秋の名月の時候に文化の交流を深める。

9月10日(土)

主催：西嶋八兵衛顕彰会

参加人数：218人

[企画展示室]

戸田由美子写真展「彼女の肖像」

戸田由美子氏撮影による、主に香川県で仕事に従事している女性だけの白黒肖像写真を約15点展示。

12月5日(月)～12月11日(日)

参加人数：181人

[ホール]

美撮りワークショップ

展覧会に関連し、戸田由美子氏による、美しく撮られるためのメイクアップテクニックと美しく撮るためのカメラワークテクニックのワークショップを実施。各自カメラを持参してモデルを使つての撮影アドバイスを行う。

12月10日(土)

参加人数：15人

[企画展示室]

平成23年度香川大学大学院教育学研究科修了制作展

香川大学大学院教育学研究科修了生による写真作品と陶芸作品(急須)の展示。

3月1日(木)～3月4日(日)

参加人数：83人

1. 展覧会

(1) 企画展

8展
開催日数 268日間
入場者数 6,446人

*印はコレクションを活用した展覧会



塩江アートプロジェクト 長野由美展 たまご響会

会期 2012年3月31日(土)～5月13日(日)
入場者数 954人

長野由美は香川県出身で、香川を拠点に活動を行っています。2010年の瀬戸内国際芸術祭では、男木島住民の荷物運搬の道具を改造する「オンバファクトリー」の一員としても活動しています。卵という生命の源に惹かれるという長野は、10年近くに渡り「たまご」をモチーフにした作品を制作しています。本展では、1000個以上の卵の殻を使用し、作品《卵霊 tamadama》を中心に、鑑賞者の一人一人が自分の秘密を書いた紙をシュレッダーで細かくする参加型の作品などを展示しました。会期中には、作品を舞台に「生と死」「始まりと終わり」をテーマとしたダンスコラボレーションや、安原小学校への学校訪問ワークショップも開催し、会場にはワークショップで児童たちが制作した花のスタンドグラスも展示しました。



展示



花のスタンドグラス展示



ダンスコラボレーション

[関連イベント]

学校訪問ワークショップ「花のスタンドグラスをつくろう」☆
ダンスコラボレーション★

☆＝教育普及の頁参照 ★＝芸術的催物の頁参照

[出品リスト]

No. 作品名／制作年

- | | |
|--|--|
| 1.卵霊 tamadama / 2012 | 6.卵霊 tamadama / 2012 |
| 2.Close? or Open? / 2009 | 7.響 Kyo / 2012 |
| 3.花のスタンドグラス / 2012
[安原小学校3～6年生(当時)の児童たちが、長野と制作した作品] | 8.卵霊 tamadama / 2012 |
| 4.Sit back please!! / 2012 | 9.花のスタンドグラス / 2012
[安原小学校3～6年生(当時)の児童たちが、長野と制作した作品] |
| 5.Humpty Dumpty / 2012 | 10.I'm a SHREDDER??? / 2012 |

[掲載記事]

- ・リビングたかまつ3月17日
- ・読売さぬきネット4月20日
- ・四国新聞オアシス3月23日
- ・四国新聞4月22日「殻1,000個、時にユーモラス、時に美しく」



小林正六展 遠い日 *

会期 2012年5月19日(土)～6月17日(日)
入場者数 553人

高松市で教員として勤めながら、数多くの絵画を制作した画家・小林正六。小林の描く油彩画には子供たちや牛、鳥といった牧歌的なモチーフが多く登場します。その画面は厚く塗り重ねられ、時には画面に塗られた絵の具を削り取りながら制作されました。塩江美術館収蔵の油彩画を中心に、遺族からお借りした作品をあわせた29点を紹介しました。また同時開催の常設展第1期(4/27～8/26)「人のいる景色」でも、小林正六の作品3点を展示しました。

[出品リスト]

No. 作品名/制作年/材質

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| 1. 自画像/不詳/水彩、紙 | 16. 立ちのぼる花びら/1978/油彩、キャンバス |
| 2. 花を持つ少女/不詳/油彩、キャンバス | 17. 岸辺/1982/油彩、キャンバス |
| 3. 遠い日/1991/油彩、キャンバス | 18. 春の詩(うた)/1988/油彩、キャンバス |
| 4. コーラス/1993/油彩、キャンバス | 19. 放鳥/1996/油彩、キャンバス |
| 5. ギタリスト/1994/油彩、キャンバス | 20. 牛のいる風景/1998/油彩、キャンバス |
| 6. 追想/1995/油彩、キャンバス | 21. 集合/2002/油彩、キャンバス |
| 7. 語らい/不詳/油彩、キャンバス | 22. 鳥と遊ぶ/2002/油彩、キャンバス |
| 8. 森の食卓/1986/油彩、キャンバス | 23. 『無題』/不詳/油彩、キャンバス |
| 9. 息子の肖像/不詳/油彩、キャンバス | 24. こどもたち/不詳/油彩、キャンバス |
| 10. 娘の肖像/不詳/油彩、キャンバス | 25. 丘の上/1997/油彩、キャンバス |
| 11. 『無題』/不詳/油彩、キャンバス | 26. 港内/1973/油彩、キャンバス |
| 12. 遊動円木/1979/油彩、キャンバス | 27. 山麓/不詳/油彩、キャンバス |
| 13. 田園/1992/油彩、キャンバス | 28. 室内/1958/油彩、キャンバス |
| 14. 湖畔/1992/油彩、キャンバス | 29. ヨットのいる風景/1957/油彩、キャンバス |
| 15. 牛のいる風景II/不詳/油彩、キャンバス | |

[掲載記事]

- ・ 四国新聞5月31日「命を慈しむまなざしあたたかく」
- ・ ナイスタウン6月号
- ・ 香川こまち6月号
- ・ リビングたかまつ5月19日号



国際子ども秀作絵画展

会期 2012年7月5日(木)～7月22日(日)

入場者数 393人

文部科学省が後援した全国規模のコンクールの中から、8団体の協力のもと、167点を展示。平成24年度は、新たに地球環境世界児童画コンテスト事務局が加わる。網走市立美術館、MOA美術館へ巡回。

[掲載記事]

- ・ 香川こまち7月号
- ・ リビングたかまつ7月7日号



藤原慎治展 漂着点へ

会期 2012年8月4日(土)～9月17日(月・祝)

入場者数 1,424人

香川県小豆島出身の美術家・藤原慎治は、生命の終着と再生にかたちを与えようとするアーティストです。1980年代にはニューペインティングの流れの中で平面作品を制作しました。その後の作品表現は立体へと形を変えていきますが、一貫して、「自分の大きさ」という彼自身のスケールが組み込まれています。

近年には、植物の種や動物の骨などを素材とした立体作品やインスタレーションを展開しています。自分自身が入ることのできる大きさ、自分を包む形に惹かれるという彼の作品は、その中に確かな「人」の存在を問いかけます。本展では、漂着物や種子などの自然から拾い上げたものを素材とした作品、近作の人体をかたどった作品などを展示し、何年も積み重ねてきたその表現を紹介しました。



展示



美術館の日ワークショップ

[出品リスト]

No. 作品名 / 制作年 / 材質

- | | |
|---|--|
| 1. 背あわせで呼ぶ / 2012 / 合成樹脂、紙、他 | 11. 海の時間 人の時間 / 2012 / 漂流物、骸骨模型、他 |
| 2. 腕を広げ頭でつながる / 2012 / 合成樹脂、紙、他 | 12. 木の山脈 天の針 (高知琴ヶ浜) / 2005 / 漂流木、有刺鉄線 |
| 3. 両腕を広げる / 2010 / 合成樹脂、他 | 13. 生れてくるための舟 / 1998 / 合成樹脂、他 |
| 4. 水面でひざをかかえる / 2009 / 合成樹脂、他 | 14. 無題 / 1991 / アルミ、ゴム、他 |
| 5. 胸から手へ / 2011 / 合成樹脂、砂、他 | 15. 旅立つ舟 (ケレベラ 沖繩山原奥) / 2002 / ケレベラ、木、他 |
| 6. 水面に口をつける / 2008 / 合成樹脂、他 | 16. 千顔千願 / 2004 / 菱の実、木、他 |
| 7. 身をかかめる / 2011 / 合成樹脂、他 | 17. 再生を待つために (高知西浦高松小原) / 2005 / 漂着したアカウミガメの頭、漂着した発砲スチロール、有刺鉄線、他 |
| 8. 手をついてうづくまる / 2010 / 合成樹脂、他 | 18. 浜で送る (高知西浦) / 2006 / 漂着したアカウミガメの頭、紙、ろう、他 |
| 9. 手をさしのべる無限に / 2012 / 合成樹脂、紙、他 | 19. オニグルミを植える / 2003 ~ / クルミ、木、他 |
| 10. 左：いつも見ている私は、私ではない
右：本当の私は見えない / 2012 / 鏡 | |

[関連イベント]

藤原慎治ワークショップ「石を使っていきものづくり」☆
美術館の日ワークショップ「風に乗る種をつくろう」☆
☆=教育普及の頁参照

[掲載記事]

- ・四国新聞8月9日「感情揺さぶる造形表現」
- ・ナイスタウン8月号
- ・ナイスタウン9月号
- ・香川こまち9月号



いにしえのわが故郷展 *

会期 2012年9月22日(土) ~ 10月21日(日)

入場者数 460人

所蔵作品の中から、香川・四国を描いた木版画作品を47点展示。歌川広重《六十余州名所図会『讃岐象頭山遠望』》や川瀬巴水『高松栗林公園』など、150年の時間を通して描かれた名所・名物・風景作品を展示。

[関連イベント]

今井まいこワークショップ「けしゴムはんこの蔵書票」☆=教育普及の頁参照

[掲載記事]

- ・四国新聞オアシス9月21日
- ・ナイスタウン10月号
- ・香川こまち10月号



所幸則展 One Second 2008-2012

会期 2012年10月26日(金) ~ 12月9日(日)

入場者数 1,139人

所幸則は、高松市出身で東京を拠点に国内外で活躍する写真家です。所は、デジタルやアナログの手法を凝らした、時代の先端をいく商業フォトを数多く撮影してきました。2007年より活動拠点とする渋谷の街を白黒で撮影することで、自らの原点への回帰を模索し、その写真スタイルを大きく変換させました。2008年より確立した、1秒で被写体を捉える技法によって撮影する「One Second」シリーズの制作を開始しました。本展では、2012年の所幸則の故郷への移住を機に、2008年から2012年までの「One Second」シリーズの作品33点を展示しました。長く拠点とした渋谷を中心に、パリ、ニューヨーク、上海、高松などの都市を題材とした風景写真のほか、女性の身体をモチーフにした作品「ほんとうにあったように思えてしまう事」や、コシノヒロコとのコラボレーションによる作品などを紹介しました。



展示



アーティスト・トーク

[関連イベント]

所幸則ワークショップ「1秒で被写体になろう」☆=教育普及の頁参照
所幸則アーティスト・トーク

[出品リスト]

No. 作品名 / 制作年	
1. 渋谷西武の前、井の頭通りを渡る男 / 2008	18. 東横線のホームにて / 2011
2.1 second in 1 second / 2010	19. 元大盛堂書店跡地 / 2008
3. 渋谷マークシティ道玄坂上方面出口 / 2009	20. Bastille メトロ / 2009
4.1 second in 1 second / 2010	21. NY 44st.01 / 2009
5. シネマライズとパルコパート3 / 2008	22. 上海電波塔 / 2009
6. シティバンク前を去って行く現金輸送車と男 / 2008	23. モントリオール オールドエリア 01 / 2011
7. スクランブル交差点と閉店した渋谷パルコパート2 / 2009	24. ハノーファー トラム / 2010
8. 渋谷東口バスターミナルを駆ける少女 / 2008	25. 重慶 数年前にできた街と荷を背負う男 / 2011
9. スクランブル交差点 & Q-FRONT をハチ公広場から / 2008	26. 広島基町高層アパート群 / 2011
10. 東急東横に入っていく銀座線 / 2008	27. 高松三越 光と影の王国 / 2012
11. 東急文化会館跡地に吸い込まれる銀座線と工事現場の男 / 2008	28. ワイキキビーチに向う少女 / 2010
12. JTB から桜坂へ繋がる横断歩道 / 2008	29. One Second existence proof of Mika 01 / 2011
13. 渋谷駅から出発する銀座線 / 2009	30. Looking at this picture I come to the smell of spring 01 / 2009
14. 渋谷から原宿に向かう途中の脇道 / 2008	31. One Second KOSHINO HIROKO / 2008
15. 2008年夏の渋谷歩道橋を歩きかう人々 / 2008	32. One Second KOSHINO HIROKO / 2009
16. 井の頭通りのZARA / 2009	33. One Second KOSHINO HIROKO / 2009
17. 渋谷バスの定期券売り場 / 2009	

[掲載記事]

- ・四国新聞11月4日「1秒が捉えた都市」
- ・リビングたかまつ12月1日
- ・ナイスタウン11月号
- ・香川こまち11月号



**風の伝言プロジェクト I
四国子どもとおとなの医療センターのこころみ展**

会期 2012年12月14日(金)～2013年2月3日(日)
入場者数 597人

平成25年5月に普通寺市に開院した「四国子どもとおとなの医療センター」。この医療センターでは、ホスピタルアートを積極的に医療の現場に取り入れています。院内にアートを取り入れるための試みの一つとして、「祈り」「寄り添い」「待つ」をテーマに、全国127人の作家によって描かれた300点の絵画を収集しています。それらの絵画は、作家各々が自分の家族が病気になったときに病室に飾る絵を想定して描いたものです。本展では、その300点のうち87点を展示し、ホスピタルアートの紹介を行いました。来場者には、紙に感想を書いて好きな絵の横に貼っていただきました。

特別協力：独立行政法人 国立病院機構 四国子どもとおとなの医療センター



展示



塩江美術館ウィンターコンサート

[関連イベント]

風の伝言プロジェクト I オープニングイベント 塩江美術館ウィンターコンサート

★＝芸術的催物の頁参照

[出品リスト]

No. 作品名 / 作家名	
1. 誕生 / ふくざきりさ	16. 今日は何にをしようかなあ? / Ikecoo
2. 無題 / 石黒ゆかり	17. らくがき / 西菌静
3. 力 / 長崎リサ	18. ホットケーキパーティ / 池田愛理
4. 雲 / R	19. うすらい / オビカカズミ
5. 水の中の世界	20. 森のコーヒー / 武内ヒロクニ
6. ポコポコ / 原瀬優子	21. 無題 / 岸晃一郎
7. おつきみ / 小暮美帆	22. 無題 / yuuco
8. 水族館のきらきら / 湊良太	23. 無題 / きんばらきみずき
9. そのさきを眺める / 松森洋介	24. 20111201 / 尾柳佳枝
10. 星 / 川嶋守彦	25. おはなし / 濁川友里恵
11. ブレッド湖 その周辺 2 / 高松明日香	26. すぐそばに / 小川万莉子
12. フクロウ / ミロコマチコ	27. つつみ / 梅田優子
13. かくれんぼするものよっといで～このゆびとまれ～ / 坪谷令子	28. 溜まる / 鈴木香奈子
14. 原っぱ / 和田香世	29. 夕暮れ / 嶋春香
15. にこにこワールド / 岡本美紅	30. はなをくばるとり / 浜崎恵利

[出品リスト]

No.	作品名/作家名
31.	共有/片山みやび
32.	手をふる/木島千加子
33.	薔薇/赤木範陸
34.	ひな 11010078 /山本理美
35.	サンダーソニア/加々見真衣
36.	いちばん星/清水マコ
37.	空とぶバタ/柴田大介
383	涼/富樫奈月
39.	息吹き/倉岡杏名
40.	無題/早淵太亮
41.	タイムカプセル/寺田真理子
42.	サンカクノカゼ/沼野礼香
43.	無題/川田英二
44.	PORTRAIT ラナンキュラス/増田妃早子
45.	あるとき/HANNA
46.	大地の音/田中愛子
47.	風の演奏/一居修弥
48.	上高地の風景/吉田奈未
49.	ここだけに降る雨/高橋あづさ
50.	無題/YUKI
51.	風の歌がきこえる/長谷川愛
52.	mori to ouchi /杉山知子
53.	無題/石川桃子
54.	星降る夜/天野史央里
55.	遠い空/三浦賢治
56.	新しい樹/高木さとこ
57.	無題/山本順子
58.	無題/菖蒲浦侑
59.	空とぶ魚/野中比香里
60.	無題/今井理恵
61.	街/島小織
62.	無題/尾花恵
63.	ソフトクリーム/蒔田千尋
64.	信じ続けること/増山敦子
65.	無題/小阪真生
66.	いいかぜふいてるよ/イワサトミキ
67.	旅にしよう/柳本悠花
68.	無題/水谷有里
69.	飛行/佐藤芙美奈
70.	滯標/庄田千華
71.	無題/湯川雅紀
72.	無題/大野真梨子
73.	無題/古草敦史
74.	無題/後藤未希
75.	そら/林哲夫
76.	雨守/谷めぐみ
77.	無題/栃原敏子
78.	小さな花/イケダユージ
79.	いつもいっしょ/加茂那奈枝
80.	WAITING FOR.../風早小雪
81.	me /野村嘉代
82.	庭山本潤穂
83.	君からの手紙/山田祐志
84.	シマウマの森1 /上村亮太
85.	たからじま/藤田遼子
86.	散歩/福本有沙
87.	気球散歩/野一色彩

[掲載記事]

- ・四国新聞 12月12日「癒しの芸術ずらり」
- ・愛媛新聞 1月3日「広がるホスピタルアート」
- ・四国新聞 1月8日「病棟に安らぎを…塩江美術館でホスピタルアート展」
- ・四国新聞 1月24日
- ・毎日新聞 1月28日「風が窓を開かせる」
- ・香川こまち1月号



シンクロー風景の同時性ー南条嘉毅展

会期 2013年2月9日(土)～3月31日(日)

入場者数 926人

香川県坂出市出身で、東京都在住の美術家・南条嘉毅の香川で初となる個展。南条は、江戸時代の美術と江戸の大衆宗教の歴史に興味を持ち、これまで「伊勢詣で」、「熊野古道」、「富士登山(富士講)」、「山岳信仰」など、当時の日本人の旅や移動と密接に関わりのある風俗・風景・場所を、現代的な新しい視点で捉えて制作しています。南条の作品は、「土」そのものを風景画やインスタレーションの素材として用います。題材とする土地に実際に赴き、広がる景色を自身の歩く速度で体感し、そこで土を収集したり、写真を撮影することから制作がはじまります。現地で収集した土は、乾燥させ、ふるいにかけて不純

物を取り除き、顔料と同じ大きさの粒子にします。また撮影された写真の風景は、彩度や明度によって、くり返し微細に分解されます。そして、デジタル出力をもとに、筆や土で風景を描きます。素材である土とアクリル絵の具、また、デジタルとアナログの作業を重ねていくことで、画面に相反した空間が生まれます。一見、南条の作品は極めてシンプルですが、その中に土地や風土の様々な要素を含み、画面の中に、現地以上の風景、または全く別の風景を秘めています。本展では、新潟の信濃川を題材とした絵画や、塩江、高松の土を使ったインスタレーションなど23点を紹介しました。



展示



アーティスト・トーク

[関連イベント]

南条嘉毅ワークショップ「塩江の土で描く」☆
 南条嘉毅ワークショップ「土パステルづくり」☆
 南条嘉毅アーティスト・トーク「風景の同時性～現在の制作まで」☆
 貴志勉陶芸教室「土のプレート作り」☆
 ☆=教育普及の頁参照

[掲載記事]

・四国新聞2月14日「南条嘉毅が県内初個展」
 ・香川こまち2月号

(2) 常設展

3期
 開催日数：300日間
 入場者数：6,222人

第1期常設展

人のいる景色展

会期 2012年4月27日(金)～8月26日(日)

入場者数 2,441人

香川に縁のある作家らにより様々な手法で表現された人物の作品を油彩画、スケッチ、版画、工芸、彫刻などの分野から30点展示。

[掲載記事]

・四国新聞6月21日「人物表現の変遷をたどる」
 ・香川こまち7月号

第2期常設展

熊野俊一 自選作品展

会期 2012年8月30日(木)～2013年1月14日(月・祝)

入場者数 2,436人

塩江町出身の洋画家・熊野俊一は、生涯に12回の洋行、滞在を重ねて数多くの油彩画を遺した。今展では、画家自らが選んだ名作を28点展示。

[掲載記事]

・香川こまち10月号

第3期常設展

旅の風景展

会期 2013年1月18日(金)～4月21日(日)

入場者数 1,345人

塩江町出身の洋画家・熊野俊一と写真家の比喜良治の作品から旅をテーマにした作品を紹介。

[掲載記事]

・四国新聞1月17日「画家と写真家の旅をたどる」

2. 教育普及

陶芸教室、風鈴作り教室に加えて、企画展に合わせたワークショップ、ギャラリートーク等14講座を開講した。

[ワークショップ]

塩江アートプロジェクト学校訪問ワークショップ

花のスタンドグラスをつくろう①

(塩江アートプロジェクト長野由美展 たまご響会関連)

細長く切った黒画用紙で枠組みをつくり、内部にカラーセロハンを貼って、花のスタンドグラスを制作。

2月3日(金)

講師：長野由美(造形作家)

参加人数：安原小学校3、4年生27人

花のスタンドグラスをつくろう②

(塩江アートプロジェクト長野由美展 たまご響会関連)

細長く切った黒画用紙で枠組みをつくり、内部にカラーセロハンを貼って、花のスタンドグラスを制作。

2月3日(金)

講師：長野由美(造形作家)

参加人数：安原小学校5、6年生35人



石を使っていきものづくり

(藤原慎治展 漂着点へ関連)

小学生を対象としたワークショップ。美術館の小川の石を拾い、動物の形のレリーフを組み立て、着色する。

8月11日(土)13:00～15:00

講師：藤原慎治(美術家)

参加人数：16人



けしゴムはんこの蔵書票

(いにしえのわが故郷展関連)

所蔵品よる版画展「いにしえのわが故郷展」関連企画として、小さな版画・けしゴムはんこを制作。子どもから大人まで、オリジナルのエクスリプリス(蔵書票)を制作し、お気に入りの本に付けた。

9月29日(土)13:00～15:00

講師：今井まいこ(はんこ作家)

参加人数：11人



1秒で被写体になろう

(所幸則展 One Second 2008-2012 関連)
 参加者が実際に被写体として動き、所幸則氏の撮影を体験する講座。グループ毎での参加希望者を募った。
 11月4日(日)13:00～15:00
 講師：所幸則(写真家)
 参加人数：5組15人



[ギャラリートーク]

所幸則アーティスト・トーク(小学生対象)

(所幸則展 One Second 2008-2012 関連)
 栗林小学校3年生6クラスの美術館訪問にあわせて、所氏のトークを開催。各クラス毎に写真作品を鑑賞しながら、作品制作にまつわる話を聞き、作家と会話することで作品に対する理解を深める。
 10月26日(金)9:15～11:50
 参加人数：栗林小学校3年生200人



[風鈴作り教室]

陶土でオリジナルの風鈴を1人1～2個制作。本年は白い陶土を基本に、青・ピンク・黄色の土を組み合わせ制作。作品は乾燥後、焼成して後日お渡しする。
 7月22日(日)10:00～12:00、14:00～16:00
 講師：貴志 勉(陶芸家)
 場所：陶芸館
 参加人数：延べ31人

[陶芸教室]

全6回の授業で基礎コースと経験者コースに分かれて陶芸作品を制作する。基礎コースでは基本的な陶芸作品を制作体験し、経験者コースでは講師の指導を受けながら、自分の作りたい作品を制作。
 10月8,15,22,29日、11月19,26日10:00～12:30
 講師：田淵 太郎(陶芸家)
 場所：陶芸館
 参加人数：延べ96人

学校訪問ワークショップ 塩江の土で描く

(シンクロー風景の同時性-南条嘉毅展)
 土を素材として絵を描くワークショップを開催。身近な家や畑の土を持ち寄り、絵具をつくり、「塩江土マップ」を作成。また、庭を散策して集めた葉っぱや枝などで自由に絵を描く。
 2月5日(火)9:25～11:05(3、4時間目)
 講師：南条嘉毅(美術家)
 参加人数：塩江小学校3、4年生14人

土パステルづくり

(シンクロー風景の同時性-南条嘉毅展)
 乾かした土を持ち寄り、ふるいにかけて身近な素材を使って自然の色のパステルを制作。完成したパステルを参加者同士で交換して色数を増やす。
 2月10日(日)14:00～16:00
 講師：南条嘉毅(美術家)
 参加人数：5人



所幸則アーティスト・トーク

(所幸則展 One Second 2008-2012 関連)
 住み慣れた渋谷の街をモノクロで撮影し、瞬間ではなく時間の流れを1枚の写真の中に取り入れる「One Second」のシリーズを制作する所幸則氏による作品にまつわるトークを開催。
 10月28日(日)14:00～
 参加人数：50人

南条嘉毅アーティスト・トーク 「風景の同時性～現在の制作まで」

(シンクロー風景の同時性-南条嘉毅展)
 南条氏による土を絵画作品へと変換する制作過程と、2000年頃から現在までの作品についてのトークを開催。
 2月9日(土)14:00～15:00
 参加人数：20人



- [土のプレート作り] 自宅や学校など思い出の土を陶土に混ぜて、表札やお皿などのプレートを制作。
3月17日(日)
講師：貴志勉(陶芸家)
場所：陶芸館
参加人数：15人
- [美術館の日] 8月第1土曜日を「美術館の日」と定め、展覧会(企画展：藤原慎治展、常設展：人のいる景色展)の観覧料を無料にしたほか、企画展関連ワークショップとして「風に乗る種をつくろう」(講師：藤原慎治)を開催。風に乗って飛ぶラワンとアオギリの種のモデルをつくり、テラスで投げて飛ばした。
8月4日(土)
参加人数：入場者数170人、ワークショップ約80人

3. 芸術的催物

[主催事業]

音楽コンサートなど他分野におけるアートイベントを開催。

ダンスコラボレーション

塩江アートプロジェクト長野由美展たまご響会関連イベント。「Close? or Open?」などの長野作品を舞台に、「生と死」「始まりと終わり」をテーマとしたダンスコラボレーション。

4月28日(土)13:00～17:00

出演：岡尾麻衣、長野由美

演出：岡本麻郁

音楽：田中昭全

協力：四国学院大学 身体と舞台芸術マネジメントメジャー

参加人数：36人

風の伝言プロジェクト | オープニングイベント 塩江美術館ウィンターコンサート

企画展「四国こどもとおとなの医療センターのころみ 風の伝言プロジェクト」のオープニングイベントとして、ウィンターコンサートを開催。作曲家、ピアニストの重松壮一郎氏の演奏のほか、医療センター院長中川義信氏とプロジェクトディレクターの森合音氏、京都教育大学日野陽子教授の講演や、徳島県立文学書道館の有志による朗読とピアノ演奏のコラボレーションを実施。

12月14日(日)12:30開場 13:00開演 14:30終了

参加人数：51人

4. 貸館

[企画展示室]

文化的事業への貸し出しを実施。

北添繁幸 木彫刻展

彫刻創型会、日本・フランス現代美術展への参加のほか、四国を中心に展覧会を開催している高知県出身、香川県在住の北添氏による個展。入場料無料。

6月19日(火)～7月1日(日)

参加人数：146人

第2回 堀下修竹展 自然に抱かれて

香川県出身・在住の堀下氏が75歳を迎えた記念として、山・川・水の美しさに魅せられ、心象風景を描いた水彩画作品を約20点展示。入場料無料。

7月25日(水)～7月29日(日)

参加人数：179人

1. 展覧会

(1) 企画展

7展
開催日数：283日間
入場者数：7,091人

*印はコレクションを活用した展覧会



川島猛 Collection 展 *

会期 2013年4月20日(土)～5月26日(日)
入場者数 648人

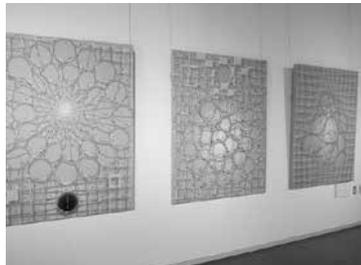
1930年高松市出身、ニューヨークで活躍する美術家・川島猛。幼少期より熱心に絵を描き、カメラマンや映画劇場の絵看板画家の助手を勤めながら、高松工業学校航空機科(現高松工芸高校)、山田等絵画研究所、武蔵野美術専門学校(現武蔵野美術大学)、代々木絵画専門学校を経て美術を学びました。1963年に渡米し、ニューヨークに活動の拠点を移します。以後、アメリカと日本において制作を続けています。川島は塩江町にもアトリエを構えており、塩江美術館ではその作品を数多く所蔵しています。本展では、1960～1990年代の作品から厳選した約30点を展示しました。



かがわ・山なみ芸術祭(塩江町エリア) 「エネルギーを形に変えて」

会期 2013年6月1日(土)～6月23日(日)
入場者数 1,249人

瀬戸内国際芸術祭2013の関連事業として開催された「かがわ・山なみ芸術祭」(開催地区：三野・牟礼・塩江・綾川・まんのう)。塩江エリアでは塩江美術館や近隣の温泉通り、ホテル、神社等を会場として平面、立体、インスタレーションなど様々な作品が展示されました。温泉通りでは地元の人々を中心となって、伝統工芸など地域文化の紹介が行われ、塩江美術館でも、屋内外に様々なジャンルのアーティストによる作品が展開されました。展示室では、大西よしみ、谷川博子、山口佳茂の3名の、屋外には杉本公和、川崎展子、茂真路、VOXの4組のアーティストの作品を展示。また美術館テラスでは、アートスタジオ・フォーモによるワークショップも実施しました。



展示



「はじまりのまちワークショップ」

[関連イベント]

小松ちか・永島かなえ(アートスタジオ・フォーモ)「はじまりのまちワークショップ」☆
☆=教育普及の頁参照

[掲載記事]

- ・四国新聞5月3日
- ・瀬戸マーレ第17号 夏号 2013年7月
- ・四国新聞5月20日「海と山、人結ぶ序章に 地域活性化へ住民協働」
- ・四国新聞6月2日「アートも自然も満喫」
- ・読売新聞6月2日「山なみ芸術祭 塩江、綾川エリア開幕」



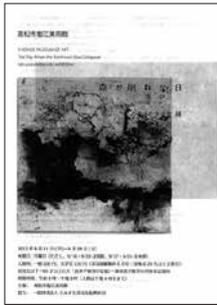
国際子ども秀作絵画展

会期 2013年6月29日(土)～8月4日(日)
入場者数 660人

文部科学省が後援した全国規模のコンクールの中から、8団体の協力のもと、約160点を展示。網走市立美術館、北アルプス展望美術館へ巡回。

[関連イベント]

カタタチサト・片岡明日香ワークショップ
「美術館でアクションペインティング!空にらくがきしてみよう!!」☆=教育普及の頁参照



カミイケタクヤ展 森が崩れた日

会期 2013年8月11日(日)～9月29日(日)

入場者数 1,083人

カミイケタクヤは高松市出身で、舞台美術の仕事をつっかきその技術や経験を生かして、美術・演出などを手掛ける若手作家です。「時間の経過」という人間の故意では行えないことと、「拾う」という偶然性の事を主軸として、舞台美術作品、平面作品、インスタレーションなど幅広く制作しています。近年では2010年高松市美術館「高松コンテンポラリーアートアニュアルvol.01」にて線路を使用したインスタレーションを出品。2011年山下残演出作品「庭みたいなもの」では、生きる舞台美術として、2ヵ月間自らが住んだ空間を実際に取り入れた舞台美術作品を発表しました。また2012年7月横浜創造都市センター、8月大地の芸術祭にて、Nibroll公演「see/saw」の舞台美術を担当しています。同年11月には、suzukitakayuki×山下彩子×カミイケタクヤでのライブパフォーマンスや、2013年「踊りにいくぜ!!」でダンス作品の制作・演出を行うなど、その活動は多岐にわたります。

本展では、高木林が燃え、平坦となった土地に低木林の密林(ジャングル)ができるまでの間、何かが終わり何かが始まるまでの“間の時間”をテーマに、平面作品約20点と、美術館全体を使用した大型インスタレーションを展示しました。



展示



クロージングパフォーマンス

[関連イベント]

学校訪問ワークショップ「ジャングルを描こう」☆

カミイケタクヤ展「森が崩れた日」オープニングパフォーマンス★

カミイケタクヤ展「森が崩れた日」クロージングパフォーマンス★

☆=教育普及の頁参照 ★=芸術的催物の頁参照

[出品リスト]

No. 作品名/制作年

1. forest collapse / 2013	8. 湖畔の記憶 / 2013	15. country rusty / 2013
2. night garden / 2012	9. 山脈の記憶 / 2013	16. 樹葬 / 2013
3. Book chipping / 2013	10. picture diary / 2011	17. Last room / 2013
4. Circulation / 2013	11. door finite / 2013	18. 素 / 2013
5. Life excised / 2013	12. 月夜 / 2013	19. 残りの日 / 2013
6. Date of cracking / 2013	13. castle cracked / 2013	20. Reconstruction / 2013
7. face paper / 2011	14. 痕跡 / 2011	

[掲載記事]

- ・四国新聞9月1日「時間テーマ 独特の世界」
- ・ナイスタウン9月号

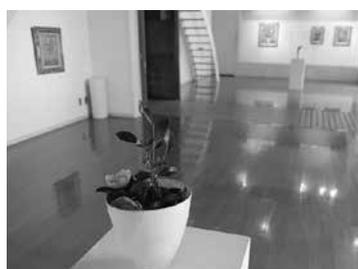


花咲く美術館 *

会期 2013年10月5日(土)～11月24日(日)

入場者数 1,259人

収藏品から熊野俊一と池田利夫の花をモチーフにした油彩画・版画作品を展示しました。塩江町出身の熊野俊一は、その代表作として「ダリア」シリーズを制作しています。また、高松市在住の池田利夫は「植物図鑑」「わたしの植物誌」などの画集を発表し、四季折々の草花を版画作品で表現しています。本展では、コラボレーション企画として塩江町在住の陶芸家・田淵太郎の白磁花器に同町在住の浅見綾子の生花をあわせて展示しました。





井上優子 yuuco 展 夢は行方不明に

会期 2013年12月1日(日)～2月16日(日)

入場者数 1,305人

井上優子は高松市出身の美術家で、高松市を拠点にイラストレーターとしても活躍しています。2014年からは拠点をロンドンへと移し、活動を展開しています。これまで、県内の様々なアートシーンを彩るパンフレットやフライヤーを数多く手がけています。主な刊行物は、「瀬戸内国際芸術祭・こえび新聞」、『はじめましてかがわのアトリエ』、「フィールドミュージアムSA・NU・KI」など。また2013年、イギリスの菓子メーカー Border Biscuitsのブランドイラストを担当し、ビジネスアワードで広告戦略賞にノミネートされました。本展では、新作を中心とした絵画、立体作品など45点を出品しました。また、高さ4m幅9mの壁面に、マーカーを使った巨大な絵画の公開制作も行いました。



展示



公開制作《塩江に棲む大蛇》

[関連イベント]

- 学校訪問ワークショップ「絵の上に絵を描こう」☆
 - 学校訪問ワークショップ「ボックスアートを作ろう」☆
 - 井上優子ワークショップ「井上優子の銅版画教室」☆
- ☆=教育普及の頁参照

[出品リスト]

No. 作品名 / 制作年 / 材質

1. 虫シリーズ / 2013 / アクリル、キャンバス	24. tea time / 2012 / エッチング・水彩、紙
2. 虫シリーズ / 2013 / アクリル、キャンバス	25. 庭園 / 2008 / エッチング、紙
3. 虫シリーズ / 2013 / アクリル、キャンバス	26. 夜鳴く鳥 / 2012 / エッチング、紙
4. 虫シリーズ / 2013 / アクリル、キャンバス	27. tea time / 2012 / エッチング・水彩、紙
5. 虫シリーズ / 2013 / アクリル、キャンバス	28. ヤギさんからの手紙 / 2012 / エッチング・水彩、紙
6. 虫シリーズ / 2013 / アクリル、キャンバス	29. N.Y bar / 2012 / エッチング・水彩、紙
7. 虫シリーズ / 2013 / アクリル、キャンバス	30. jazzy night / 2012 / エッチング・水彩、紙
8. 虫シリーズ / 2013 / アクリル、キャンバス	31. 夢1 / 2013 / コラージュ・エッチング・水彩 他、紙
9. 虫シリーズ / 2013 / アクリル、キャンバス	32. 夢2 / 2013 / コラージュ・エッチング・水彩 他、紙
10. 檻 / 2013 / プリキ、石	33. jasmin / 2012 / アクリル・ペン 他、キャンバス
11. 籠 / 2013 / プリキ、石、プラスチック他	34. 馬と少女 / 2008 / エッチング、紙
12. 部屋 / 2013 / プリキ、石、プラスチック他	35. 仔馬のゆめ / 2009 / 水彩・油彩・ペン 他、紙
13. 棲 / 1998 / 陶	36. flowers / 2011 / アクリル 他、キャンバス
14. pot / 1998 / 陶	37. 異国の馬 / 2013 / アクリル 他、キャンバス
15. 物語シリーズ・赤ずきんちゃん / 2013 / アクリル、キャンバス	38. くらいうま / 2013 / アクリル 他、キャンバス
16. 物語シリーズ・赤ずきんちゃん / 2013 / アクリル、キャンバス	39. しろうま / 2013 / アクリル 他、キャンバス
17. 物語シリーズ・赤ずきんちゃん / 2013 / アクリル、キャンバス	40. flower of happiness red / 2011 / 水彩・ペン、紙
18. プリキの虫シリーズ / 2013 / プリキ	41. flower of happiness yellow / 2011 / 水彩・ペン、紙
19. プリキの虫シリーズ / 2013 / プリキ	42. plants of happiness / 2011 / 水彩・ペン、紙
20. サークス / 2012 / エッチング・水彩、紙	43. fruits of happiness / 2011 / 水彩・ペン、紙
21. インスタレーション / 2013 / 粘土・アクリル 他	44. 時のうさぎ / 2010 / 木・鉄
22. accordion girl / 2012 / エッチング・水彩、紙	45. 塩江に棲む大蛇 / 2013 / ペン、壁
23. beautiful world / 2011 / ペン・水彩、紙	



今日を過ごす方法

会期 2014年2月22日(土)～4月20日(日)

入場者数 887人

県内外で活動するアーティスト木浦奈津子、柴田七美、炭田紗季、高松明日香の4名によるグループ展を開催しました。

鹿児島県在住の木浦奈津子は、地元の風景や海をテーマに制作する作家で、軽快なタッチで絵画を制作しています。東京都在住の柴田七美は、絵画の表面の質感にこだわり、絵画と自分の間にあるものを限りなく無くす表現手法を追求しています。岡山県在住の炭田紗季は、伝統的な西洋画の歴史と日本の風景を組み合わせた新しい絵画表現を模索し、制作しています。また香川県高松市在住の高松明日香は、映画やインターネットから集めた画像を題材にして、浮遊感のある世界観を描き出します。「今日を過ごす方法」として日々絵画を描き続けているという、4名の新進アーティストの作品約20点を展示しました。



展示

[関連イベント]

ギャラリートーク①☆

ギャラリートーク②☆

☆=教育普及の頁参照

[出品リスト]

No. 作家名/作品名/制作年

1. 炭田紗季/毘沙門天/2014

2. 炭田紗季/弁財天/2014

3. 炭田紗季/恵比寿天/2014

4. 炭田紗季/大黒天/2014

5. 炭田紗季/寿老人/2014

6. 炭田紗季/Fuji/2014

7. 高松明日香/イエルベ・エルアグアの兄弟/2014

8. 高松明日香/CASA drawings/2014

9. 柴田七美/舞台/2013

10. 柴田七美/舞台/2014

11. 柴田七美/ドローイング/2014

12. 木浦奈津子/やま/2013

13. 木浦奈津子/やま/2013

14. 木浦奈津子/うみ/2013

15. 木浦奈津子/こうえん/2013

16. 木浦奈津子/うみやまうみ/2013

17. 木浦奈津子/やま こうえん うみ/2013

[掲載記事]

・四国新聞12月12日「細かな描線 心とらえる」

(2) 常設展

3期

開催日数：292日間

入場者数：7,167人

美術館の所蔵品のうち、テーマを設定して年間3回の入れ替えで展示。

第1期常設展

旅の風景II

会期 2013年4月26日(金)～8月25日(日)

入場者数 3,052人

塩江町出身の熊野俊一と、香川町出身の伊藤義久が描いた風景画を約40点展示。

第2期常設展

モノクロームの世界

会期 2013年8月30日(金)～2014年1月13日(月)

入場者数 2,788人

“モノクローム”をキーワードに、白と黒のコントラストで表現された絵画や版画作品を約30点紹介。

第3期常設展

版画の彩り

会期 2014年1月18日(土)～2014年4月13日(日)

入場者数 1,327人

シルクスクリーン、木版画、リトグラフなどの技法で制作された版画作品を約30点紹介。

2. 教育普及

[ワークショップ]

陶芸教室、風鈴作り教室に加えて、企画展に合わせたワークショップ、ギャラリートーク等12講座を開講した。

はじまりのまちワークショップ

(かがわ・山なみ芸術祭関連)
かがわ・山なみ芸術祭に参加するアートスタジオ・フォーモによる工作ワークショップを開催。
①2013年6月1日(土) ②6月2日(日) ③6月8日(土)
④6月9日(日)
各日10:00～12:00、13:00～16:00
講師：小松ちか、永島かなえ(アートスタジオ・フォーモ)
参加人数：54人



美術館でアクションペインティング! 空にらくがきしてみよう!

(国際子ども秀作絵画展関連)
2013年8月3日(土)10:30～12:00
高松市の芸術士として活躍するアーティストによる、屋外でのアクションペインティングを実施。
講師：カタタチサト(ダンサー)、三好智子(芸術士)
参加人数：15人



ジャングルを描こう@塩江小学校

(カミイケタクヤ展 森が崩れた日関連)
体育館の床をキャンバスにして、“ジャングル”を想像しながら描くワークショップ。
2013年9月6日(金)9:25～11:05
講師：カミイケタクヤ(美術家)
場所：高松市塩江小学校体育館
参加人数：塩江小学校1～3年生(教員含む)23人



ジャングルを描こう@上西小学校

(カミイケタクヤ展 森が崩れた日関連)
校庭のグラウンドをキャンバスにして、“ジャングル”を想像しながら描くワークショップ。
2013年9月10日(火)8:40～10:15
講師：カミイケタクヤ(美術家)
場所：高松市上西小学校グラウンド
参加人数：上西小学校全校生(教員含む)14人



ジャングルを描こう@安原小学校

(カミイケタクヤ展 森が崩れた日関連)
校庭のグラウンドをキャンバスにして、“ジャングル”を想像しながら描くワークショップ。
2013年9月10日(火)13:50～15:30
講師：カミイケタクヤ(美術家)
場所：高松市安原小学校グラウンド
参加人数：安原小学校5・6年生(教員含む)31人



井上優子の銅版画教室

(井上優子 yuuco 展 夢は行方不明に関連)
銅版画の技法を学び、ドライポイントで銅版画を制作した。
2013年12月14日(土)10:00～12:00
講師：井上優子(美術家)
参加人数：9人



絵の上に絵を描こう@上西小学校

(井上優子 yuuco 展 夢は行方不明に関連)
井上優子が描いた絵画の上から、コラボレーションして絵を描くワークショップ。
2013年1月20日(月)13:50～15:30
講師：井上優子(美術家)
場所：高松市上西小学校
参加人数：上西小学校全校生7人



ボックスアートを作ろう@上西小学校

(井上優子 yuuco 展 夢は行方不明に関連)
学校の下駄箱の中に展示するボックスアートを作る。
2014年1月24日(金)13:50 ~ 15:30
講師：井上優子
場所：高松市上西小学校
参加人数：上西小学校全校生7人



[ギャラリートーク]

今日を過ごす方法ギャラリートーク①

企画展「今日を過ごす方法」に出展している4人による
ギャラリートーク。
2014年2月22日(土)14:00 ~ 15:00
木浦奈津子・柴田七美・炭田紗季・高松明日香
参加人数：20人



今日を過ごす方法ギャラリートーク②

企画展「今日を過ごす方法」のギャラリートーク。
2014年3月22日(土)14:00 ~ 15:00
炭田紗季・高松明日香
参加人数：43人



[風鈴作り教室]

2013年7月2日(日)10:00 ~ 12:00、14:00 ~ 16:00
講師：貴志勉 場所：陶芸館 参加人数：32人

[陶芸教室]

2013年10月5日(土)、10月12日(土)、10月26日(土)、
11月2日(土)、11月16日(土)、11月30日(土) / 各10:00 ~ 12:30
講師：田淵太郎 場所：陶芸館 参加人数：延べ60人

[美術館の日]

8月第1土曜日を「美術館の日」と定め、展覧会(企画展：国際子ども秀作絵画展、常設展：旅の風景II)の観覧料を無料にしたほか、企画展関連ワークショップ「空にらくがきしてみよう!美術館でアクションペインティング」を開催。
8月3日(土)
参加人数：入場者数105人、ワークショップ15人

3. 芸術的催物

コンサートなど多分野におけるアートイベントを開催。

カミイケタクヤ展「森が崩れた日」オープニングパフォーマンス

ベルリン在住のアートユニット usaginingen(平井伸一・絵美)とカミイケタクヤのコラボレーション企画。国内外でも高い評価を得ている usaginingen による独特の映像と音楽、そしてカミイケタクヤのインスタレーションが融合した作品を発表した。

2013年8月11日(日)19:00 ~ 20:00
参加人数：57人

カミイケタクヤ展「森が崩れた日」クロージングパフォーマンス

ダンサー・住吉山実里、歌うたいのにしもとひろこと、美術家のカミイケタクヤによる一夜限りのパフォーマンスを開催。

2013年9月27日(金)、9月28日(土) / 各17:30 ~ 18:30
参加人数：28人



4. 貸館

[企画展示室]

文化的事業への貸し出しを実施。

幸せの特等席 Over the 80

高松市在住の戸田由美子氏撮影による写真展。80歳を越えた今でも現役で働く人々の表情を捉えた写真作品を13点展示。

4月7日(日) ~ 4月14日(日)9:00 ~ 17:00
参加人数：163人

參考資料

施設概要

高松市美術館

所在地／高松市紺屋町10-4
敷地面積／4,497.24㎡
建築面積／3,202.68㎡
延床面積／15,799.48㎡（うち美術館部分9,875.80㎡）
構造／鉄骨鉄筋コンクリート造（地上部）
鉄筋コンクリート造（地下部）
規模／地下2階地上5階（一部中2階）
工期／昭和60年12月～昭和63年2月
設計・監理／（株）佐藤総合計画

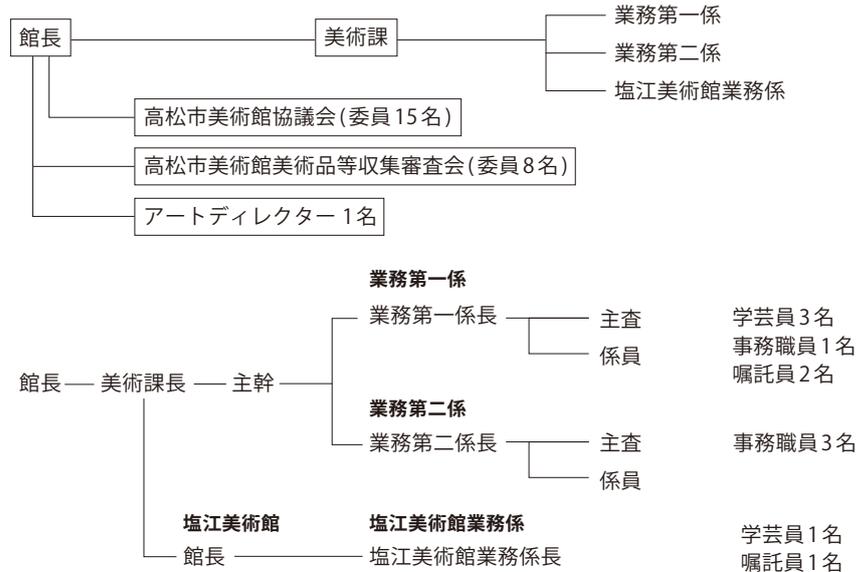
高松市塩江美術館

所在地／高松市塩江町原上602番地
敷地面積／5,173.48㎡
建築面積／718.24㎡
延床面積／829.33㎡
構造／木造一部鉄骨造
規模／地上1階（一部2階）
工期／平成5年2月～平成5年12月
設計・監理／アーレン・プランニング研究所

平成27年3月31日現在

組織図

高松市創造都市推進局 文化・観光・スポーツ部
美術館美術課



高松市美術館条例

高松市美術館条例（昭和39年高松市条例第44号）の全部を改正する。

設置

第1条 美術に関する市民の知識及び教養の向上と市民文化の発展に寄与するため、博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第18条の規定に基づき、美術館を設置する。

名称及び所在

第2条 美術館の名称及び所在は、次のとおりとする。

名称	所在
高松市美術館	高松市紺屋町10番地4

事業

第3条 高松市美術館（以下「美術館」という。）は、第1条に規定する美術館の設置目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- （1）美術品その他美術に関する資料（以下「美術品等」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。
- （2）美術に関する調査及び研究を行うこと。
- （3）美術に関する展覧会、講演会、講習会等を開催し、及びその奨励を行うこと。
- （4）美術に関する講座を開設すること。
- （5）美術に関する情報を提供すること。
- （6）美術館の施設・設備等（以下「施設等」という。）を美術に関する集会、展示等（施設のうち、講堂にあっては、文化に関するものを含む。）のために提供すること。
- （7）前各号に掲げるもののほか、目的を達成するために必要な事業

観覧料

第4条 美術館が主催して展示する美術品等を観覧しようとする者は、別表第1に規定する観覧料を納付しなければならない。

施設等の使用許可

第5条 施設等を使用しようとする者は、あらかじめ高松市教育委員会（以下「委員会」という。）の許可を受けなければならない。許可された事項を変更する場合も、同様とする。

使用許可の基準等

第6条 委員会は、次の各号のいずれかに該当するときは、使用を許可しない。

- （1）美術館の設置目的に反する使用をするおそれがあると認められるとき。
- （2）館内の秩序を乱すおそれがあると認められるとき。
- （3）施設等を損傷するおそれがあると認められるとき。
- （4）その他美術館の管理上支障があると認められるとき。

2 委員会は、管理上必要があると認めるときは、使用の許可に条件を付することができる。

使用目的の変更等の禁止

第7条 第5条の規定により使用の許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、使用の目的を許可なく変更し、又は使用の権利を譲渡し、若しくは転貸してはならない。

使用許可の取消し、停止等

第8条 委員会は、使用許可後において、第6条第1項各号のいずれかに該当する理由が生じたとき、又は使用者が同条第2項の許可条件若しくは前条の規定に違反したときは、使用許可を取り消し、若しくは停止し、又は条件を変更することができる。この場合において、使用者が損害を受けても、委員会は其の責めを負わない。

使用料の納付

第9条 使用者は、別表第2に規定する使用料を当該許可の際に前納しなければならない。ただし、国若しくは地方公共団体が使用する場合は委員会

が特別の理由があると認める場合は、この限りでない。

特別の設備等

第10条 使用者は、美術館に特別の設備をし、又は備付け以外の器具を使用しようとするときは、あらかじめ委員会の許可を受けなければならない。
2 委員会は、管理上必要があると認めるときは、使用者の負担において、前項の特別の設備等をさせることができる。

原状回復の義務

第11条 使用者は、使用后、使用した施設等及び前条の特別の設備等を使用許可期限内に原状に復さなければならない。使用許可の取消し等を受けた場合も、同様とする。

使用者の責任

第12条 使用者は、使用期間中善良な管理を怠ってはならない。

職員の立入り

第13条 美術館の職員は、管理上必要があると認めるときは、随時立入りをすることができる。

撮影の許可及び手数料

第14条 美術館に収蔵している美術品等について、学術研究等のため撮影をしようとする者は、あらかじめ委員会の許可を受けなければならない。
2 前項の許可を受けた者は、別表第3に規定する手数料を納付しなければならない。

観覧料及び使用料の返還

第15条 既納の観覧料及び使用料は、返還しない。ただし、委員会が特別の理由があると認めるときは、その全部又は一部を返還することができる。

観覧料の減免

第15条の2 市長は、委員会において必要と認める場合は、観覧料を減額し、又は免除することができる。

利用の制限

第15条の3 委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を拒み、又は退館を命ずることができる。
(1) 秩序を乱し、若しくは公益を害し、又はそのおそれがあると認められる者
(2) 美術品等又は施設等を損傷し、若しくは滅失し、又はそのおそれがあると認められる者
(3) その他美術館の管理上支障があると認められる者

損害賠償

第16条 美術館の入館者又は使用者が、自己の責めに帰すべき理由により、美術品等若しくは施設等を損傷し、又は滅失したときは、委員会の指示に従い、その損害を賠償しなければならない。

喫茶室の使用

第17条 委員会は、美術館内で喫茶室を営もうとする者に対し、1年以内の期間に限り、地方自治法（昭和22年法律第67号）第238条の4第7項の規定により使用を許可することができる。この場合において、委員会が必要であると認めるときは、同一人に対し引き続き使用を許可することができる。
2 前項の許可を受けた者は、高松市行政財産の目的外使用に関する使用料条例（昭和39年高松市条例第20号）別表に掲げる使用料を納付しなければならない。
3 前項の使用料は、毎月10日（その日が日曜日、国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日又は土曜日に当たるときは、これらの日の翌日）までにその月分を納付しなければならない。

委任

第18条 この条例の施行に関し必要な事項は、委員会が定める。

附則

この条例は、昭和63年4月1日から施行する。ただし、第4条から第17条までの規定は、同年8月6日以後の供用に係るものから適用する。

附則（昭和63年12月24日条例第27号）

この条例は、昭和64年2月1日から施行する。

附則（平成元年3月29日条例第24号）

1 この条例は、平成元年5月1日から施行する。ただし、第15条の次に1条を加える改正規定は、同年4月1日から施行する。
2 この条例の施行の際現に使用を許可されている者に係る既納の使用料については、なお従前の例による。

附則（平成6年3月28日条例第22号）

1 この条例は、平成6年4月1日から施行する。
2 この条例の施行の際現に使用を許可されている者に係る既納の使用料又はこの条例の施行の日前の使用に係る使用料については、なお従前の例による。

附則（平成9年3月27日条例第39号）

1 この条例は、平成9年4月1日から施行する。
2 この条例の施行の際現に使用等を許可されている者に係る既納の使用料及び手数料については、なお従前の例による。

附則（平成9年6月26日条例第53号）

この条例は、公布の日から施行する。

附則（平成11年7月14日条例第19号）

この条例は、公布の日から施行する。

附則（平成12年3月27日条例第6号）

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附則（平成13年3月23日条例第38号）

1 この条例は、平成13年4月1日から施行する。
2 この条例の施行の際現に使用等を許可されている者に係る既納の使用料及び手数料については、なお従前の例による。

附則（平成19年3月23日条例第2号抄）

（施行期日）

1 この条例は、平成19年4月1日から施行する。

附則（平成20年3月26日条例第29号抄）

（施行期日）

1 この条例は、平成20年4月1日から施行する。

附則（平成22年3月26日条例第6号）

この条例は、平成22年4月1日から施行する。

附則（平成25年12月25日条例第103号）

1 この条例は、平成26年4月1日から施行する。
2 この条例の施行の際現に使用等を許可されている者に係る既納の使用料及び手数料については、なお従前の例による。

別表第1 美術品等観覧料（第4条関係）

区分	観覧料（1人1回につき）	
	個人	団体（20人以上）
常設展示観覧	一般	200円
	大学生	150円
特別展示観覧	2,000円の範囲内において委員会がその都度定める額	

備考

1 「常設展示観覧」とは美術館が定期的に展示する美術品等の観覧をいい、「特別展示観覧」とは美術館が特別に企画展示する美術品等の観覧をいう。
2 「一般」とは15歳以上の者（大学生及び備考3の規定の適用を受ける者を除く。）をいい、「大学生」とは学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する大学その他これに準ずるものに在学する者をいう。
3 就学年齢に達しない者又は学校教育法第1条に規定する小学校、中学校若しくは高等学校に在学する者若しくは委員会がこれらに準ずると認める者は、無料とする。

別表第2 施設等使用料（第9条関係）

1 展示室使用料

室名	使用単位	使用料
一般展示室	1日	33,320円
企画展示室	1日	39,060円
市民ギャラリー	1日	8,490円

備考

- 1 企画展示室は、委員会が特に必要と認める場合に限り、使用することができる。
- 2 使用許可を受けた期間内に、休館日（搬入のため展示室を使用する場合を除く。）がある場合は、当該休館日に係る使用料は徴収しない。

2 講堂使用料

使用単位	午前		午後		夜間		午前・午後		午後・夜間		全日
	午前9時	午後1時	午後6時	午前9時	午後1時	午前9時	午後1時	午後9時	午後9時	午前9時	
室名	正午	午後5時	午後9時	午後5時	午後9時	午後9時	午後9時	午後9時	午後9時	午後9時	
講堂	9,010円	12,800円	12,800円	21,810円	25,600円	31,220円					

備考

- 1 使用者が、営利を目的として使用するとき、又は入場料若しくはこれに類するものを徴収するときの使用料は、この表に規定する額の3倍の額とする。
- 2 申込時間を超過し、又は繰り上げて使用するとき、超過又は繰上時間1時間につき、別に全日の使用料の10分の1の額を徴収する。この場合、30分を超える端数については、1時間とみなす。
- 3 使用料に10円未満の端数が生じたときは、10円に切り上げる。

3 講座室使用料

室名	使用単位	午前	午後	全日
	午前9時～正午	午後1時～午後5時	午前9時～午後5時	
講座室1		1,750円	2,340円	4,090円
講座室2		2,010円	2,730円	4,740円
講座室3		2,010円	2,730円	4,740円
講座室4		2,010円	2,730円	4,740円

備考

使用者が、営利を目的として使用するとき、又は入場料若しくはこれに類するものを徴収するときの使用料は、この表に規定する額の3倍の額とする。

4 冷暖房装置使用料

種別	区分	講堂及び講座室
冷暖房料		その施設の使用料の2分の1の額

備考

使用料に10円未満の端数が生じたときは、10円に切り上げる。

5 附属設備及び器具使用料

省略

別表第3 美術品等撮影許可手数料（第14条関係）

区分	単位	手数料
学術研究を目的とする場合	1点につき1回	510円
出版等を目的とする場合	1点につき1回	5,220円

高松市塩江美術館条例

設置

第1条 美術に関する市民の知識及び教養の向上を図るとともに、市民に美術活動等の場を提供するため、高松市塩江美術館（以下「美術館」という。）を高松市塩江町安原上602番地に設置する。

事業

第2条 美術館は、前条に規定する美術館の設置目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 美術品その他美術に関する資料（以下「美術品等」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 美術に関する展覧会、講演会、講習会等を開催すること。
- (3) 美術に関する講座を開設すること。
- (4) 美術館の施設・設備等（以下「施設等」という。）を美術等に関する集会、展示等のために提供すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、美術館の設置目的を達成するために必要な事業

観覧料

第3条 美術館が主催して展示する美術品等を観覧しようとする者は、別表第1に規定する観覧料を納付しなければならない。

施設等の使用許可

第4条 施設等を使用しようとする者は、あらかじめ教育委員会（以下「委員会」という。）の許可を受けなければならない。許可を受けた事項を変更する場合も、同様とする。

2 委員会は、次の各号のいずれかに該当するときは、前項の許可をしない。

- (1) 美術館の設置目的に反する使用をするおそれがあると認められるとき。
- (2) 美術館内の秩序を乱し、又は公益を害するおそれがあると認められるとき。
- (3) 施設等を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。
- (4) 長期間にわたる継続使用により、他の使用を妨げるおそれがあると認められるとき。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、美術館の管理上支障があると認められるとき。

3 委員会は、管理上必要があると認めるときは、第1項の許可に条件を付することができる。

使用許可の取消し、使用の停止等

第5条 委員会は、前条第1項の許可をした後において、同条第2項各号の

いずれかに該当する理由が生じたとき、又は同条第1項の許可を受けた者（以下「使用者」という。）が次の各号のいずれかに該当するときは、当該許可を取り消し、若しくは使用を停止させ、又は当該許可に付した条件を変更することができる。この場合において、使用者が損害を受けても、委員会は、その責めを負わない。

- (1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。
- (2) 前条第3項又はこの条の規定により前条第1項の許可に付した条件に違反したとき。
- (3) 偽りその他不正の手段により前条第1項の許可を受けたとき。

使用料の納付

第6条 使用者は、別表第2及び別表第3に規定する使用料を当該許可の際に前納しなければならない。ただし、国若しくは地方公共団体が使用する場合又は委員会が特別の理由があると認める場合は、この限りでない。

特別の設備等

第7条 使用者は、美術館に特別の設備をし、又は備付け以外の器具を使用しようとするときは、あらかじめ委員会の許可を受けなければならない。

2 委員会は、美術館の管理上必要があると認めるときは、使用者の負担において、前項の設備又は器具の使用をさせることができる。

原状回復の義務

第8条 使用者は、使用を終わったとき、又は使用を中止したときは、当該許可に係る使用期限までに、施設等を原状に回復しなければならない。第5条の規定による許可の取消し又は使用の停止を受けたときも、同様とする。

2 委員会は、使用者が前項に規定する義務を履行しないときは、使用者に代わり原状に回復する。この場合において、使用者は、当該原状回復に要した費用を負担しなければならない。

撮影の許可及び手数料

第9条 美術館に保管し、又は展示している美術品等について、学術研究等のため撮影をしようとする者は、あらかじめ委員会の許可を受けなければならない。

2 前項の許可を受けた者は、別表第4に規定する手数料を納付しなければならない。

観覧料等の返還

第10条 既納の観覧料及び使用料は、返還しない。ただし、委員会が特別の理由があると認めるときは、その全部又は一部を返還することができる。

観覧料の減免

第11条 市長は、委員会において必要と認める場合は、観覧料を減額し、又は免除することができる。

利用の制限

第12条 委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、美術館への入館を拒み、又は美術館からの退館を命ずることができる。

- (1) 美術館内の秩序を乱し、若しくは公益を害し、又はそのおそれがあると認められる者
- (2) 美術品等又は施設等を損傷し、若しくは滅失し、又はそのおそれがあると認められる者
- (3) その他美術館の管理上支障があると認められる者

損害賠償

第13条 美術館の入館者又は使用者は、自己の責めに帰すべき理由により、美術品等又は施設等を損傷し、又は滅失したときは、委員会の指示に従い、その損害を賠償しなければならない。

高松市美術館協議会への諮問

第14条 委員会は、第2条各号に掲げる事業に関する基本的な事項については、高松市歴史民俗分野及び美術分野社会教育施設協議会条例（平成20年高松市条例第29号）に規定する高松市美術館協議会に諮問するものとする。

職員

第15条 美術館に館長その他必要な職員を置く。

委任

第16条 この条例の施行に関し必要な事項は、委員会が定める。

附則

施行期日

1 この条例は、平成17年9月26日から施行する。

経過措置

2 この条例の施行の日前に町立塩江美術館条例（平成5年塩江町条例第9号）の規定によりなされた処分、手続その他の行為は、この条例の相当規定によりなされた処分、手続その他の行為とみなす。

高松市の重要な公の施設等に関する条例の一部改正

3 高松市の重要な公の施設等に関する条例（昭和39年高松市条例第5号）の一部を次のように改正する。
(次のよう略)

附則（平成20年3月26日条例第29号抄）

施行期日

1 この条例は、平成20年4月1日から施行する。

附則（平成22年3月26日条例第7号）

この条例は、平成22年4月1日から施行する。

附則（平成25年12月25日条例第104号）

- 1 この条例は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行の際現に使用等を許可されている者に係る既納の使用料及び手数料については、なお従前の例による。

別表第1 美術品等観覧料（第3条関係）

区分	観覧料（1人1回につき）	
	個人	団体（20人以上）
一般	300円	240円
大学生	150円	120円

備考

- 1 「一般」とは15歳以上の者（大学生及び備考2の規定の適用を受ける者を除く。）をいい、「大学生」とは学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する大学その他これに準ずるものに在学する者をいう。
- 2 就学年齢に達しない者又は学校教育法第1条に規定する小学校、中学校若しくは高等学校に在学する者若しくは委員会がこれらに準ずると認める者は、無料とする。

別表第2 展示室使用料（第6条関係）

室名	使用単位	使用料
企画展示室	1日	4,320円

備考 第4条第1項の許可を受けた期間に、休館日（搬入のため企画展示室を使用する場合を除く。）がある場合は、当該休館日に係る使用料は、徴収しない。

別表第3 ホール及び陶芸室使用料（第6条関係）

使用単位	午前	午後	夜間	午前・午後	午後・夜間	全日
	午前9時 ～ 正午	午後1時 ～ 午後5時	午後6時 ～ 午後9時	午前9時 ～ 午後5時	午後1時 ～ 午後9時	午前9時 ～ 午後9時
ホール	1,610円	2,160円	1,610円	4,320円	4,320円	6,480円
陶芸室	1日（午前9時から午後5時まで）につき960円					

備考

- 1 使用者が、ホールについて、営利を目的として使用する場合は、この表に規定する額の3倍の額とする。
- 2 申込時間を超過し、又は繰り上げて使用するときの使用料は、超過又は繰上時間1時間につき、別に全日又は1日の使用料の10分の1の額を徴収する。この場合、30分を超える端数については、1時間とみなす。
- 3 冷暖房装置を使用する場合の使用料は、この表に規定する額の1.5倍の額とする。
- 4 使用料に10円未満の端数が生じたときは、10円に切り上げる。

別表第4 美術品等撮影許可手数料（第9条関係）

区分	単位	手数料
学術研究を目的とする場合	1点につき1回	310円
出版等を目的とする場合	1点につき1回	530円

沿革（開館以後）

昭和63年8月6日	高松市美術館開館（開館記念展「ベルギー王国リエージュ美術館名画展」開催） 収蔵品図録Ⅰを刊行
平成元年 4月	金曜日の夜間開館（9時～19時）を開始
平成2年 10月	市制100周年記念展「松平家所蔵名宝展」開催
平成6年	開館5周年記念展「讃岐漆芸の美展」開催 開館5周年記念事業として収蔵品図録Ⅱを刊行
平成6年4月25日	塩江町立美術館開館（開館記念展「熊野俊一ゆかりの作家展」開催）
平成10年	開館10周年記念展「ロダン展」開催 収蔵品図録Ⅲを刊行
平成11年	管理課、学芸課の2課を美術課に統合 美術館ボランティアcivi(シヴィ)の活動開始
平成12年	平日夜間開館（火～木曜日：9時～17時、金曜日：9時～19時）に移行
平成13年	平日（月～金曜日）夜間開館（9時30分～19時）に移行
平成14年	小中学生の常設展完全無料化を実施 「アートで遊ぼう!」事業開始
平成15年	「子どものアトリエ」事業開始 歴史資料館、市民文化センターなどと共同で収蔵品情報システムを導入
平成16年	開館15周年記念展「玉楮象谷展」開催
平成17年	塩江町合併により、塩江美術館を組織統合
平成19年	美術館あり方検討委員会発足。（平成20年2月25日に提言書を提出）
平成20年	市の機構改革により、市長部局（市民政策部、国際文化・スポーツ局）に改組 20周年記念展「高松市美術館コレクション+（プラス）ひびきあう音・色・形」開催 「美術館学習」事業開始
平成21年	高松市立美術館（高松市美術館・塩江美術館）の今後の運営方針を策定 収蔵品図録Ⅳを刊行 「美術館の日」事業開始
平成22年	開館時間の見直しにより、9時30分～17時（但し、特別展開催期間中の火～土曜日〔祝日含む〕は9時30分～19時） に移行 高校生以下の観覧料無料化を実施 高松市美術館・塩江美術館の共通定期観覧券発行 瀬戸内国際芸術祭2010連携企画「森村泰昌 Mori Enshōrei」「高松コンテンポラリーアート・アニュアルvol.01」 開催
平成24年	1月から3月まで臨時休館し、空調設備等の省エネ改修工事を実施 「高松市美術館サポートショップ」事業開始
平成25年	高松市美術館改修基本計画を策定 開館25周年記念展「チェブラーシカとロシア・アニメーションの作家たち」ほか4展を開催 開館25周年記念コンサート「坂本龍一 Playing the Piano Tribute to Shinro Ohtake」開催 高松市美術館の改修基本設計・実施設計を行った（実施設計は平成26年4月まで）

高松市美術館友の会

1. 会員数

区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度
一般会員	193人	257人	241人
賛助会員	6人(団体含む)	4人(団体含む)	5人(団体含む)

2. 事業

友の会の目的を達成するため、会報の発行、コンサート等芸術的催し物の開催、美術鑑賞旅行などの各種事業を実施した。

[会報誌の発行]

平成23年度 55号(平成23年9月)、56号(平成24年3月)
 平成24年度 57号(平成24年9月)、58号(平成25年3月)
 平成25年度 59号(平成25年9月)、60号(平成26年3月)

[コンサート]

場所：エントランスホール
 時間：18:30～
 入場料：会員無料、一般1,000円、高校生以下500円

平成23年度

ソプラノとフルートの夕べ

6月1日(水)
 演奏者：徳井えりな(ソプラノ)、綾野真由美(ピアノ)
 西村絵梨名(フルート)、尾崎綾(ピアノ)
 参加人数：90人

魅惑の響き ハープ&ヴァイオリン

9月10日(土)
 演奏者：松本彩(ハープ)、和田絵里子(ヴァイオリン)
 参加人数：126人
 展示作品：岡本信治郎《ベティ・ブープの国》1974年

平成24年度

七夕スペシャルコンサート

夜空に響くサクソフォーンとピアノの調べ
 7月7日(土)
 演奏者：國末貞仁(サクソフォーン)、大堀晴津子(ピアノ)
 参加人数：186人

歌と古楽器によるバロック音楽の調べ

11月10日(土)
 演奏者：古楽アンサンブルReine(ライネ)
 石川陽子(チェンバロ)、砂山佳美(フラウト・トラヴェルソ)、
 境恵輔(ヴィオラ・ダ・ガンバ)、鎗木綾(ソプラノ)
 参加人数：172人

平成25年度

ピアノの調べ 美術の森の音楽会

7月6日(土)
 演奏者：田村真穂(ピアノ)
 参加人数：149人

サクソ・マリンバの響き

10月19日(土)
 演奏者：泉川亜耶(マリンバ)、野崎風太(サクソフォーン)、
 大藤雅士(サクソフォーン)
 参加人数：139人

[鑑賞旅行]

平成23年度

京都アート紀行

京都市美術館、京都国立近代美術館
 6月28日(火) 参加人数30人



大阪アート紀行

大阪市立美術館、大阪市立東洋陶磁美術館
11月19日(土) 参加人数：24人

愛媛アート紀行

愛媛県美術館、砥部焼観光センター・砥部焼の里、
七折梅園(梅まつり)
2月25日(土) 参加人数：39人

平成24年度

豊島・犬島アート紀行

豊島美術館、犬島 精錬所
7月21日(土) 参加人数 40人

神戸・大阪アート紀行

神戸市立博物館、国立国際美術館
11月17日(土) 参加人数 39人

金沢アート紀行

金沢21世紀美術館・石川県立美術館・兼六園 ほか
3月2日(土)ー3日(日) 参加人数 25人

平成25年度

大阪・兵庫アート紀行

大阪市立美術館・兵庫県立美術館
6月15日(土) 参加人数 39人

京都アート紀行

京都市美術館・銀閣寺・京都国立近代美術館
11月16日(土) 参加人数 40人

神戸アート紀行

神戸市立博物館、兵庫県立美術館、
神戸ハーバーランドほか
3月1日(土) 参加人数：40人



[催し]

会員特典の一つとして、平成23年度には、閉館後に学芸員の話をお聞きながらゆっくりと展覧会鑑賞をする会員限定の「スペシャルギャラリートーク」を実施した。平成24年度、25年度は、「スペシャル・イベント」「イベント」を開催し、ワークショップや講演会を実施した。

平成23年度

スペシャルギャラリートーク

「トリック・アートの世界展」

5月8日(日)
講師：牧野裕二(当館学芸員)
参加人数：11人

「追悼 人間国宝 三代 徳田八十吉展」

6月26日(日)
講師：川西弘一(当館学芸員)
参加人数：10人

「小谷元彦展—幽体の知覚」

8月27日(土)
講師：毛利直子(当館学芸員)
参加人数：10人



「リサとガスパール&ペネロペ展」

10月9日(日)
講師：三宅靖之(当館学芸員)
参加者：14人

平成24年度

スペシャル・イベント

「春の京都から、日本画名品展」

4月28日(土)
講師：川西弘一(当館学芸員)
参加人数：37人

「すべての僕が沸騰する 村山知義の宇宙」

「知義の童画と籌子の詩」

6月20日(水)
朗読：前田圭見(瀬戸内海放送アナウンサー)
参加人数：16人



「高松コンテンポラリーアート・アニュアルvol.02
—贈り物と交換—」

「コトバによる作品鑑賞体験」

9月4日(火)
講師：多田達代(友の会監事)
参加人数：6人



「ウルトラマン・アート！

時代と創造—ウルトラマン&ウルトラセブン」

「特撮気分で！ミニチュアの世界を撮影してみませんか？」

10月20日(土)
講師：高橋章(写真家)
参加人数：9人

「小さな世界へようこそ！」
渡辺おさむワークショップ
「スイーツ・デコに挑戦！」

2月10日(日)
講師：渡辺おさむ(美術家)
参加人数：20人



平成25年度
スペシャル・イベント

「チェブラーシカとロシア・アニメーションの作家たち」
「テルミンを奏でてみませんか♪」

5月19日(日)
講師：中村隆子(テルミン・マトリョミン奏者)
参加人数：21人



「大竹伸朗展 憶速」
「コラージュ豆本」

8月31日(土)
講師：鳥谷灯子(豆本作家)
参加人数：14人

「グランマ・モーゼスと近代絵画 一損保ジャパン東郷
青児美術館コレクションより」
「紙版画でマイバッグを作ろう」

9月29日(日)
講師：yuuco(イラストレーター)
参加人数：12人



「高松コンテンポラリーアート・アニュアルvol.03
DAYDREAMS / 夢のゆくえ」

「ドリーミータンブラーを作ろう」

11月23日(土)
講師：両岡健太(画家)
参加人数：5人

「没後50年 磯井如真展」
「人間国宝 山下義人先生による
初心者でもわかる漆講座」

3月22日(土)
講師：山下義人(漆芸家)
参加人数：28人



平成24年度
イベント

もっと知りたい！美術の力
ワークショップ
「眼を閉じて、作品をみてみよう」

12月15日(土)
講師：栗田晃宜(県立盲学校教諭)
参加者：9人



アート・トークショー

「美術による再生
—病院をアートという名の母性で包む」

12月16日(日)
講師：森 合音
(四国こどもとおとなの医療センターホスピタルアート
ディレクター)
参加者：17人

平成25年度
イベント

高松市美術館開館25周年記念
山田五郎講演会

「1時間でわかる西洋美術の歴史」
10月5日(土)
講師：山田五郎(編集者・評論家)



高松市美術館友の会会則

名称及び事務所

第1条 この会は、高松市美術館友の会(以下「友の会」という。)といい、事務所を高松市美術館(以下「美術館」という。)内に置く。

目的

第2条 友の会は、美術に関心を持つ人々の美術鑑賞や研究調査の便宜を図り、会員相互の親睦を深めるとともに、美術館の活動を援助することを目的とする。

事業

第3条 友の会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 美術の鑑賞
- (2) 芸術的催物の開催
- (3) 会報の発行
- (4) その他友の会の目的達成のために必要な事業

会員

第4条 会員とは、第2条の目的に賛同した次の個人及び法人で所定の会費を納入した者をいう。

- (1) 一般会員(個人)
 - (2) 賛助会員(個人及び法人)
- 2 会員に会員証を発行する。

会費

第5条 会費は前納とし、金額は次のとおりとする。

- | | | | |
|----------|----|----|--------|
| (1) 一般会員 | 年額 | 1人 | 800円 |
| (2) 賛助会員 | 年額 | 1口 | 5,000円 |
- 2 会員の中途退会による会費の払戻しは行わない。

特典

第6条 会員は、次の特典を受けることができる。

- (1) 一般及び賛助会員は、常設展及び美術館主催の特別展を2割引で鑑賞できる。
- (2) 賛助会員は、常設展及び美術館主催の特別展を同伴者4人まで2割引で鑑賞できる。
- (3) ミュージアム・ショップが割引で利用できる。
- (4) 友の会主催の各種催物に優先的に参加できる。
- (5) 会報等の美術情報の提供を受けることができる。
- (6) その他会長が定めるもの。

役員

第7条 友の会に次の役員を置き、任期は2年とする。ただし、後任者が選任されるまで在任する。

- (1) 会長 1人
- (2) 副会長 2人
- (3) 常務理事 1人
- (4) 理事 若干名
- (5) 監事 2人

2 役員は、再任されることができる。

3 補欠役員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 友の会に顧問を置くことができる。

5 理事及び監事は、理事会において選考し、総会の承認を得るものとする。

6 会長・副会長及び常務理事は、理事の互選により定める。

7 顧問は理事会で推薦し、会長が委嘱する。

役員職務

第8条 役員職務は、次のとおりとする。

- (1) 会長は友の会を代表し、会務を総理する。
- (2) 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその任務を代行する。
- (3) 常務理事は日常の会務を処理する。
- (4) 理事は理事会を構成し、会務を処理する。
- (5) 監事は会計その他を監査する。
- (6) 顧問は会長の諮問に応じ、意見を述べることができる。

総会

第9条 総会は毎年1回定期総会を、必要に応じて臨時総会を会長が招集し、会議の議長は会長がこれに当たる。

2 総会に付議する事項は、概ね次のとおりとする。

- (1) 会則の改廃に関すること。
- (2) 役員承認に関すること。
- (3) 事業計画及び予算の承認に関すること。
- (4) 事業報告及び決算の承認に関すること。

理事会

第10条 理事会は必要の都度会長が招集し、会議の議長は会長がこれに当たる。

2 理事会は、友の会の運営について協議するとともに重要事項を審議する。

3 理事会は、構成員の過半数の出席をもって成立する。

企画委員会

第11条 友の会事業の執行に当たり理事会が必要と認めるときは、企画委員会を設置することができる。

2 企画委員会は、会員及び美術館関係者の中から会長が委嘱した企画委員で組織し、友の会事業の企画・立案に当たる。

議決

第12条 友の会の議決はすべて出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が決する。

ただし、会則の改廃については、出席者の3分の2以上の同意を得なければならない。

議事録

第13条 総会及び理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 総会又は理事会の日時及び場所
- (2) 役員の数
- (3) 総会又は理事会に出席した役員の氏名及び総会に出席した会員の数
- (4) 審議事項及び議決事項
- (5) 議事の経過の概要及びその結果
- (6) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、当該総会又は理事会の出席者のうちから選任された議事録署名人2人以上が、議長とともに署名押印しなければならない。

会計

第14条 友の会の経費は、会費、寄付金、事業収入及びその他の収入をもってこれに充てる。

2 友の会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるものとする。

事務局

第15条 友の会の事務を処理するため、必要な職員を置くことができる。

2 職員は会長が任免する。

委任

第16条 この会則に定めるもののほか、必要な事項は、理事会において定める。

附則

1 この会則は、昭和28年4月1日から施行する。

(平成27年度の会員の特例)

2 平成26年度に会員であった者に係る平成27年度の特例については、次に掲げるとおりとする。

(1) 平成26年度に会員であった者は、平成27年度に限り、第5条第1項各号の規定にかかわらず会費は不要とし、第4条第1項に規定する会費を納入した者とみなし、会員とする。ただし、本人から退会の申し出があった場合は、この限りでない。

(2) 前号の規定により、平成27年度の会員となる者には、第4条第2項の規定にかかわらず、会員証を発行しない。

附則

この会則は、昭和42年7月1日から施行する。

附則

この会則は、昭和44年4月29日から施行する。

附則

この会則は、昭和49年5月19日から施行する。

附則

この会則は、昭和63年4月1日から施行する。

附則

この会則は、平成4年4月1日から施行する。

附則

この会則は、平成5年4月1日から施行する。

附則

この会則は、平成9年5月18日から施行する。

附則

この会則は、平成21年4月26日から施行する。

附則

この会則は、平成22年3月15日から施行する。

附則

この会則は、平成23年4月1日から施行する。

附則

この会則は、平成26年4月26日から施行する。

平成 23・24・25 年度 高松市美術館・高松市塩江美術館年報

発行 高松市美術館
香川県高松市紺屋町 10-4
電話 087-823-1711
高松市塩江美術館
香川県高松市塩江町安原上 602
電話 087-893-1800

編集 牧野裕二・翠さやか・笠井麻優美(高松市美術館)
毛利義嗣・戸田香緒里(高松市塩江美術館)

デザイン 福田千恵・翠さやか(高松市美術館)

印刷 株式会社 太陽社

発行日 平成 27 年 3 月 31 日(非売品)